

渡里町遺跡

(第 22 地点)

— 集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

渡
里
町
遺
跡
(
第
22
地
点
)



二〇一六

2016

水戸市教育委員会

渡里町遺跡

(第 22 地点)

— 集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2016

水戸市教育委員会

ごあいさつ

渡里町遺跡は、那須茶臼岳を水源とする那珂川下流域右岸の台地上に位置しております。この渡里町遺跡の周辺には、古代常陸国那賀郡の寺院・官衙遺跡である国指定史跡「台北渡里官衙遺跡群」や、県下有数の規模を誇る前方後円墳である国指定史跡「愛宕山古墳」等が残されており、古くから政治・文化の中心地域であったと考えられます。

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことはできません。そのため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えいかなければならない貴重な財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においても、その意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた埋蔵文化財の保護・保存に努めているところです。

このたびの調査は、当該遺跡内に共同住宅の建築工事が計画され、遺跡への影響が予想されたため、文化財保護の観点から十分に協議を重ねました。しかしながら、遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り、次善の策として発掘調査を実施し、記録の上での保存措置を講ずることとしたものです。

本調査では、縄文時代から近世にかけての遺構や遺物が数多く確認され、特に、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡が多数検出されました。これらの住居跡の中には、刀子や円面硯等の遺物を出土したものもあり、古代那賀郡衙が存在した時代における地域社会の様子を解明していく上での貴重な資料を得ることができました。

ここに刊行する本書が、かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました関係者の皆様にここから感謝を申し上げます。

平成 28 年 3 月

水戸市教育委員会
教育長 本 多 清 峰

目 次

ごあいさつ 目次 例言 凡例	
第1章 調査に至る経緯と経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 発掘作業の経過.....	1
第3節 整理作業の経過.....	2
第2章 遺跡の位置と環境.....	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第3節 御茶園遺跡における既往の調査.....	9
第3章 調査の方法と成果.....	10
第1節 調査の方法.....	10
第2節 基本層序.....	10
第3節 調査の概要.....	13
第4節 検出された遺構と遺物.....	14
1 繩文時代.....	14
2 弥生時代.....	17
3 古墳時代から平安時代.....	18
4 中世以降.....	90
第4章 総括.....	98
参考文献.....	102
写真図版	
報告書抄録・奥付	

挿図目次

第 1 図 渡里町遺跡の位置.....	3	第 38 図 第 10 号住居跡の出土遺物（1）..	57
第 2 図 渡里町遺跡と周辺遺跡位置.....	4	第 39 図 第 10 号住居跡の出土遺物（2）..	58
第 3 図 渡里町遺跡と周辺の遺跡一覧.....	5	第 40 図 第 11 号住居跡.....	60
第 4 図 基本層序図.....	10	第 41 図 第 11 号住居跡の出土遺物.....	61
第 5 図 調査区の位置.....	11	第 42 図 第 12 号住居跡.....	63
第 6 図 全体遺構分布図.....	12	第 43 図 第 12 号住居跡カマド.....	64
第 7 図 第 7 号土坑.....	14	第 44 図 第 12 号住居跡の出土遺物（1）..	64
第 8 図 第 3・10・11 号ピット	15	第 45 図 第 12 号住居跡の出土遺物（2）..	65
第 9 図 銀文時代の遺構外出土遺物.....	16	第 46 図 第 13 号住居跡.....	68
第 10 図 弥生時代の出土遺物	17	第 47 図 第 13 号住居跡カマド.....	69
第 11 図 第 1 号住居跡.....	19	第 48 図 第 13 号住居跡の出土遺物.....	70
第 12 図 第 1 号住居跡カマド.....	21	第 49 図 第 14 号住居跡.....	72
第 13 図 第 1 号住居跡の出土遺物.....	22	第 50 国 第 14 号住居跡カマド.....	73
第 14 国 第 2 号住居跡.....	24	第 51 国 第 14 号住居跡の出土遺物.....	73
第 15 国 第 2 号住居跡カマド.....	25	第 52 国 第 1 号掘立柱建物跡.....	75
第 16 国 第 2 号住居跡の出土遺物（1）..	25	第 53 国 第 1 号掘立柱建物跡の出土遺物..	76
第 17 国 第 2 号住居跡の出土遺物（2）..	26	第 54 国 第 1 号掘立柱建物跡.....	80
第 18 国 第 3 号住居跡.....	28	第 55 国 第 2 号掘立柱建物跡ピット.....	81
第 19 国 第 3 号住居跡の出土遺物.....	29	第 56 国 第 2 号掘立柱建物跡の出土遺物..	83
第 20 国 第 4 号住居跡.....	31	第 57 国 第 1 号ピット列.....	84
第 21 国 第 4 号住居跡カマド.....	33	第 58 国 第 4 号ピット.....	85
第 22 国 第 4 号住居跡の出土遺物.....	34	第 59 国 第 4 号ピットの出土遺物.....	85
第 23 国 第 5 号住居跡.....	36	第 60 国 第 5 号ピット.....	86
第 24 国 第 5 号住居跡の出土遺物.....	36	第 61 国 第 14 号ピット.....	86
第 25 国 第 6 号住居跡.....	37	第 62 国 第 15 号ピット.....	87
第 26 国 第 7 号住居跡.....	39	第 63 国 古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物..	88
第 27 国 第 7 号住居跡カマド.....	40	第 64 国 第 1 号土坑.....	90
第 28 国 第 7 号住居跡の出土遺物.....	41	第 65 国 第 1 号溝跡.....	91
第 29 国 第 8 号住居跡.....	43	第 66 国 第 2 号土坑.....	92
第 30 国 第 8 号住居跡の出土遺物.....	44	第 67 国 第 3 号土坑.....	92
第 31 国 第 9 号住居跡カマド.....	46	第 68 国 第 4 号土坑.....	93
第 32 国 第 9 号住居跡（1）.....	48	第 69 国 第 5 号土坑.....	93
第 33 国 第 9 号住居跡（2）.....	49	第 70 国 第 6 号土坑.....	93
第 34 国 第 9 号住居跡の出土遺物（1）..	50	第 71 国 中世以降のピット.....	94
第 35 国 第 9 号住居跡の出土遺物（2）..	51	第 72 国 中世以降の遺構外出土遺物.....	95
第 36 国 第 9 号住居跡の出土遺物（3）..	52		
第 37 国 第 10 号住居跡.....	56		

表目次

第 1 表 渡里町遺跡と周辺の遺跡一覧.....	5	第 32 表	
第 2 表 繩文時代ピット属性一覧.....	15	第 10 号住居跡出土石器属性一覧.....	58
第 3 表 繩文時代出土土器属性一覧.....	16	第 33 表 第 11 号住居跡ピット属性一覧....	59
第 4 表 繩文時代出土石器属性一覧.....	16	第 34 表	
第 5 表 弥生時代出土土器属性一覧.....	17	第 11 号住居跡出土土器属性一覧.....	61
第 6 表 第 1 号住居跡ピット属性一覧.....	20	第 35 表 第 12 号住居跡ピット属性一覧....	62
第 7 表 第 1 号住居跡出土土器属性一覧....	22	第 36 表 第 12 号住居跡ピット属性一覧....	66
第 8 表 第 2 号住居跡ピット属性一覧.....	24	第 37 表	
第 9 表 第 2 号住居跡出土土器属性一覧....	27	第 12 号住居跡出土石器属性一覧 (1)....	53
第 10 表 第 2 号住居跡出土土器属性一覧....	27	第 38 表	
第 11 表 第 3 号住居跡ピット属性一覧.....	29	第 12 号住居跡出土土器属性一覧 (2)....	54
第 12 表 第 3 号住居跡出土土器属性一覧....	29	第 39 表 第 13 号住居跡ピット属性一覧....	67
第 13 表 第 4 号住居跡ピット属性一覧....	30	第 40 表 第 13 号住居跡出土土器属性一覧..	70
第 14 表		第 41 表 第 14 号住居跡ピット属性一覧....	72
第 4 号住居跡出土土器属性一覧 (1)....	34	第 42 表 第 14 号住居跡出土土器属性一覧..	74
第 15 表		第 43 表	
第 4 号住居跡出土土器属性一覧 (2)....	35	第 1 号掘立柱建物跡ピット属性一覧.....	76
第 16 表 第 4 号住居跡出土土器属性一覧....	35	第 44 表	
第 17 表 第 5 号住居跡ピット属性一覧.....	36	第 1 号掘立柱建物跡出土瓦属性一覧.....	76
第 18 表 第 5 号住居跡出土土器属性一覧....	37	第 45 表	
第 19 表 第 7 号住居跡ピット属性一覧.....	40	第 2 号掘立柱建物跡ピット属性一覧 (1)....	82
第 20 表		第 46 表	
第 7 号住居跡出土土器属性一覧 (1)....	41	第 2 号掘立柱建物跡ピット属性一覧 (2)....	82
第 21 表		第 47 表	
第 7 号住居跡出土土器属性一覧 (2)....	42	第 2 号掘立柱建物跡出土土器属性一覧....	83
第 22 表 第 7 号住居跡出土瓦属性一覧....	42	第 48 表	
第 23 表 第 8 号住居跡ピット属性一覧.....	42	第 2 号掘立柱建物跡出土瓦属性一覧....	83
第 24 表 第 8 号住居跡出土土器属性一覧..	44	第 49 表 第 1 号ピット列ピット属性一覧...	85
第 25 表 第 9 号住居跡ピット属性一覧.....	47	第 50 表 第 4 号ピット出土瓦属性一覧....	85
第 26 表		第 51 表	
第 9 号住居跡出土土器属性一覧 (1)....	53	古墳時代から平安時代出土器属性.....	89
第 27 表		第 52 表 中世以降のピット属性一覧.....	95
第 9 号住居跡出土土器属性一覧 (2)....	54	第 53 表 中世以降出土土器属性一覧.....	95
第 28 表		第 54 表 中世以降出土銅製品属性一覧....	95
第 9 号住居跡出土土器属性一覧 (2)....	55	第 55 表	
第 29 表 第 9 号住居跡出土瓦属性一覧....	55	渡里町遺跡第 22 地点出土遺物計量表 (1).	96
第 30 表 第 10 号住居跡ピット属性一覧....	57	第 56 表	
第 31 表		渡里町遺跡第 22 地点出土遺物計量表 (2).	97
第 10 号住居跡出土土器属性一覧.....	58		

写真図版目次

- 図版 1 第1・2区調査区完掘
- 図版 2 第1・2号住居跡完掘, 第1・2号住居跡土層断面, 第1号住居跡カマド完掘, 第1号住居跡カマド土層断面
- 図版 3 第2号住居跡カマド完掘, 第2号住居跡カマド土層断面, 第3・4号住居跡完掘, 第3・4号住居跡土層断面
- 図版 4 第4～6号住居跡土層断面, 第4号住居跡カマド完掘, 第4号住居跡カマド土層断面, 第5～7号住居跡完掘
- 図版 5 第3・7号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡カマド完掘, 第7号住居跡カマド土層断面, 第7号住居跡カマド遺物出土状況, 第8号住居跡完掘, 第8号住居跡土層断面
- 図版 6 第9号住居跡完掘, 第9号住居跡土層断面, 第9号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡カマド完掘, 第9号住居跡カマド土層断面
- 図版 7 第9号住居跡カマド土層断面, 第9号住居跡1号土坑完掘, 第10・11号住居跡完掘, 第10・11号住居跡土層断面
- 図版 8 第12号住居跡完掘, 第12号住居跡土層断面, 第12号住居跡遺物出土状況, 第12号住居跡カマド完掘, 第12号住居跡カマド土層断面
- 図版 9 第13・14号住居跡完掘, 第13・14号住居跡土層断面, 第13号住居跡カマド完掘, 第13号住居跡カマド土層断面
- 図版 10 第14号住居跡土層断面, 第14号住居跡カマド完掘, 第14号住居跡カマド土層断面, 第1号掘立柱建物跡完掘, 第1号掘立柱建物跡5号ピット完掘, 第1号掘立柱建物跡5号ピット土層断面
- 図版 11 第1号掘立柱建物跡6～8号ピット完掘, 第1号掘立柱建物跡8号ピット土層断面, 第2号掘立柱建物跡完掘, 第2号掘立柱建物跡1号ピット完掘, 第2号掘立柱建物跡1号ピット土層断面
- 図版 12 第2号掘立柱建物跡2～6号ピット完掘, 第2号掘立柱建物跡2～5号ピット土層断面
- 図版 13 第2号掘立柱建物跡7・8・13号ピット完掘, 第2号掘立柱建物跡7・8・13号ピット土層断面, 第1号ピット列完掘, 第1号ピット列1・3号ピット完掘, 第1号溝跡完掘
- 図版 14 第1～7号土坑完掘, 第3・4・10号ピット完掘, 第4・5号土坑土層断面
- 図版 15 第5・14・15号ピット完掘, 第14・15号ピット土層断面, 1・2区基本土層
- 図版 16 繩文時代遺構外出土遺物1～8, 弥生時代遺構外出土遺物1～4, 第1号住居跡出土遺物1～4
- 図版 17 第1号住居跡出土遺物5, 第2号住居跡出土遺物1～4
- 図版 18 第2号住居跡出土遺物5・6, 第3号住居跡出土遺物1・2, 第4号住居跡出土遺物1～3
- 図版 19 第4号住居跡出土遺物4～9, 第5号住居跡出土遺物1

- 国版 20 第 7 号住居跡出土遺物 1 ~ 7
- 国版 21 第 8 号住居跡出土遺物 1 ~ 5, 第 9 号住居跡出土遺物 1 ~ 2
- 国版 22 第 9 号住居跡出土遺物 3 ~ 10
- 国版 23 第 9 号住居跡出土遺物 11 ~ 17
- 国版 24 第 9 号住居跡出土遺物 18 ~ 25
- 国版 25 第 9 号住居跡出土遺物 26 ~ 33
- 国版 26 第 9 号住居跡出土遺物 34 ~ 37, 第 10 号住居跡出土遺物 1 ~ 3
- 国版 27 第 10 号住居跡出土遺物 4 ~ 11
- 国版 28 第 10 号住居跡出土遺物 12, 第 11 号住居跡出土遺物 1 ~ 4, 第 12 号住居跡出土遺物 1 ~ 2
- 国版 29 第 12 号住居跡出土遺物 3 ~ 8, 第 13 号住居跡出土遺物 1 ~ 2
- 国版 30 第 13 号住居跡出土遺物 3 ~ 6, 第 14 号住居跡出土遺物 1 ~ 4
- 国版 31 第 1 号掘立柱跡出土遺物 1, 第 2 号掘立柱跡出土遺物 1 ~ 2, 第 4 号ピット出土遺物 1, 古墳時代~奈良時代遣構外出土遺物 1 ~ 3
- 国版 32 古墳時代~奈良時代遣構外出土遺物 4 ~ 10
- 国版 33 古墳時代~奈良時代遣構外出土遺物 11 ~ 12, 中世時代遣構外出土遺物 1 ~ 2

例　　言

1. 本書は、水戸市に所在する渡里町遺跡（第22地点）の発掘調査報告書である。
2. 調査は水戸市教育委員会の指導のもと、関東文化財振興会株式会社が実施した。
3. 調査の概要は下記の通りである。

所在地 茨城県水戸市渡里町字八幡前 2595-1-5~7 の各番地地内

調査面積 379.693 m²

調査期間 平成27年8月25日～平成27年9月30日

調査指導 米川暢敬（水戸市教育委員会事務局 教育部 歴史文化財課 埋蔵文化財センター 文化財主事）

調査担当 林 邦雄、山下瑛梨香、石松 直（関東文化財振興会株式会社調査研究員）

調査参加者 石川 勉、石崎寿子、市毛友宣、大越慶子、大山晴美、栗原芳子、黒須秀昭、佐々木由二、清水 吾、白土和夫、鈴木潤一、谷川明正、平井百合子

4. 本書の執筆・編集は、第1章第1節を水戸市教育委員会が、第1章第2節から第4章までを水戸市教育委員会の指導を受けて関東文化財振興会株式会社の林・山下・石松が担当した。

5. 遺物の写真撮影は宮田和男（関東文化財振興会株式会社）が行い、遺構・遺物図面のデジタルトレースは対馬むつみ（関東文化財振興会株式会社）が行っている。

6. 調査組織は下記のとおりである。

水戸市教育委員会教育長 本田 清峰

事務局

中里 誠志郎 教育部長

白石 嘉亮 教育部歴史文化財課長事

飯村 博史 埋蔵文化財センター所長

米川 暢敬 埋蔵文化財センター文化財主事

太田 有里乃 埋蔵文化財センター主事

丸山 優香里 埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

昆 志穂 埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

下山 はる奈 埋蔵文化財センター埋蔵文化財専門員

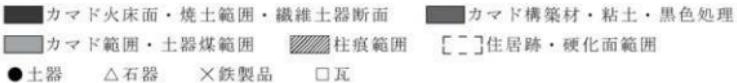
7. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（敬称略・順不同）。

浅野啓介、青山俊明、荒井秀規、飯島一生、今尾文昭、岡本東三、大塚初重、

川崎純徳、川尻秋生、瓦吹 堅、木本好信、黒澤彰哉、後藤道雄、斎藤弘道、坂井秀弥、清野孝之、関根唯充、高島英之、馬場 基、日高 慎、山路直充、山中敏史、山本 崇、山本典幸、横倉要次、渡辺晃宏、茨城県教育庁文化課、

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、文化庁文化財部記念物課、古川登記測量事務所、東新建設株式会社

凡　　例

1. 本書に記してある座標値は、世界測地系第IX系を用いている。方位は座標北を示す。また、標高は海拔高である。
2. 本文中の色調表現は、『新版標準土色帖』2008年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。
3. 掲載した図面の基本縮尺は、以下の通りである。
遺構図　調査区全体図　1/300
住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・ピット　1/30・1/60・1/80
なお、変則的な縮尺を用いた場合には、スケールによりその縮尺率を表している。
遺物図　原則として1/3を原則とするが、錢貨のみ1/1とした。
4. 写真図版は、原則として実測図の縮尺に合わせて掲載した。また遺物番号は本文、挿絵図、写真図版と一致する。
5. 遺構・遺物実測図中のスクリーントーンおよび記号は、以下に示すとおりである。


■カマド火床面・焼土範囲・織維土器断面	■カマド構築材・粘土・黒色処理		
■カマド範囲・土器煤範囲	■柱痕範囲		
●土器	△石器	×鉄製品	□瓦
6. 平面図・断面図・遺物観察表・計量表などに用いた略記号は以下を示す。
柵列：S A　掘立柱建物跡　S B　溝跡：S D　住居跡：S I　土坑：S K
ピット：S PもしくはP　テストピット：T P　擾乱：K
7. 遺物観察表に付した（）は復元値、<>は残存値である。
8. 「主軸」はカマドを持つ堅穴住居跡についてはカマドを通る軸線とし、他の遺構については、長軸（長径）とみなした。また、「主軸（長軸）方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示している。
(例　N -10° - W)
9. 計量表における「壺類」「甕類」などは、遺物が小片であるため、壺（甕）や高壺（壺）、高台付壺（鉢）などと分類が困難であったものを、まとめて計量している。また、器種が判断できた遺物は独立させて項目を作っている。したがって「類」とつくものは別器種が混入している可能性をもつ。
10. 本遺跡の略号は201121-22である。遺物の注記もこれに従っている。

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年5月26日付けて、共同住宅建築工事に伴い、事業者から水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについての照会があった。

今般の事業計画地である水戸市渡里町2595-1外は、周知の埋蔵文化財包蔵地「渡里町遺跡」の範囲内に該当している。そのため、事業者から提出のあった事業計画に基づき、平成27年6月9日に試掘・確認調査を実施したところ、建築予定建物の直下に設定したトレーナーにおいて、溝跡や竪穴住居跡を多数検出し、事業地内における濃密な埋蔵文化財の分布を確認した。今回の事業計画は、共同住宅2棟の建築工事であり、その計画と試掘調査結果を重ね合わせたところ、検出された溝跡や竪穴住居跡等の埋蔵文化財への工事による影響が懸念されたことから、これらの埋蔵文化財に対し、市教委は、埋蔵文化財の保存のあり方について事業者との協議を重ねた。しかしながら、設計変更是困難であり、工事による埋蔵文化財への影響は不可避であるとの判断から、建築予定建物直下における遺構の現状保存は極めて困難であるとの結論に達した。このため市教委は、事業者から提出のあった文化財保護法第93条第1項に基づく届出について、建築予定建物2棟の直下における、次善の策としての記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべき旨、また、給排水管及びその他埋設物の埋設工事等に対し、市教委専門職員の工事立会いを実施すべき旨の意見書を付して、茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した。その後、平成27年8月11日付けて県教委教育長から事業者に対し、上記部分において工事着手前に発掘調査の実施を要すること、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する等の旨、指示・勧告があった。これを受けて事業者は、市教委、関東文化財振興会株式会社と発掘調査実施に係る協定書を締結したうえで、関東文化財振興会株式会社と発掘調査業務委託契約を締結し、当該調査を渡里町遺跡第22地点発掘調査として、平成27年8月25日から発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘作業の経過

発掘調査は、平成27年8月25日から平成27年9月30日で実施した。整理作業は、平成27年10月1日から実施している。調査経過の概略は以下のとおりである。

25日に調査区西側から表土掘削を開始した。擾乱が各所に大きく掘り込まれているが、確認精査を行った結果、住居跡が5軒、溝跡が1条、土坑・ピットが数基検出された。27日まで西側の表土掘削を行い、住居跡8軒（後に1軒追加される。）、土坑やピットが数基検出されている。東側と同様に擾乱が大きく掘り込まれている。調査区西側から遺構の掘削を始め、9月29日に遺構の掘削が終了して、9月30日に埋め戻しを完了して発掘調査は終了した。

第3節 整理作業の経過

整理作業は平成27年10月1日より平成28年3月20日までの約6ヶ月にわたって実施した。

10・11月期には遺物の洗浄・注記・接合作業と並行して、遺構の図化作業を、12月から翌年2月期には遺構図面の修正・トレース・遺物の実測・遺物写真の撮影・図版編集・原稿執筆などの作業を行い、3月期は図版編集・原稿執筆などの作業を行い、1日より15日にかけて報告書編集作業を実施した。

第2章 遺跡の位置と環境

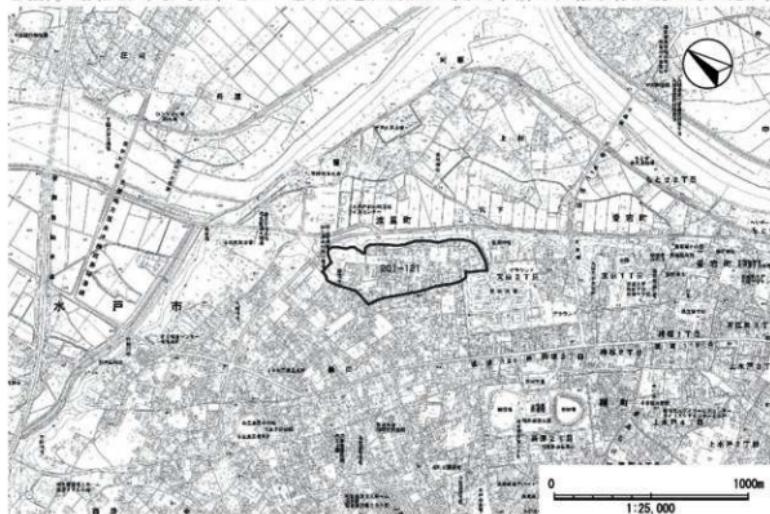
第1節 地理的環境

渡里町遺跡は、北緯36度24分24秒、東経140度26分19秒（世界測地系）の茨城県水戸市渡里町2595-1・-5～-7ほかに所在する。

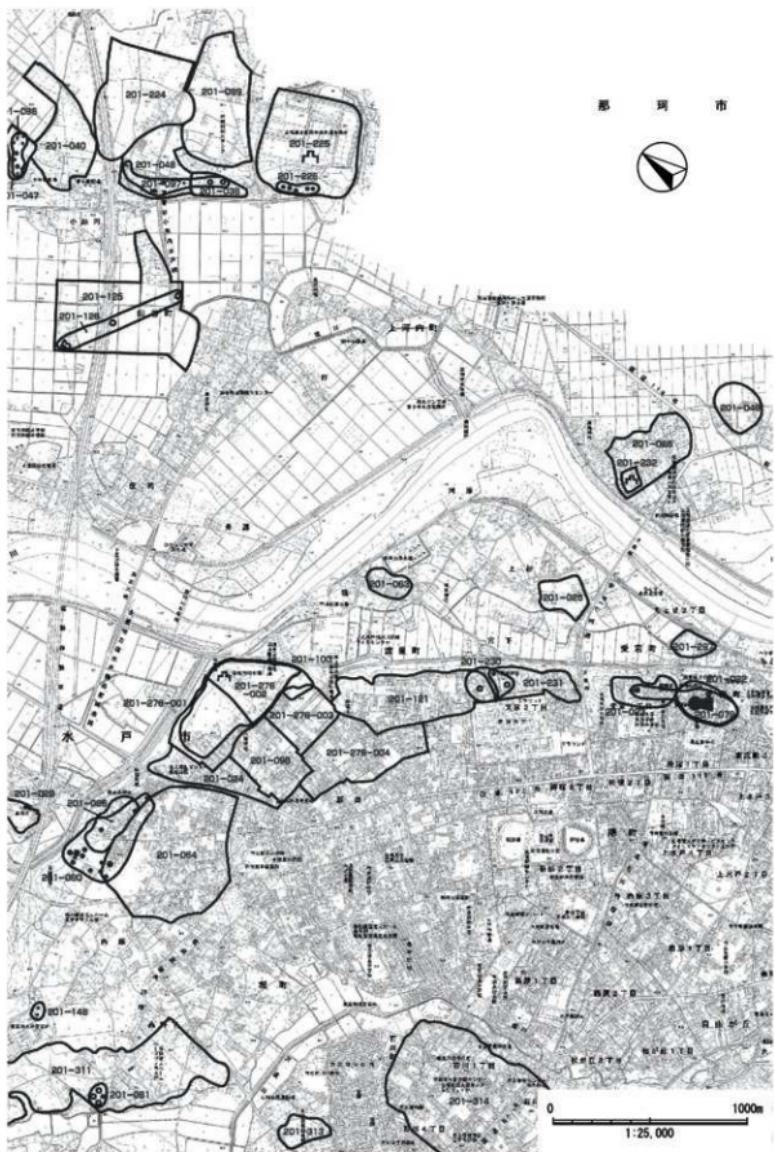
渡里町遺跡が所在する水戸市渡里地区は、北を那珂川に、南を桜川に挟まれた通称「上市台地」と呼ばれる那珂川によって形成された河岸段丘上に位置しており、南北方向に流れていた那珂川が渡里地区付近で緩やかに東の方向へ蛇行していく場所である（第1図）。渡里という地名がいつ頃まで通り得るのか定かではないが、渡河点との関わりが想定される地名である。上市台地の東側斜面から斜面下にかけては愛宕町滝坂の曝井推定地に代表される湧水点が点在しており、古くから住み良い土地であったと考えられる。低地との比高は約30mである。今回の調査地点は、那珂川が東へ蛇行する場所から南西方向に向かつて入り込む谷津の南東側の台地上である。

第2節 歴史的環境

渡里町遺跡は、水戸市の北東側に位置し、国指定史跡「台渡里官衙遺跡群」の南東側、同じく国指定史跡「愛宕山古墳」の北西側に広がる遺跡である。那珂川を見下ろす標高31～34mの台地縁に沿って広がっており、その範囲は東西約150m、南北約700mにも及ぶ（第2図）。昭和20年までは、この一帯に畠地が広がっており、所々に雑木林が残っていたが、



第1図 渡里町遺跡の位置（国土地理院発行1:25,000「水戸」に加筆）



第2図 渡里町遺跡の周辺遺跡位置（茨城県遺跡地図1:25,000に加筆）

第1表 渡里町遺跡と周辺の遺跡一覧

遺跡番号	遺 跡 名	種 類	時 代・時 期						備 考	
			古 石	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 世		
	並松町遺跡	集落跡		○						
022	愛宕町遺跡	集落跡		○	○	○				
023	文京1丁目遺跡	集落跡		○	○	○	○			
024	アラヤ遺跡	集落跡		○		○	○			
025	上杉遺跡	包藏地								
026	西原遺跡	集落跡			○		○			
029	安戸星遺跡	集落跡			○	○				
038	梵天遺跡	集落跡		○	○	○				
040	平塚遺跡	集落跡			○	○				
047	富士山遺跡	集落跡								
048	小原内遺跡	集落跡			○	○	○			
049	中河内上坪遺跡	集落跡			○	○	○			
063	坪渡里遺跡	集落跡				○	○			
064	堀遺跡	集落跡			○	○	○		H5～7調査	
065	中河内遺跡	集落跡				○	○			
079	愛宕山古墳群	古墳群				○			前方後円墳2(愛宕山古墳は国指定史跡)、円墳2一部埋滅	
080	西原古墳群	古墳群				○			前方後円墳1、円墳11一部埋滅	
081	堀町面古墳	古墳					○	○		円墳1
096	富士山古墳群	古墳群			○	○			前方後円墳1、円墳8	
097	小原内古墳群	古墳群				○			前方後円墳1、円墳4一部埋滅	
098	台渡里庵寺跡	寺院跡	○	○	○	○	○	○	国指定史跡	
099	田谷遺跡	官衙跡					○			
100	長者山城跡	城館跡						○		
121	渡里町遺跡	集落跡	○		○	○				
125	塚宮遺跡	集落跡	○	○	○					
126	塚宮古墳群	古墳群				○			前方後円墳1、円墳2埋滅	
148	山田A古墳群	古墳群				○			円墳1、一部埋滅	
224	砂川遺跡	集落跡	○			○			S55・56調査	
225	白石遺跡									
226	白石古墳群									
230	笠原神社古墳	古墳群	○		○				円墳3一部埋滅	
231	文京2丁目遺跡	集落跡			○	○	○			
232	中河内城館跡	城館跡						○		
276	台渡里官衙遺跡	官衙跡	○	○		○	○	○		
297	ちとせ2丁目遺跡	包藏地								
311	高野下遺跡	包藏地								
313	野田原遺跡	包藏地					○			
314	西堀原遺跡	包藏地					○			

昭和40年代の後半から徐々に宅地化が進み、往時の景観が失われつつある。渡里町遺跡が立地する那珂川流域の台地上には先土器時代から近代に至るまでの多数の集落跡と古墳・横穴、寺院跡・官衙跡、城館跡が確認されている（第2図、第1表）。以下では周辺の遺跡を今回検出された遺構の時期である縄文時代から近世の遺跡を中心に概観する。

（1）縄文時代

縄文時代の遺跡は、並松町遺跡（21）、愛宕町遺跡（22）、文京1丁目遺跡（23）、アラヤ遺跡（24）、梵天遺跡（38）、小原内遺跡（48）、茨城高等学校遺跡（62）、台渡里廃寺跡（98）、渡里町遺跡（121）、塚宮遺跡（125）、西宮遺跡（144）、砂川遺跡（224）、白石遺跡（225）、笠原神社古墳（230）、台渡里官衙遺跡群（276）などが該当する。発掘調査が行われた遺跡は少なく、大半の遺跡が踏査により確認されている。

アラヤ遺跡は数次にわたり発掘調査が行われているが、縄文時代早期後葉の茅山下層式期から晚期中葉千網式期の遺構や遺物が確認されている。この遺構群は那珂川の支流である田野川沿いに広がっていて、当該期における集落の立地を考えるうえで好例の史料である。今回の調査地点である渡里町遺跡では、縄文時代早期稻荷原式期から中期後葉加曾利式期の住居跡や土坑、遺物などが多数検出されている。特に渡里町遺跡中央部や北側から、南側にかけて、中期中葉阿玉台式期から加曾利E式期を中心とした時期の遺構や遺物が多数確認されていて、アラヤ遺跡同様に河川沿いの台地上に集落が展開していたと考えられる。砂川遺跡からは、縄文時代中期後葉加曾利E式期の住居跡などが多数検出され、同一集落内で円形、隅丸方形、楕円形のものから構成され、炉の形態には地床炉、石囲い炉、埋設炉と多様であるが、時期による形態差は認められない。白石遺跡からは、加曾利E式期の住居跡が数軒検出されている。台渡里官衙遺跡群の北西側より、縄文時代後期前葉堀之内式期から中葉加曾利B式期の遺物が多量に出土していて、この近辺に集落が展開していたと考えられる。また、第2図の北側になるが、軍民坂遺跡にて、県内でも類例の少ない土器埋設と石組の複式炉や小型石棒が確認されている。複式炉は東北地方にその分布の中心をもち、その住居跡からはオパール製の石織と報告される石器が出土していて、オパールは複式炉と同様に、東北地方が中心の石材であり、東北地方との関連性が強く注意を引く。

（2）弥生時代

弥生時代の遺跡は愛宕町遺跡、文京1丁目遺跡、西原遺跡（26）、安戸星遺跡（29）、梵天遺跡、平塚遺跡、小原内遺跡、中河内上坪遺跡（49）、堀遺跡（64）、安戸星古墳群（88）、台渡里廃寺跡、塚宮遺跡（125）、白石遺跡、文京2丁目遺跡（231）が該当する。踏査などにより弥生時代後期の土器の出土が確認されている遺跡が大半である。発掘調査が行われた当該期の数少ない遺跡は堀遺跡であり、弥生時代後期の住居跡から弥生時代と古墳時代の壺と坩が共伴して出土している。

(3) 古墳時代

渡里町遺跡の周辺における古墳時代の集落跡は愛宕町遺跡、文京1丁目遺跡、アラヤ遺跡、安戸星遺跡、梵天遺跡、中河内上坪遺跡、東上遺跡(61)、坪渡里遺跡(63)、堀遺跡、台渡里廃寺跡、渡里町遺跡、塚宮遺跡、宮西遺跡、巡見遺跡、馬場尻遺跡、仲根遺跡、白石遺跡、宮元遺跡(227)文京2丁目遺跡、台渡里官衙遺跡であり、古墳や古墳群として愛宕山古墳群(79)、西原古墳群(80)、小原内古墳群(97)、塚宮古墳群(126)、白石古墳群(226)、上河内大塚古墳(228)、一本松古墳(229)、笠原神社古墳が該当する。集落跡の大半は踏査により確認された遺跡であるが、台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡の成立時期と考えられている7世紀後半である古墳時代終末期は、本遺跡や掘遺跡などの台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡周辺の遺跡において、その関連集落が広く展開していたことは、発掘調査において確認されている。また、白石遺跡などから同時期の住居跡が検出されている。しかし、古墳時代前期から後期の集落跡は文京1丁目遺跡、堀遺跡、中河内遺跡、台渡里官衙遺跡などで遺構や遺物が少数確認されているのみで、その様相は不明な点が多い。しかし、台渡里官衙遺跡の南方、南前原地区において、幅7m程、深さ3m程の7世紀前葉と考えられる土師器の壺が出土した方形に区画された溝が検出され、豪族居館もしくは、評段階の初期官衙と考えられる遺構が検出されていることは、注意すべきである。

集落跡の周辺に営まれている古墳は、隠滅してしまった古墳も多いが、中期～終末期のものが確認されている。中期には国指定史跡愛宕山古墳や隠滅してしまった姫塚古墳が築造されている。愛宕山古墳は楕円形の周塚を巡らす大型の前方後円墳で、これらの古墳は5世紀前葉に築造されたと考えられる、後期の古墳群は小原内古墳群が該当する。埴輪を伴う古墳群で、6世紀代の築造と考えられる。終末期の古墳は、白石古墳群や西原古墳群などが該当する。西原古墳群は前方後円墳1基と円墳11基から構成される古墳群であるが、水戸市教育委員会などの発掘調査において、埴輪の伴う6世紀代から形成され、7世紀まで造墓活動が継続する古墳群と考えられている。白石古墳群は5基の円墳から構成され、埴輪を伴わない古墳である。凝灰岩片が散乱している古墳が存在することから、横穴式石室を伴う古墳が含まれると考えられている。上記以外の古墳以外は未詳である。

(4) 奈良・平安時代

渡里町遺跡の周辺における奈良・平安時代の遺跡は文京1丁目遺跡、アラヤ遺跡、西原遺跡、小原内遺跡、中河内上坪遺跡、東町遺跡、茨城高等学校遺跡、坪渡里遺跡、堀遺跡、台渡里廃寺跡、田谷遺跡(99)、渡里町遺跡、砂川遺跡、白石遺跡、文京2丁目遺跡、台渡里官衙遺跡、高野下遺跡、野田原遺跡(313)、西堀原遺跡(314)、見和一丁目遺跡(315)が該当する。なかでも、台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡、田谷遺跡などは、当該期の寺院や官衙跡であり、本遺跡も含め、その周辺集落と考えられる集落遺跡を含め、注目すべき遺跡が水戸市域では数多く確認されている。したがって、寺院や官衙などの周辺集落と考えられる本遺跡の性格と同様の性格をもつ遺跡や寺院や官衙などに絞って以下から概観したい。

台渡里廃寺跡は過去に長者山地区と觀音堂山地区、南方地区的3地区に分けられ、このうち、長者山地区は平成18年度に行った水戸市教育委員会の発掘調査において、9棟の

礎石建物跡と北側区画溝が確認され、寺院ではなく、那賀郡衙に伴う正倉院であることが確認されている。観音堂山地区については、平成14年から16年にかけて水戸市教育委員会が行った範囲確認調査の結果、西側に講堂が、その北東に金堂とさらに東側に塔が並び、金堂の北西に経蔵もしくは鐘楼と考えられる礎石建物が配置され、講堂の対極に位置するところには中門が配置される東向きの独自の伽藍配置をもつとみられ、その創建年代は7世紀後半に遡ることが明らかとなった。また、相輪の一部がヘラ書きされた瓦や「佛」という字の周りに絵が描かれた瓦、金箔製品、瓦製相輪の諸花花弁と擦管など東国初期寺院でも初見となる仏教関連遺物が出土している。

南方地区は範囲確認調査の結果、塔跡基壇の内部より内面黒色処理の施された土師器坏の破片が出土したことから、9世紀後半に入つてから造営された法隆寺式伽藍配置を意識した寺院であることが判明した。観音堂山地区の初期寺院が9世紀後半には火災で廃絶していることから、観音堂山地区的伽藍の焼失後に、南方地区に再建しようとしたが、造営を途中で放棄した可能性が高い。なおこれらの成果に基づき、平成17年には観音堂山地区と南方地区が国指定史跡に指定されている。上記の成果に基づき、現在台渡里廃寺跡および旧台渡里遺跡は名称変更が行われ、台渡里廃寺跡・台渡里官衙遺跡の長者山地区、宿屋敷北地区、宿屋敷地区、南前原地区となっている。白石遺跡からは、住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟、基壇1基、溝1条、土坑12基が検出されている。特に注目されるのは東西2間、南北36間のII区2号建物であり、第1号溝とともに公的施設の一部を構成していたと考えられる。溝の時期から8世紀前半に帰属すると考えられている。白石遺跡に隣接する田谷廃寺跡からは、台渡里廃寺跡長者山地区と同様の文字瓦が多数出土していて、小字には「百壇」という礎石建物の基壇との関係が推測される地名が遺されており、3箇所の基壇と礎石の存在が報告されている。のことから、田谷廃寺跡が河内駅馬跡とする見解が研究者から提示され、II区2号建物が駅馬を繋いでおくための馬房や厩舎などの施設として理解することも可能であろう。

台渡里廃寺跡や台渡里官衙遺跡の周辺集落と考えられるアラヤ遺跡は住居跡と共に、工房跡や粘土採掘坑などが検出され、那賀郡衙正倉院の区画溝やそれに伴うと考えられる掘立柱建物の柱穴も確認されている。また、アラヤ遺跡と同様の性格をもつ集落と考えられる堀遺跡では、数多くの住居跡や掘立柱建物跡、溝、井戸、土坑などが検出されている。平成6年に実施された住宅団地造成工事に伴う発掘調査において検出された掘立柱建物跡は長舎風の建物跡で9世紀代の公的建物の可能性が指摘されている。遺物は土師器、須恵器の他、刀子・窓・雁又鑓・釣針・釘・くるり鉢など多様に出土している。なかでも須恵器壺Gや人面墨書き土器が出土していることは注意される。白石遺跡の北側に位置する砂川遺跡からは、当該期の住居跡や溝、井戸が検出され、井戸からは木製の曲物や櫛、高台付盤など注目される遺物が出土している。

(5) 中世～近代

中世から近代の遺跡は台渡里廃寺跡、長者山城跡（100）、中河内城館跡（232）、台渡里廃寺跡、圓裏窯跡（288）などが挙げられる。長者山城跡は中世の居館跡で江戸氏の重臣である河和田城主春秋氏の支城で、その縄張りの一部となるアラヤ遺跡や台渡里廃寺跡、台渡里官衙遺跡などからは、地下式壙や井戸、瓦礫道、土坑、ピットなどの遺構や15世紀後半から16世紀初頭の遺物が出土していて、觀音堂山地区の初期寺院は少なくとも15世紀には寺院の存在はなく、長者山城跡の一角として機能していたことが推定されている。また、アラヤ遺跡や台渡里廃寺跡から17世紀前半の遺物が出土していて、その時期に近世集落が形成されていたと推定されている。圓裏窯跡は近世徳川氏の指導のもと成立した、地図外となる七面製陶跡と同時期と考えられる近世窯であるが、七面製陶跡と異なり、日常に使用された擂鉢や鉢などを焼成した窯跡と考えられる。

第3節 台渡町遺跡における既往の調査

渡里町遺跡が立地する渡里地区の台地上では、これまでに21次に亘る調査が行われている。以下では主な調査とその成果について言及する。

21次の調査の大半は小さな調査区であり、盛土保存や立ち合い工事となっているため、発掘調査が行われた地点は少ない。平成20年に行われた市道常磐34、275号線道路改良工事に伴う第6地点では、縄文時代中期の住居跡や土坑、本調査地点の東側に位置する平成20年に行われた、道路改良工事に伴う第5地点では、平安時代を中心に住居跡6軒、溝2条などが検出され、縄文時代における集落の北限や平安時代の集落の範囲を確認することができた。平成24年に行われた、個人住宅建築に伴う第12地点第2次調査では、約2,200m²の範囲に縄文時代から平安時代の住居跡41軒、掘立柱建物跡7棟、溝跡3条、道路状遺構1条、土坑49基、ピット360基、性格不明遺構10基と多量の遺構が検出され、縄文時代から弥生時代における集落の東西限や、古墳時代から平安時代の当該地における集落の性格など数多くの成果が判明した。どの地点でも、円面硯や瓦などの寺院や官衙関連遺物が出土していることは注意されるべきである。

以上の既往の調査成果から、渡里町遺跡は奈良・平安時代を中心に、縄文時代から近世に至るまで、断続的に土地利用が展開した複合遺跡であり、奈良・平安時代には那賀郡衙とその周辺寺院である台渡里廃寺跡と有機的な関係にあった遺跡であったことが理解できる。

第3章 調査の方法と成果

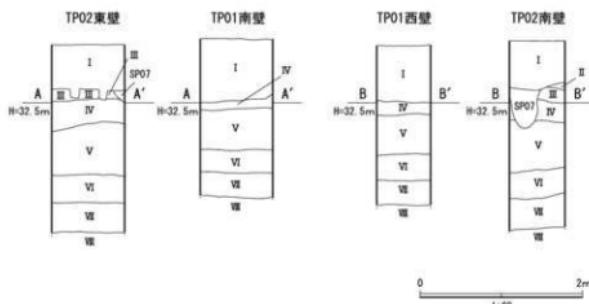
第1節 調査の方法

発掘調査は、約 $15\text{ m} \times 13\text{ m}$ の長方形となる調査区が 2ヶ所、東側と西側に設定した。調査では公共座標を基準に、随所に基準点を設け、その既知点より光波測量器を使用して遺物取上げなどの記録作業を行った。掘り下げは、重機により表土層を掘削し、その下部より遺構確認面までは基本的に人力で掘り下げた。遺構実測については、基本的に光波測量機と手実測を併用し、包含層および遺構内出土の遺物については全点 3次元で記録した。写真撮影は 35mm モノクロフィルム、35mm カラーリバーサル、デジタルカメラ（1200 万画素）を使用して適宜、記録撮影を行った。

第2節 基本層序（写真図版 15）

基本層序は以下のとおりである。基本層序は 1 区の北西隅、2 区の南東隅にテストピットを設け、確認している。

第4図 基本層序図



基本層序

I 层	表土・耕作・堆土土層
II 层	1096.1/3 にぶら黄褐色土層
III 层	1096.1/3 離隔地土層
IV 层	1096.1/8 明黄褐色土層
V 层	1097.7/8 黄褐色土層
VI 层	1096.1/8 明黄褐色土層
VII 层	2. 51% /8 黄色土層
VIII 层	1096.1/8 明黄褐色土層

やや粘性をもち、練まる。黒色土を少量含む。

やや粘性に欠け、練まる。白色粒子・赤色粒子を少量、黒色土を微量含む。(今市・七本松層)

粘性をもち、練まる。赤色粒子を微量含む。(ソフローム層)

粘性をもち、強く練まる。赤色粒子・黑色粒子を少量含む。(ハードローム層)

粘性をもち、練まる。赤色粒子・黑色粒子・泥炭土ブロック（約3cm）を少量含む。(鹿追土層への漸移層)

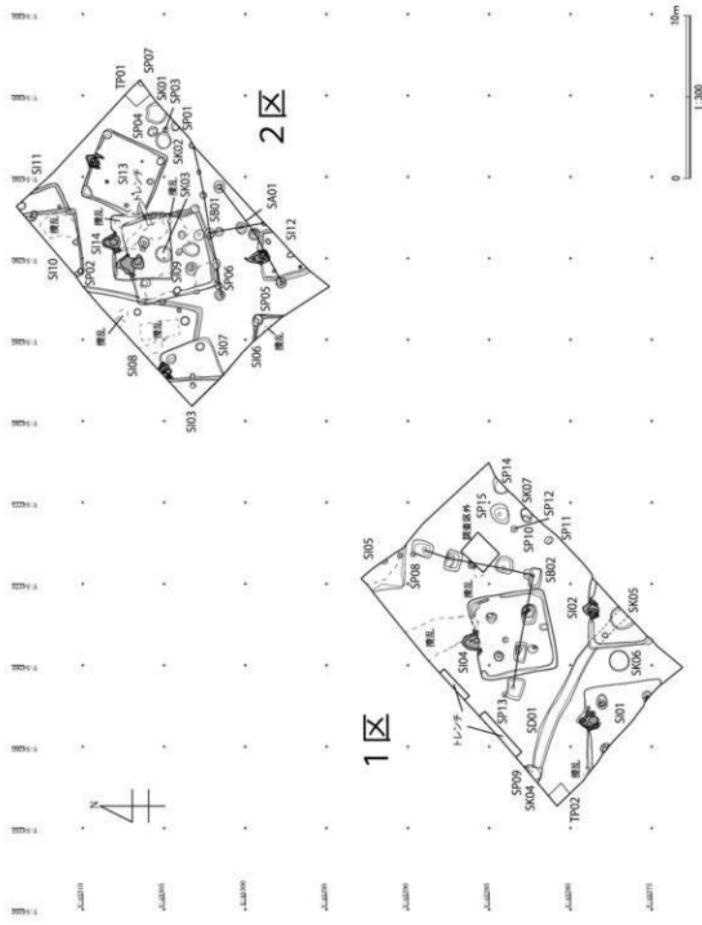
粘性に欠け、練まる。泥炭土主体。(鹿追土層)

粘性をもち、練まる。泥炭土粒子を微量含む。



第5図 調査区の位置（都市計画図「水戸」1:2500に加筆）

第6図 全体遺構分布図



第3節 調査の概要

今回の調査区は、那賀川南岸の河岸段丘における崖線から南西へ約130mの台地上に位置する。本調査区の東側において平成20年度に水道管埋設工事に伴う発掘調査（渡里町遺跡第5地点）や個人住宅建築に伴う発掘調査（渡里町遺跡第12地点）などが実施されている。これまでの試掘調査や発掘調査において、奈良・平安時代を中心とする住居跡が分布していることが確認されている。今回の発掘調査でも、同様の住居跡等が検出されることが想定され、その遺構群の性格や年代、範囲などを確認することが調査の目的とした。

その結果、住居跡が14軒（第1号から第14号住居跡）、掘立柱建物跡が2棟（第1号・第2号掘立柱建物跡）、溝跡が1条（第1号溝跡）、土坑が7基（第1号から第7号土坑）、ピットが15基（第1号から第15号ピット）が検出され、遺物は4,479点、118.4kgが出土している。時期は縄文時代から中世以降まで確認されている。出土遺物は、大半の住居跡の年代である奈良・平安時代が中心である。遺構の分布に偏りは見られないが、2区の方が若干住居跡の密度が高い。時期は縄文時代早期から近世までであるが、遺構と同様に奈良・平安時代が中心である。出土遺物全体における奈良・平安時代の遺物は点数で98%、重量で79%とほかの時期に比べ圧倒的な量を占める。出土地点は、全体の点数で93%、重量で96%ほどが遺構からの出土で、住居跡以外からの出土はごく少数である。遺物の内訳は縄文時代早期稻荷原式・前期黒浜式や浮島式・中期阿玉台式や加曾利E式の深鉢、弥生時代後期十王台式の甕壺類、須恵器の坏類・高台付坏類・高台付盤・盤・高盤・皿・高台付皿・壺・長頸壺・甕壺類・鉢・蓋・円面鏡、土師器の坏類・甕壺類・蓋・皿・高台付皿・高坏・鉢・瓶、灰釉陶器の壺・高台付皿・蓋、土製品のミニチュア土器・焼成土塊、石器は縄文時代打製石斧・磨石・敲石・輕石、石製品は砥石・支脚・カマド芯材、鐵製品は釘・刀子・楔状鐵製品・鐵滓・錢貨、瓦は平瓦・丸瓦・軒丸瓦、陶器の碗、瓦質土器の壺、繰など多種多様にわたり出土している。以下より検出・出土した遺構と主要な遺物について時代順に触れていく。なお、配列に規則性を持たない一部の小ピットについては、独立した項目を設けないので、ピット一覧表を掲載したので、そちらを参照願いたい。

第4節 検出された遺構と遺物

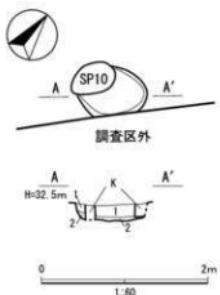
(1) 縄文時代の遺構と遺物

本調査地点から検出された縄文時代の遺構は少なく、土坑が1基（第7号土坑）とピットが3基（第3号・第10号・第11号ピット）である。出土した縄文時代の遺物は50点で1,481.5 g出土しているが、遺構に伴う形での出土ではなく、他の時代の遺構や表土からの出土である。出土遺物全体における縄文時代遺物の割合は点数・重量ともに1%程度を占めるに過ぎない。出土地点は両区とともに満遍なく出土している。出土している最も古い時期の土器は第4号住居跡から出土した早期稻荷原式期の深鉢が1点出土している。出土した土器の中心時期は中期後葉加曾利E式期の土器で22点出土している。その他、前期黒浜式期および浮島式期、中期阿玉台式期、時期不明の土器が少數ずつ出土している。石器では片岩製の打製石斧が1点、砂岩製の磨石・敲石が3点、軽石が1点どちらも極めて低調な結果となっている。以下より検出・出土した縄文時代の遺構と主要な遺物について触れていく。

第7号土坑（第6図、写真図版14）

1区の東側、標高32.3 m付近に第10号ピットに先行して位置する。南東側1/5が調査区外あり、その部分は調査できなかった。平面形は楕円形、長軸推定83 cm、短軸現存61 cm、深さ23 cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。坑底はやや起伏をもつ。土層は2層に分かれ、人為的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。性格は不明である。遺構の形状、覆土の状況、重複関係より縄文時代の所産であった可能性が高い。

第7図 第7号土坑

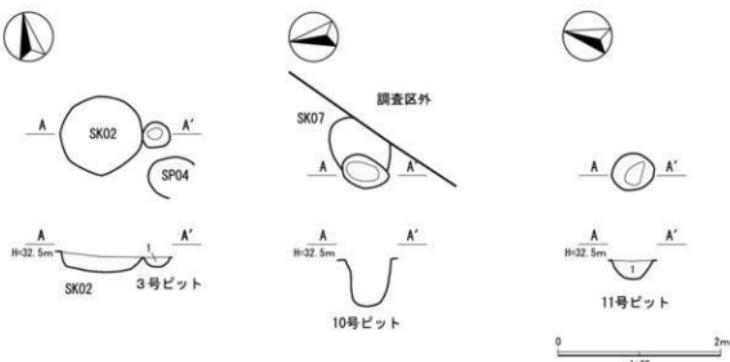


縄文時代のピット（第7図、第2表、写真図版14）

検出されたピットは3基を数える。1区の南東側に偏在しているが、調査区検出なので、分布状況など性格は不明と言わざるを得ない。ここでは個々に対しての説明を加えずに、断面図および第2表の属性一覧で説明に代えさせていただきたい。

第7号土坑		
1	10m②/2堆褐色土層	粘性をもち、締まる。 ローム粒子を微量含む。
2	10m④/3にぶい黄褐色土層	粘性をもち、柔らか。 ロームブロック(約1cm)、 ローム粒子を少量含む。

第8図 第3・10・11号ビット



3号ビット
1 10YR4/4 黄色土層 粘性をもち、締まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

11号ビット
1 10YR4/4 黄色土層 粘性をもち、締まる。ローム土を少量含む。

第2表 繩文時代ビット属性一覧

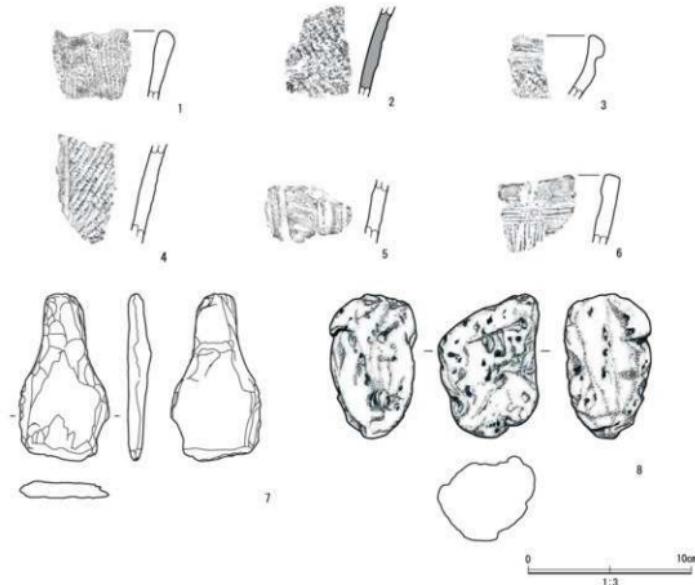
ビット番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)			底面アラカリ	平面アラカリ	アタリ幅(cm)					
3号ビット	2区東側	円形	筒状	33	—	12	緩やか	丸味を帯びる	—	—	—	人為埋没	不明	—	無し	
10号ビット	1区東側	椭円形	筒状	59	37	51	垂直	丸味を帯びる	—	—	—	不削	不明	SK07に後続	無し	
11号ビット	1区東側	円形	筒状	49	—	21	緩やか	丸味を帯びる	—	—	—	人為埋没	不明	—	無し	

縄文時代の遺構外出土遺物（第8図、第3・4表、写真図版16）

当該期の遺構からは、前述したとおり遺物が出土していないため、表土や当該期以外の遺構からの出土した代表的な8点の遺物を図示して、説明を加える。

1は早期稲荷原式土器の深鉢口縁部片である。口縁部が肥厚して、胴部に粗い撚糸文を施文する。2は前期黑浜式土器の深鉢である。覆土に纖維を含み、外面に粗い縄文を施文する。3から5は中期加曾利E式土器の口縁部や胴部片である。地文は縄文で、沈線を横走や縱走させて区画する。3はIII式、4・5はIIIからIV式であろう。6は後期堀之内式土器の口縁部片である。口縁部直下に多条の条線を横走や縦走させ、区画している。7は片岩製の握型打製石斧である。粗い敲打により刃部を造る。一部に原縁面を残す。8は軽石である。外面の一部に切れ込みをもつが、その切れ込みが、縄文時代のものか後世につけられたものか不明である。その他には調整痕は確認できない。

第9図 純文時代の遺構外出土遺物



第3表 純文時代出土土器属性一覧

図版 出土地 番号	出土 遺構	部位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	陶輪 骨針	焼成 法	色調	焼成 度	備考
1	S104 カマド	覆土	縄文 土器	深鉢	口縁部 ～胴部	5	—	—	—	口縁部肥厚。胴部外面R L単槽の溝文を模し、内面ナメ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 YR 6/3 に5A4 橙色	—	早期黒原式 期
2	S108	覆土	縄文 土器	深鉢	胴部	5	—	—	—	胎土に鐵斑を含む。外面R L単槽の溝文を模し、内面ナメ。	白色粒子・水色粒子・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 YR 5/6 明褐色	—	前期黒原式期
3	S108	覆土	縄文 土器	深鉢	口縁部 ～胴部	5	—	—	—	底状口縁深鉢。口縁部R線状に肥厚。下位に2枚輪を模し、脚部R L単槽の溝文を模し、内面ナメ。	白色粒子・チャート粒	×	良好	10 YR 5/3 に5A4 橙褐色	—	中期加曾利Ⅱ 式期
4	S109	覆土	縄文 土器	深鉢	胴部	5	—	—	—	(6.0) 縄文L R溝文斜走。沈縫を垂下。内面ナメ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 YR 5/6 明赤褐色	—	加曾利Ⅲ～ IV式期
5	S104	覆土	縄文 土器	深鉢	胴部	5	—	—	—	(3.9) 脚部外周側方向に平行する比較的単純な輪を模し、内面ナメ。地文は無文。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 YR 7/3 に5A4 橙色	—	中期加曾利Ⅲ ～IV式期
6	2区	表土	縄文 土器	深鉢	胴部	5	—	—	—	(4.5) 底状口縁深鉢。多条の変形を模し、その下位に多条の繊維を模す。	白色粒子・黑色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小繊維	×	良好	7.5 YR 6/4 に5A4 橙色	—	縄文後期型之内I式期

第4表 純文時代出土石器属性一覧

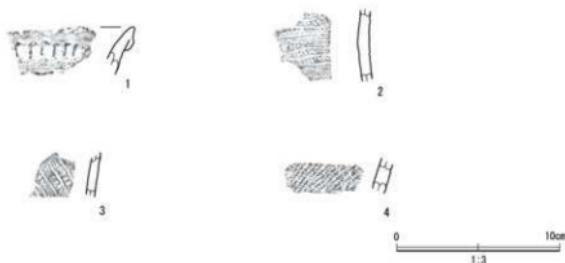
図版 番号	出土地 名	部位	種別	種類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
7	S101	覆土	石器	打製石斧	片岩	10.2	5.5	1.4	83.4	磨型。刃部下端を打ち欠きで造り出す。基部は細かい敲打で成形。画面の一部に原礪面を残す。	
8	S109	覆土	石器製品	研石	輝石	9.9	6.2	5.2	84.2	全面黒色に変色。被熱の影響か。一部に幅0.1cm、長さ1.2cmほどの切れ込み。用途不明。	

(2) 弥生時代の遺構と遺物 (第9図、第5表、写真図版16)

本調査地点から弥生時代の遺構は検出されていない。しかし、弥生時代後期十王台式期の甕壺類の土器が11点で92.9 g出土している。石器などは出土していない。出土遺物全体の弥生時代土器の割合は点数・重量ともに1%以下を占めるに過ぎない。出土地点は縄文時代と異なり、第7号から第10号住居跡や2区表土一括と2区を中心に出土している。以下より出土した弥生時代の代表的な4点の遺物を図示して、説明を加える。

図示した1から4はすべて後期十王台式土器の壺である。1は口縁部片である。口縁部を折り返し、下端は棒状工具を用いて、押圧文を施す。その下位は多条の条線文を蛇行、横走させる。2から4は撫糸文や縄文が施されている土器である。(山下)

第10図 弥生時代の出土遺物



第5表 弥生時代出土土器属性一覧

図版番号	出土地點	層位	埋別	器種	部位	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	特徴・手法	胎土	油縫骨針	焼成度	色調	焼成窯	備考
1	S110	複土	弥生土層	壺	口縁部 ～胴部	5	—	—	Q2.95	口縁部折り返し、下端を棒状工具で連続して押圧。下位条数不規則の蛇行文を施す。	白色粒子・石英粒	×	良好	7.5 YR 7/4 に近い褐色	—	後期十王台式期
2	2区	複土	弥生土層	壺	胴部	5	—	—	Q4.55	L.R撫糸文を横走。内面ナデ。	白色粒子・黒色粒子・チャート粒	×	良好	7.5 YR 6/4 に近い褐色	—	後期十王台式期
3	S109	複土	弥生土層	壺	胴部	5	—	—	Q2.75	R.L撫糸文を斜走。内面ナデ。	白色粒子	×	良好	10 YR 7/3 に近い黄褐色	—	後期十王台式期
4	S108	複土	弥生土層	壺	胴部	5	—	—	Q2.2	R.L单屈の縄文を斜走。内面ナデ。	白色粒子・石英粒子・黑母片	×	良好	5 YR 6/6 褐色	—	後期十王台式期

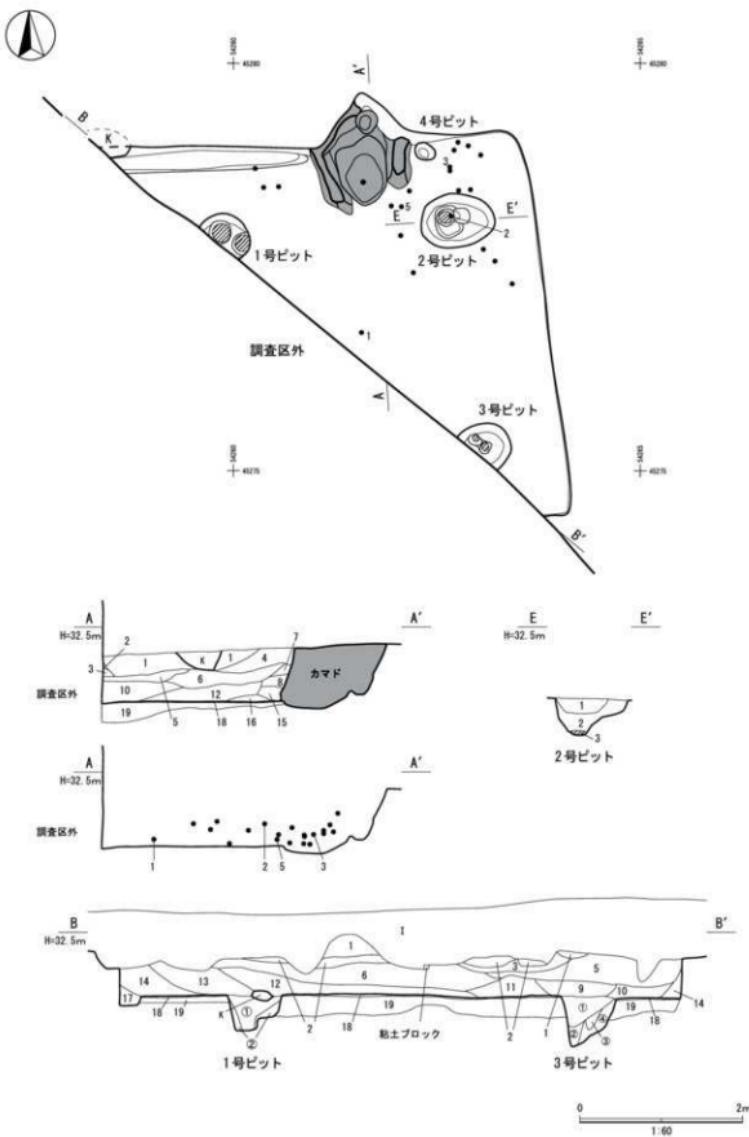
(3) 古墳時代から平安時代の遺構と遺物

本調査地点から検出された当該期の遺構は住居跡が 14 軒（第 1 号から第 14 号住居跡）、掘立柱建物跡が 2 棟（第 1 号・第 2 号掘立柱建物跡）、ピット列 1 条（第 1 号ピット列）、ピットが 4 基（第 4 号・第 5 号・第 14 号・第 15 号ピット）と今回の発掘調査で検出された遺構の中心を占める。時期的には住居跡は 7 世紀後葉から 10 世紀前葉に収まり、掘立柱建物跡は出土遺物や切り合い関係から 8 世紀以前および 10 世紀以降と考えられる。遺物は出土した当該期の遺物は 4,391 点で 94,242.2 g が出土している。種別は須恵器や土師器、灰釉陶器、土製品、石製品、鉄製品、瓦であり、器種は壺や高台付壺、盤、高盤、皿、甕・壺、鉢、蓋、円面鏡、釘、刀子、楔状製品、軒丸瓦、平瓦、丸瓦等を中心とする。出土遺物全体における当該期遺物の割合は点数で 98%，重量で 79% とほかの時期に比べ圧倒的な量を占める。以下より検出・出土した当該期の遺構と主要な遺物について触れてみたい。

第 1 号住居跡（第 10 ~ 12、第 6・7 表、写真図版 2・16・17）

1 区の南西側、標高 32.3 m 付近に単独で位置する。住居跡の南西部分 1/2 が調査区外であったため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は概ね良好である。長軸現存 474 cm、短軸 556 cm の推定方形を呈し、主軸方位は N - 7° - W を示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は 64.7 cm を測り、垂直に立ち上がる。土層は 19 層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、黒褐色土を基調とした厚さ 1 cm から 3 cm ほどの堅固で緻密な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。周溝はカマド部分以外において検出された範囲で全周している。幅 14 cm から 32 cm、深さ 4.0 cm から 10 cm ほどを測る。柱穴は 4 基検出され、このうち主柱穴は 1 号ピットから 3 号ピットの 3 基と考えられる。これら主柱穴には柱痕が 2 ヶ所確認されていることから、柱の建て替えが 1 回行われたと考えられる。その他の主柱穴や出入口ピットは、その位置関係から調査区外に展開すると考えられる。カマドは住居跡北壁や東側に、北壁を 61 cm ほど削り出して構築されていて、N - 4° - W の主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは 138 cm、袖部外側の幅は 120 cm を測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる 2 層や 4 層、11 層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて、浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用している。袖部内側の最大幅は 57 cm を測り、火床部は床面から 13 cm ほど楕円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は焼土に覆われ、底面は赤変硬化して、焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は急角度に立ち上がる。支脚は検出されていない。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、カマド周辺は浅いが、ロームブロックと暗褐色土を基調とした土が全面に最大 25 cm ほど及んでいる。底面は起伏を持つ。遺物は 288 点、5,863.8 g が出土している。内訳は土器が須恵器の壺類・高台付壺類・壺・蓋、土師器の壺類・甕・壺類・瓶、灰釉陶器の壺・蓋、石器が縄文時代の打製石斧、鉄製品の釘である。このうち 5 点の遺物を図示することができた。1 から 3 は須恵器の壺である。どれも、その胎土か

第11図 第1号住居跡



第1号住居跡

- 1 10YR2.3 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。
 2 10YR2.3 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子・鐵土粒子を微量含む。
 3 10YR2.3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm）・ローム粒子を少量含む。
 4 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
 5 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 6 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
 7 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量、粘土粒子を微量含む。
 8 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
 9 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
 10 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 11 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
 12 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量、粘土粒子を微量含む。
 13 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 14 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 15 10YR2.3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。粘土ブロック（φ 1cm）を少量含む。
 16 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）を微量含む。
 17 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。
 18 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。(粘土)
 19 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。(粘土)

第1号住居跡1号ビット

- (1) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 (2) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。

第1号住居跡2号ビット

- 1 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・鐵土粒子を少量含む。
 2 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。
 3 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）を微量含む。(柱坑底)

第1号住居跡3号ビット

- (1) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 (2) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 (3) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。
 (4) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。

第1号住居跡4号ビット

- 1 10YR2.4 第1号住居跡1号ビット 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 (1) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。
 (2) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。

第1号住居跡2号ビット

- 1 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・鐵土粒子を少量含む。
 2 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。
 3 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）を微量含む。(柱坑底)

第1号住居跡3号ビット

- (1) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 (2) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 (3) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。
 (4) 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。

第1号住居跡4号ビット

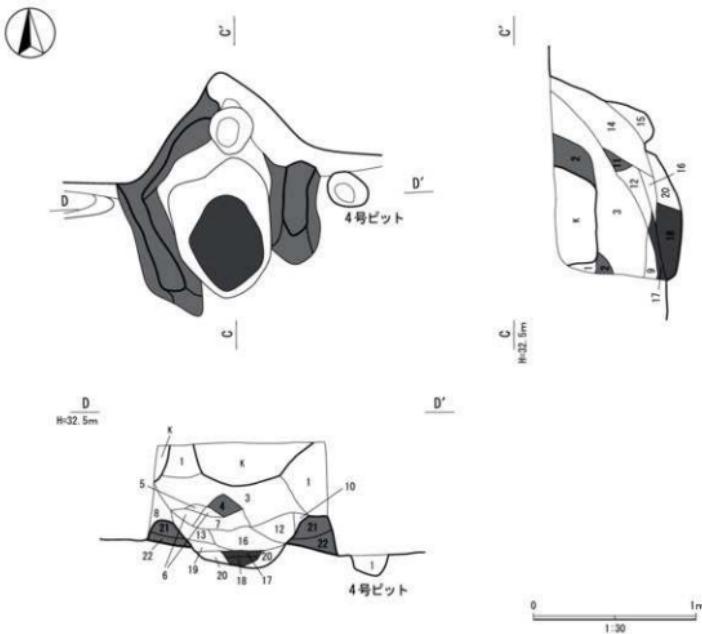
- 1 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

第6表 第1号住居跡ビット属性一覧

ビット番号	位置	平面形態 断面形態	層構			底面状況	柱底			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考	
			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		壁立ち 上上がり	平面ア リヤ数	平面形 態	アタリ目 (cm)	新柱 柱底				
1号ビット	北東	椭定円形 開状	65	—	42× 48	ほぼ 垂直	平坦	2	四隅・中央 柱より外 部に柱底	20	有り	自然	主柱 穴	—	無し 南西 1/2 調査区外
2号ビット	北東	椭円形 閉状	91	66	45× 45	色々な 大きさ の塊 や小 塊	丸味を帯びる	2	四隅・中央 柱より外 部に柱底	17	—	自然	主柱 穴	—	無し
3号ビット	南東	椭定円形 不規 則状	63	—	45× 52	丸味 あり 柱 底付 近付	平坦	2	四隅・中央 柱より外 部に柱底 や中央 化粧	8	—	自然	主柱 穴	—	無し 南西 1/2 調査区外
4号ビット	カマド東	椭円形 閉状	28	21	15	級やか 丸味を 帯びる	—	—	—	—	—	自然	不明	—	無し

ら木葉下窓跡群產と考えられる。3点共に底部外面に釈読不明のヘラ書きが施される。4はかえりを伴わない須恵器の蓋である。5は最大径が胴部上位の土師器常総型甕である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況のから9世紀前半の所産であった可能性が高い。

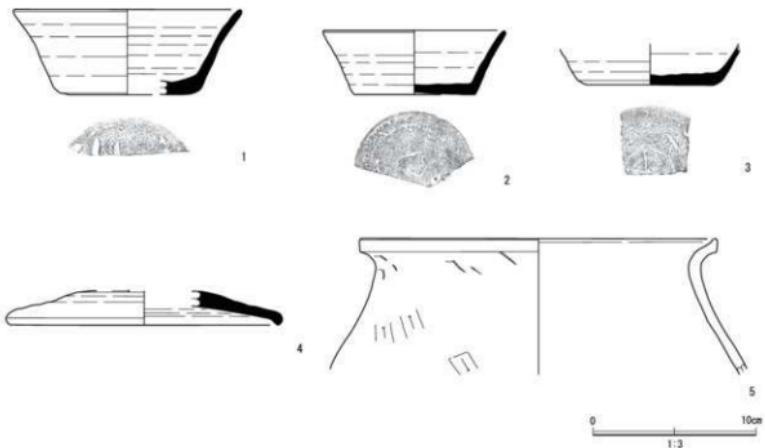
第12図 第1号住居跡カマド



第1号住居跡カマド

- 1 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。ロームブロック ($\phi 10\text{cm}$)・ローム粒子を少量、粘土粒子を微量含む。
- 2 10YR8.3朱黃褐色シルト層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子主体。
- 3 10YR2.4黒褐色土層 粘性をもち、縛まる。ローム粒子・粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
- 4 10YR8.3朱黃褐色シルト層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子主体。
- 5 10YR2.4黒褐色土層 粘性をもつて、やや縛まりに欠ける。粘土粒子を含む。粘土粒子を多量含む。
- 6 2.5YR4.4暗赤褐色土層 粘性・縛まりに欠ける。粘土粒子主体。砂土ブロック ($\phi 10\text{cm}$)・黒色土を少量含む。
- 7 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。ロームブロック・粘土粒子を少量、粘土粒子を微量含む。
- 8 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。ロームブロック・粘土粒子を少量含む。
- 9 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、やや縛まる。粘土ブロック ($\phi 10\text{cm}$) を少量含む。
- 10 10YR2.3黒褐色土層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子を多量に含む。
- 11 10YR8.3朱黃褐色シルト層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子を多量に、褐化土を少量含む。
- 12 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子・粘土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
- 13 10YR2.4黒褐色土層 粘性をもち、やや縛まる。ローム粒子・砂土粒子を少量含む。
- 14 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子・粘土粒子を少、砂土ブロック ($\phi 10\text{cm}$) を微量含む。
- 15 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。ロームブロック ($\phi 2\text{cm}$) を多量に、粘土粒子・粘土粒子を少量、砂土ブロック ($\phi 10\text{cm}$) を微量含む。
- 16 10YR4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、縛まる。砂土粒子を多量に、砂土ブロック ($\phi 10\text{cm}$) を少量含む。(埋伏部)
- 17 10YR4.3赤褐色土層 粘性に欠け、やや縛まる。砂土粒子を多量に、砂土ブロック ($\phi 10\text{cm}$) を少量含む。(埋伏部)
- 18 10YR4.3赤褐色土層 粘性に欠け、やや縛まる。砂土粒子主体。砂土ブロック ($\phi 2\text{cm}$) を多量に含む。(埋伏部)
- 19 10YR6.3明黄褐色土層 粘性・縛まりに欠ける。繊維したロームブロック ($\phi 2\text{cm} \sim 4\text{cm}$) を多量に含む。(埋伏部)
- 20 10YR2.3黒褐色土層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子主体。(袖部)
- 21 10YR8.3朱黃褐色シルト層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子を多量に、褐色土を少量含む。(袖部)
- 22 10YR8.3朱黃褐色シルト層 粘性をもち、縛まる。粘土粒子を多量に、褐色土を少量含む。(袖部)

第13図 第1号住居跡の出土遺物



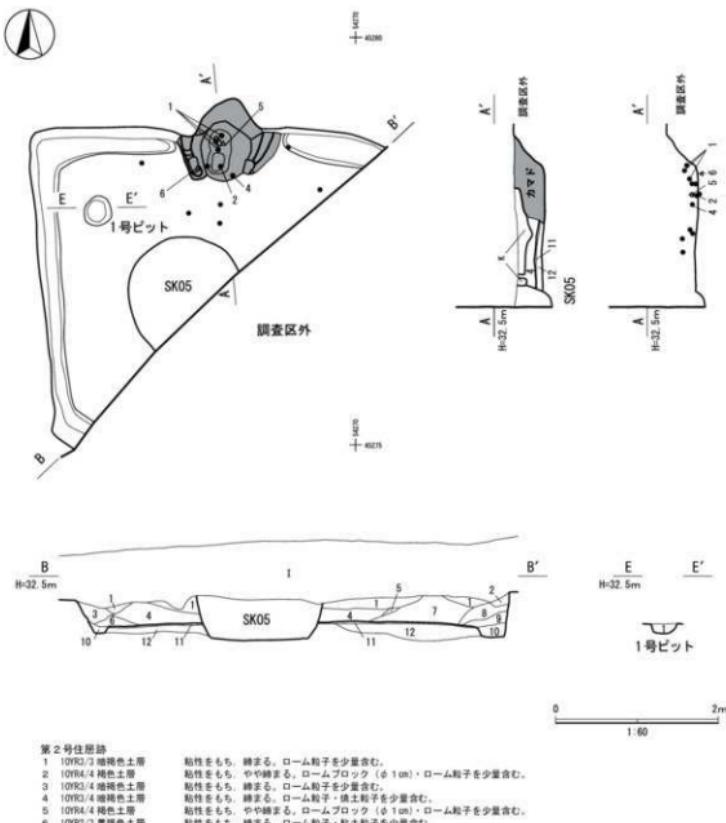
第7表 第1号住居跡出土土器属性一覧

記録番号	出土点	地質	層別	種別	基積	部位	保存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	特徴・手法	胎土	焼成 条件	調 査	色 調	焼成 度	備考
1	S101	粘土	泥炭層	灰	口縁部 ～底部	30	(13.0)	(8.1)	8.2	口縁部わずかに外窪。内外面ヨコナギ。 体部内外面回転ナギ。底部外面切り離し 技術不確ナギ。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・チャート粒	×	良 好	2.5Y5/1黄灰 色	木葉	底部外面転波 下葉不明のヘラ記 號	
2	S101	粘土	泥炭層	灰	口縁部 ～底部	45	(11.0)	(7.4)	3.9	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面 ヨコナギ。体部内外面丁寧なナギ。底部 外面有回転ヘラ切り離し技术難ガナギ。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・チャート粒	○	良 好	10YR1/2灰白 色	木葉	底部外面転波 下葉不明のヘラ記 號	
3	S101	粘土	泥炭層	灰	体部～ 底部	5	—	(7.7)	(2.1)	体部内外面回転ナギ。底部内面クロロ日 光鏡観。底部外面右側面ヘラ切り離し後手 持ちナギ。	白色粒子・石英粒、 チャート粒	○	良 好	2.5Y5/2灰黃 色	木葉	底部外面転波 下葉不明のヘラ記 號	
4	S101	粘土	泥炭層	灰	底部	10	(16.4)	—	(2.1)	背面部削ぐ。かえりなし。天井部外周 上位右側面ヘラカズリ。下位回転ナギ。 内面回転ナギ。	白色粒子・黑色粒子・ チャート粒・蛋白片	×	良 好	2.5Y7/2灰黃 色	新物 底部 転波 部		
5	S101	粘土	土層 砂	灰	口縁部	5	(21.0)	—	(0.3)	背面部削ぐ。口縁部上方につまみ出す。口 縁部内外面ヨコナギ。底部外周裏方向へ ヘラカズリ後丁寧なナギ。内面裏方向ヘラ ナギ後ナギ。最大径脚部。	白色粒子・石英粒子・ チャート粒子・蛋白片	×	良 好	7.5YR6/4 灰褐色	—		

第2号住居跡（第13～16図、第8～10表、写真図版2・3・17・18）

1区の南側、標高32.3m付近に第1号溝跡および第5号土坑に先行して位置する。住居跡の南側の半分は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、中央部に第5号土坑などが位置することなどからやや不良である。長軸442cm、短軸現存396cmの方形を呈し、主軸方位はN-2°-Wを示す。断面形は概ね箱形を呈し、最大壁高は40cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は12層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、黒褐色土を基調とした厚さ1cmから3cmほどのやや軟弱な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁構はカマド部分を除き、確認された範囲で全周して、幅19cmから40cm、深さ8cmから15cmほどを測る。柱穴は主柱穴と考えられるピットが1基検出されたが、その他の主柱穴や出入入口ピットは調査区外に展開すると考えられ、確認されていない。カマドは住居跡北壁中央部に、北壁を41cmほど削り出して構築されていて、N-4°-Eの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは127cm、袖部外側の幅は103cmを測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる7層や8層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて、浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用していて、芯材として方形に加工した凝灰岩の切石を利用している。また、内壁の一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。袖部内側の最大幅は60cmを測り、火床部は床面から5.2cmほど梢円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化して、焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。また、カマドの中央やや北西寄りの位置に、凝灰岩を円柱状に削り出して作製された支脚が検出されている。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の中央部が浅く、ロームブロックが混入する褐色土を基調とした土が、床面から最大21cmほど及んでいる。底面は起伏に富んでいる。遺物は125点、9,312.4gが出土している。点数に比べ、重量が大きいのは、カマドの芯材が6点で6,338.1gと本住居跡から出土した遺物重量の約68%を占めるためである。内訳は土器が須恵器の壺類や高台付壺類・高台付盤・皿・甕壺類・鉢・蓋、土師器の壺類や高台付壺類・甕壺類である。このうち6点の遺物を図示することができた。1は須恵器の高台付壺、2は盤である。2は口縁部片のため、高台や脚が伴う可能性がある。3はかえりを伴わない蓋である。1から3は、その胎土から木葉下窓跡群産であろう。4は土師器の常総型甕口縁部片である。口縁部片のため最大径は不明である。5は石製支脚である。外面を多面の面取りをして、円柱状に成形している。6は凝灰岩のカマド芯材である。外面を5面の平坦面を造り出し、断面長方形様にする。これは左袖部の芯材であるが、右袖部も破碎した同様の芯材が確認されている。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀中葉の所産であった可能性が高い。

第14図 第2号住居跡



第2号住居跡

- 1 10R2/3 黄褐色土層
2 10R4/4 混合色土層
3 10R4/4 黄褐色土層
4 10R2/4 黄褐色土層
5 10R4/4 黄褐色土層
6 10R2/3 黄褐色土層
7 10R4/3 にじぶん黄褐色土層
8 10R4/3 にじぶん黄褐色土層
9 10R4/3 にじぶん黄褐色土層
10 10R4/3 にじぶん黄褐色土層
11 10R2/3 黄褐色土層
12 10R4/4 黄褐色土層
- 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。
粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少々含む。
粘性をもち、やや締まる。ローム粒子と粘土粒子を少量含む。
粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。
粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量、粘土粒子を微量含む。
粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）を少量、ローム粒子を微量含む。
粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。(品底)
粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を多量に含む。(裏手)

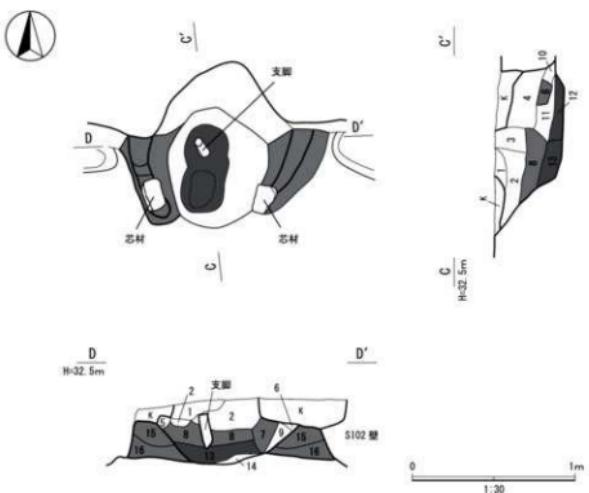
第2号住居跡 1号ビット
1 10R2/4 混合色土層

粘性をもち、締まる。ローム土・ロームブロック（φ 2cm）、ローム粒子を少量含む。

第8表 第2号住居跡ビット属性一覧

ビット番号	位置	平面 断面 断面 断面	規格	壁立ち 上がり		底面状況	柱底		埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (cm)	短径 (cm)		深さ (cm)	アリ桂 (cm)	新規 程度				
1号ビット	北西	橢円形 斜状	37	34	16	縦や少 な傾斜を有する	—	—	—	自然	主柱穴	—	無し

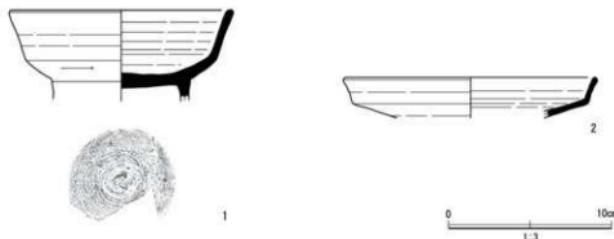
第15図 第2号住居跡カマド



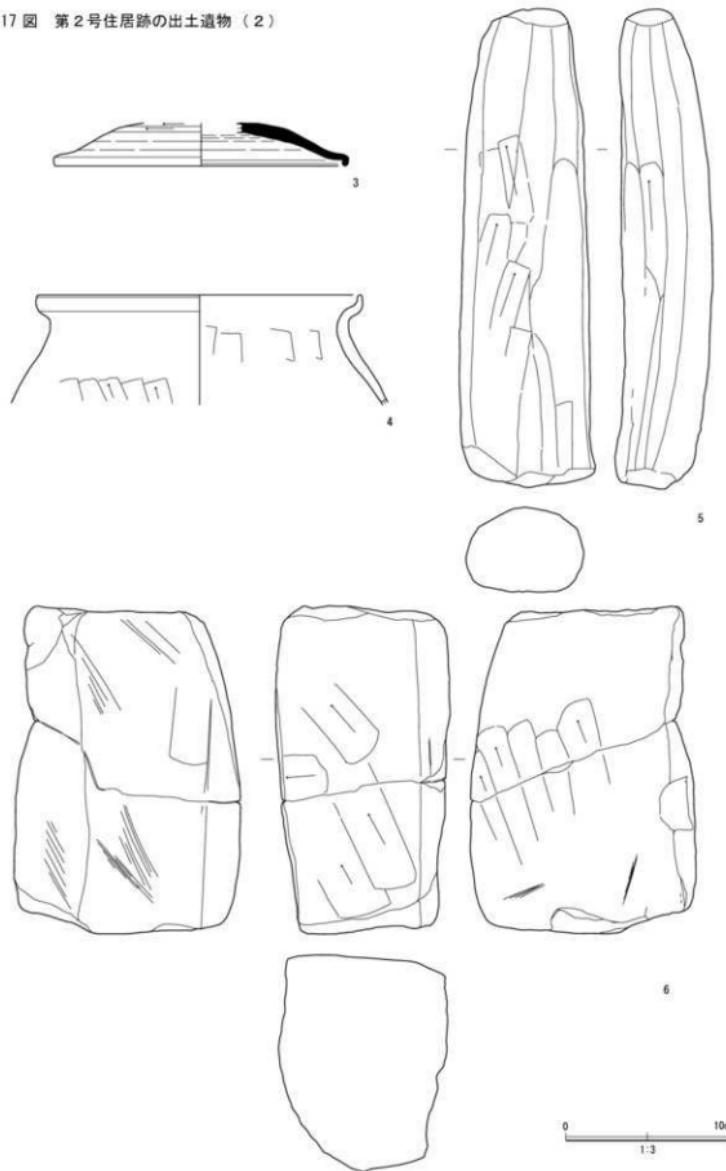
第2号住居跡カマド

- | | |
|----------------------|--|
| 1 10YR 2/3 深褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm）を少量。ローム粒子・砂土粒子を少量含む。 |
| 2 10YR 4/4 棕色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 3cm）多量に。砂土粒子・粘土粒子を少量含む。 |
| 3 10YR 4/4 にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量。砂土粒子を微量含む。 |
| 4 10YR 4/4 黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック多量含む。 |
| 5 10YR 4/4 黄褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。砂土粒子（2cm）を少量含む。 |
| 6 10YR 2/7 黑褐色土層 | 粘性をもつが、締まりに欠ける。ローム粒子を多量に含む。 |
| 7 10YR 2/7 深黄褐色シルト層 | 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。黒色土を少量含む。 |
| 8 10YR 2/7 深黄褐色シルト層 | 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。 |
| 9 10YR 6/6 明黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム土主体。粘土粒子を少量含む。 |
| 10 10YR 2/7 深黄褐色シルト層 | 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。 |
| 11 10YR 2/7 黑褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。砂土ブロック（φ 2cm）・黑色土を少量。砂土粒子を微量含む。 |
| 12 2.5YR 6/8 深褐色土層 | 粘性をもち、締まる。砂土ブロック（φ 2cm）・黑色土を少量含む。（燃焼部） |
| 13 2.5YR 6/8 深褐色土層 | 粘性をもち、締まる。被焼したロームブロック（φ 2cm）・砂土ブロック（φ 2cm）を多量に含む。（燃焼部） |
| 14 10YR 2/7 黑褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。（裏方） |
| 15 10YR 2/7 深黄褐色シルト層 | 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。 |
| 16 10YR 2/7 深黄褐色シルト層 | 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。褐色土を少量含む。（袖部） |

第16図 第2号住居跡の出土遺物（1）



第17図 第2号住居跡の出土遺物（2）



第9表 第2号住居跡出土土器属性一覧

器種 出土地 番号	土器種 類	標識 番号	器種 類	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	陶輪 骨針	色調	焼成 度	備考
1 S102 カマド	灰陶 器	灰陶 器	高台 付外 底部	口縁部	15	(13, 5)	—	(5, 6)	口縁部直線的に立ち上がる。中央部 で角度を変えて底面に至る。口縁部内 外面ヨコナダ。底面内面回転ナダ。 底部右側軸へタ切り離し後ナダ。高 台部底片付け。	白色粒子・黒色粒子・ 小織	○ 良 好	2.5Y6/ 暗灰色	木葉 下塗 絞糸	
2 S102 カマド	灰土 器	灰陶 器	高台 端	口縁部	5	(15, 4)	—	(2, 5)	口縁部を大きく折り外傾させる。内 外面丁寧なナダ。	白色粒子・黒色粒子・ チャート粒	× 良 好	2.5Y6/1 暗灰色	木葉 下塗 絞糸	
3 S102 カマド	灰土 器	灰陶 器	高台 端	口縁部	10	(17, 8)	—	(2, 6)	端部底片下させる。かえりなし。 天井部外面左回転ヘタケズリ後ナダ。 内面ナダ。	白色粒子・黒色粒子・ チャート粒・小織	○ 良 好	2.5Y6/2 暗黄色	木葉 下塗 絞糸	
4 S102 カマド	灰土 器	土師 器	高台 端	口縁部	10	(19, 8)	—	(6, 8)	常総型甕。口縁部を直角につまみ出 される。肩部外面縦方向へタケズリ 後ナダ。内面丁寧なナダ。	白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒・ 雲母片	× 良 好	7.5Y8E/4 にぶい褐色	—	

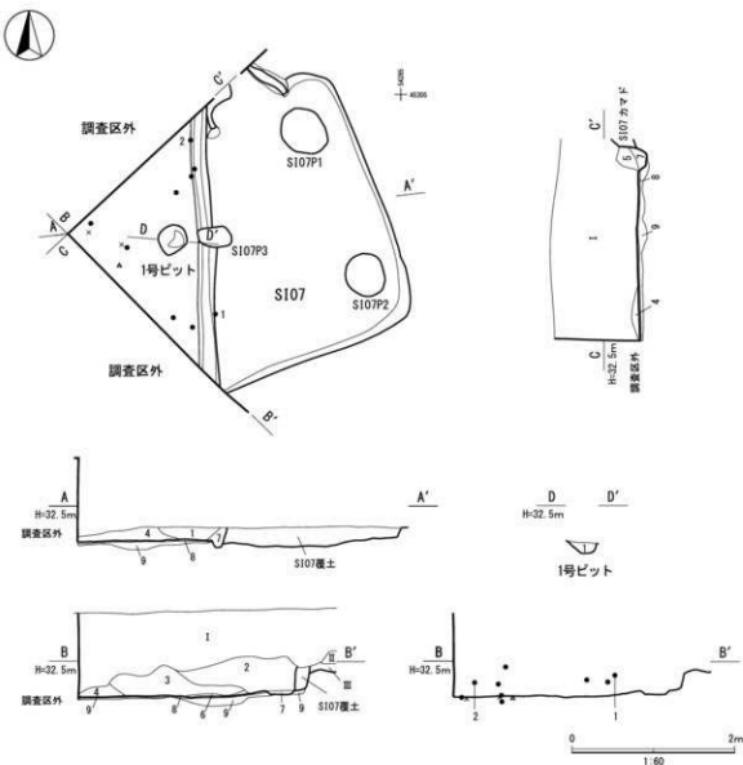
第10表 第2号住居跡出土石製品属性一覧

器種 出土地 番号	標識 番号	種別	種類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
5 S102 カマド	覆土	石製品	支撑 物	軽灰 岩	29.4	8.3	6.0	946.3	側面を細く十面取りをする。上端は丸味を帯び、下端は 木成形。側面被熱。	
6 S102 カマド	覆土	石製品	カマド芯 材	軽灰 岩	20.2	13.9	10.7	2510.3	側面を五面取りをする。両端未整形。全面被熱。	

第3号住居跡（第17・18図、第11・12表、写真図版3・18）

2区の西側、標高32.3 m付近に第7号住居跡に後続して位置する。住居跡の東側以外は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、上面に大きな擾乱が位置することなどから不良である。長軸現存346 cm、短軸現存183 cmの方形を呈し、主軸方位はN-3°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、最大壁高は16 cmほどを測り、緩やかに立ち上がる。土層は9層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、にぶい黄褐色土を基調とした厚さ1 cmから3 cmほどの堅固で緻密な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して、幅19 cmから23 cm、深さ5 cmから9 cmほどを測る。柱穴は1基検出されたが、その位置などから主柱穴ではないであろう。その他の柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは検出されていないが、覆土にカマド構築材由来と考えられる粘土粒子が確認されているため、調査区外である北壁に存在すると想定される。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面をロームブロックが混入する褐色土を基調とした土が、床面から最大10 cmほど及んでいる。底面は起伏に富んでいる。遺物は115点、6,185.5 gが出土している。点数に比べ、重量が大きいのは、覆土中から砂岩の礫や凝灰岩片が6点で4,369.6 g出土しているためである。内訳は土器が須恵器の壺類や壺・甕壺類・蓋、土師器の壺類や高台付壺類・甕壺類、灰釉陶器の壺、鉄製品が刀子である。このうち2点の遺物を図示することができた。1は高台付壺の胴部から底部片である。内面に僅かな黒色付着物が確認できる。2は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。この住居跡からは限定的な調査範囲にも関わらず、残存が不良であるが、刀子と考えられる鉄片が2個体以上出土している。刀子はこの調査区において第9号や第12号住居跡で出土しているのみである。しかし調査範囲などの制約でこの住居跡の性格まで追うことができなかった。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第18図 第3号住居跡



第3号住居跡

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。 |
| 3 10YR2/3 黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 4 10YR2/3 黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。 |
| 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。 |
| 6 10YR2/3 黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。硬玉粒子・粘土粒子を少量含む。 |
| 7 10YR4/3 黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約2cm）を多量に含む。(駐床) |
| 8 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約2cm）を多量に含む。(駐床) |
| 9 10YR4/4 黄褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約2cm）を多量に含む。(裏方) |

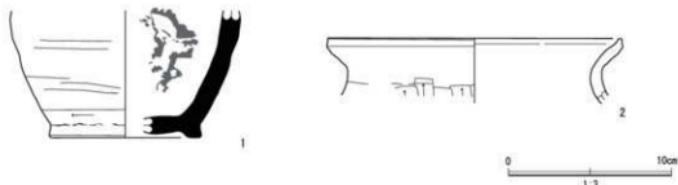
第3号住居跡1号ビット

- | | |
|-----------------|--|
| 1 10YR2/3 黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約2cm）を少量、ローム粒子を微量含む。 |
|-----------------|--|

第11表 第3号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規模			壁立ち 上がり	底面状況	柱底			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			底面 形状 ・位置	アクリル ガラス ・位置	断面 柱底					
1号ピット	中央 やや東 不整 規則形	間状	37	32	22	緩やか	丸柱を帯びる	-	-	-	-	自然	不明	-	無し	

第19図 第3号住居跡の出土遺物



第12表 第3号住居跡出土土器属性一覧

調査 番号	出土地 点番号	層位	種類	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	陶種 骨灰	色調	焼成 度	備考
1	S103	層土	第1層 高台 部付近	縦断面 底部	10	-	(9.0)	(7.7)	体部内外面回転ナダ。底部外側面 に施し技術不明ナダ。外反する高台部 を貼り付けた。	白色粒子・石英粒子、 チャート粒・小礫	X	不良	N 4/0 灰色	木葉 下葉 内面傷かな 緑群色付着物 なし	-
2	S103	層土	土鍋 器	縦断面	5	(17.9)	-	(4.0)	質純型態。 口縁上端を軽くつまみ 出す。口縁部内外面コロナ。腹部 外側面方向へラケツリ後ナダ。内面 ナダ。最大径不明。	白色粒子・チャート粒 子・雲母片	X	良好	5 YR 6/6 褐色	-	-

第4号住居跡（第19～21図、第13～16表、写真図版3・4・18・19）

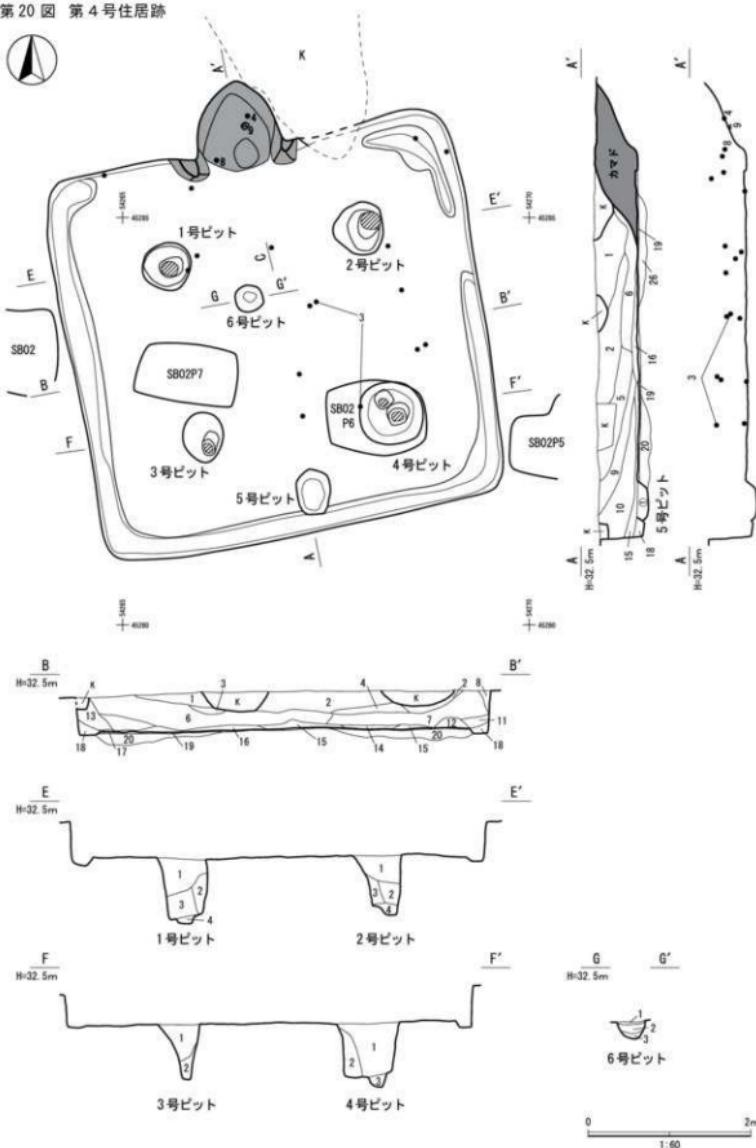
1区の中央部、標高32.4 m付近に、第2号掘立柱建物跡に後続して位置する。住居跡の遺存度合は、北東側に大きな擾乱が位置することなどからやや不良である。長軸508 cm、短軸486 cmの方形を呈し、主軸方位はN-11°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は54 cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は20層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、黒褐色土を基調とした厚さ2 cmから3 cmほどの堅固で緻密な貼床が、全面に形成されている。壁溝は、北壁際および東壁際の一部を除き存在して、幅24 cmから39 cm、深さ3 cmから11 cmほどを測る。柱穴は6基検出されたが、このうち主柱穴は1号ピットから4号ピットの4基、出入口ピットはその位置から5号ピットと考えられる。カマドは住居跡北壁中央部に、北壁を85 cmほど削り出して構築されていて、N-10°-Wの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは159 cm、袖部外側の幅は110 cmを測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトや明黄褐色シルトが主体的に含まれる4層から6層や9層・11・15層が崩落土と考えられる。袖部は遺存度が悪く、全体的に擾乱などで大きく削平されているが、地山を袖状に削り残し、そこに浅黄橙色シルトを貼り付けて袖部としている。袖部は擾乱で一部削平されているが、概ね良好である。袖部内側の最大幅は81 cmを測り、火床部は床面から4 cmほど円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は上面に焼土が多量に拡がり、底面は赤変硬化して、焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。カマド中央の位置に、凝灰岩を円柱状に削り出して作製されたと考えられる支脚が検出されていが、

上面を擾乱で削られているうえ、被熱のため、細片で取り上げることしかできなかった。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の中央部が浅く、ロームブロックが混入する暗褐色土を基調とした土が、床面から最大 14 cm ほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 436 点、9,181.2 g が出土している。内訳は土器が縄文土器は早期稻荷原式期、前期黒浜式期、中期加曾利 E 式期の深鉢、須恵器は壺類や高台付壺類、高台付盤・壺・甕壺類・蓋、土師器の壺類や甕壺類・蓋、石製品が凝灰岩製の支脚、鉄製品が釘である。このうち 9 点の遺物を図示することができた。1 は底部外面「|」ヘラ記号を伴う須恵器壺である。2・3 は須恵器の高台付壺、4 は底部外面部読不明のヘラ記号を伴う須恵器高台付盤、5 は須恵器の甕口縁部片である。外面に黒色付着物が確認できる。6 はかえりを伴わない須恵器の蓋である。1 から 6 は、その胎土から木葉下窯跡群産であろう。7 は内面を黒色処理されている、かえりを伴わない土師器の蓋である。8 は土師器の常緑型甕である。最大径は不明である。9 は凝灰岩製の石製支脚である。外面を複数面の面取りをして円柱状に成形している。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況より 9 世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 13 表 第 4 号住居跡ビット属性一覧

ビット番号	位置	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕				埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考	
		平面形態	断面形態	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	底面アラリ数	平面形・位置	アラリ径 (m)	断面柱痕						
1号ビット	北西	円形	有段壠状	61	—	77	ほぼ垂直	丸珠を帯びる	1	円形 ・中央	20	—	自然	主柱穴	—	土師器甕
2号ビット	北東	不整	有段壠状	63	—	76	ほぼ垂直	起伏をもつ	2	円形 ・北東	23 × 24 × (12)	—	自然	主柱穴	—	須恵器甕 土師器甕
3号ビット	南西	椭円形	逆円形壠状	61	51	67	急角度	起伏をもつ	2	椭円形 ・南東	14 × 11 × (11)	—	自然	主柱穴	—	須恵器甕 土師器甕
4号ビット	南東	円形	有段壠状	77	—	74	ほぼ垂直	平坦	2	楕丸形および円形 ・中央やや東側および中央	21 × 20 × (30)	有り	自然	主柱穴	SB02P6 に後続	土師器甕
5号ビット	南側 中央	椭円形	壠状	57	41	14	ほぼ垂直	丸珠を帯びる	—	—	—	—	自然	出入口ビット	—	無し
6号ビット	中央	円形	壠状	33	—	21	緩やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	不明	—	須恵器甕 高台付甕 土師器甕

第20図 第4号住居跡



第4号住跡

- 1 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。
粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。練まる。ローム粒子を少量含む。
- 3 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。練まる。ローム粒子を少量含む。
- 4 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、やや練まる。
粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
- 5 10YR4.6 削黄褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 3cm～5cm）・ローム粒子・ローム土を多量に含む。
- 6 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
- 7 10YR3.3 棕褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・僥土ブロック（φ 1cm）を少量、練土粒子を微量含む。
- 8 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。
粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。
- 9 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量、僥土粒子・僥土粒子を微量含む。
- 10 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。
- 11 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）を少量に含む。
粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。
- 12 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量、僥土粒子を微量含む。
- 13 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
- 14 10YR4.3 棕褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ローム粒子・僥土粒子・粘土粒子を少量含む。
- 15 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に含む。
粘性をもち、強く練まる。ローム粒子を少量含む。
- 16 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ローム粒子を少量、僥土粒子・粘土粒子を微量含む。
- 17 2.5YR4.6 削黃褐色土層 粘性に欠け、やや練まる。僥土ブロック（φ 1cm）を多量に含む。
粘性をもち、練る。ローム粒子を多量に含む。
- 18 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ローム粒子を少量含む。
粘性をもち、強く練まる。ローム粒子を少量含む。（粘膜）
- 19 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。（握り方）
- 20 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。（握り方）

第4号住跡1号ビット

- 1 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・黑色土粒子を少量含む。
- 2 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ロームブロック（φ 1cm～2cm）・ローム粒子を少量含む。
- 3 10YR4.6 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 2cm）を少量含む。
- 4 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。

第4号住跡2号ビット

- 1 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・黑色土粒子を少量含む。
- 2 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 2cm）を少量含む。
- 3 10YR4.6 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 2cm）を少量含む。
- 4 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。

第4号住跡3号ビット

- 1 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・黑色土粒子を少量含む。
- 2 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 2cm）を少量含む。

第4号住跡4号ビット

- 1 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・黑色土粒子を少量含む。
- 2 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ロームブロック（φ 1cm～2cm）・ローム粒子を少量含む。
- 3 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。

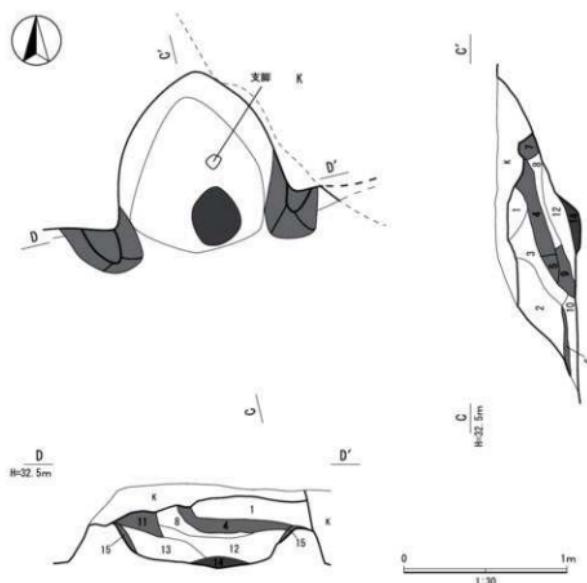
第4号住跡5号ビット

- ① 10YR2.4 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。

第4号住跡6号ビット

- 1 10YR2.3 黑褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4.4 棕褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 5cm）・ローム粒子を多量に含む。
- 3 10YR4.3にぶい黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。

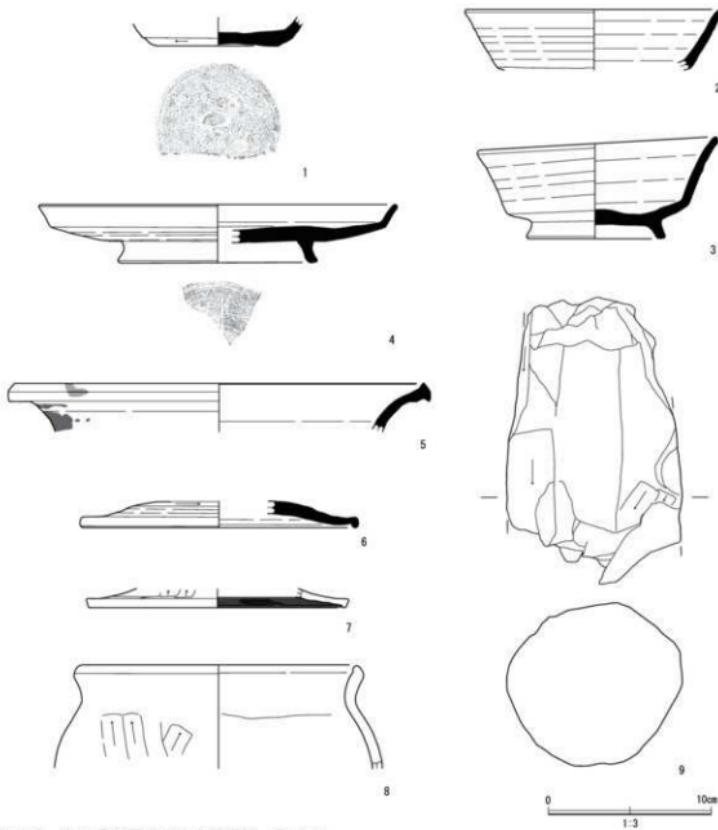
第21図 第4号住居跡カマド



第4号住居跡カマド

- 1 2.5mR/4 赤赤褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子、粘土粒子を少量含む。
- 2 2.5mR/4 淡赤褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子を多量、粘土粒子を微量含む。
- 3 2.5mR/4 淡赤褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を含む。粘土ブロック ($\phi 2\text{cm}$) を少量含む。
- 4 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土ブロック ($\phi 2\text{cm}$) を多量に、粘土ブロック ($\phi 1\text{cm}$) を微量含む。
- 5 10YR4/4 淡黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子、黑色土を多量に含む。
- 6 10YR4/4 淡黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土ブロック ($\phi 3\text{cm}$) を多量に、粘土粒子を微量含む。
- 7 10YR4/4 淡黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。
- 8 10YR4/3 にじみ黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子、粘土粒子を少量含む。
- 9 10YR4/4 淡黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。
- 10 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子、粘土粒子を少量含む。
- 11 10YR7/7 明るい褐色シルト層 黒色土を少量含む。
- 12 2.5mR/4 淡褐色土層 やや粘性をもち、やや締まる。粘土ブロック ($\phi 1\text{cmから}3\text{cm}$)、粘土粒子を少量含む。
- 13 10R4/8 褐色土層 粘性に欠け、やや締まる。粘土ブロック ($\phi 1\text{cm}\sim 2\text{cm}$)・粘土粒子を多量に、粘土ブロック ($\phi 1\text{cm}\sim 2\text{cm}$)・粘土粒子を少量含む。(燒成部)
- 14 10R4/8 赤色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。
- 15 10YR8/3 淡黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。

第22図 第4号住居跡の出土遺物



第14表 第4号住居跡出土土器属性一覧 (1)

調査 番号	出土地 名	層位 層	種別 器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	有鉢 骨針	焼成 度	色調	備考
1	S104	壁土	單底 器	瓶	10	—	7.3	<1.7	体部外反回転ナダ。底部内部右回転 巻き上げ瓶。外面右回転ヘラ切り離 し後ナダ。	白色粒子・チャート粒・ 小繖	○ 良好	2.5 Y 7/1 下部 灰白色	木葉 腹部外面「」 へ少記号 絞形	
2	S104	壁土	單底 器	高台口縁部 付帯～底部	5 (5, 6)	—	(3, 6)	—	体部下端角度を変え直角的に立ち上 がる。口縁部内外斜ヨコナダ。体部 外面回転ナダ。ロクロ口継着、内面 丁寧なナダ。	白色粒子・石英粒・チ ャート粒・小繖	○ 良好	10 YR 6/2 灰黃褐色	木葉 下端 絞形	
3	S104	壁土	單底 器	高台口縁部 付帯～底部	75	14.5	8.3	6.3	体部わざわざ外反して立ち上がる。 口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面 回転ナダ。外面ロクロ口継着、内面 丁寧なナダ。底部内面丁寧なナダ、 外面右回転ヘラ切り離し後ナダ。高 台部貼り付け。	白色粒子・石英粒・チ ャート粒・小繖	○ 良好	5 Y 5/1 灰色	木葉 下端 絞形	

第 15 表 第 4 号住居跡出土土器属性一覧 (2)

区段 番号	出土地 点遺構	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法		胎土	海綿 骨針	焼 成	色調	焼成 度	備考
4	S104 カマド	覆土 層	須恵器	高台 器	口縁部 付盤	5	—	(12.0)	3.6	口縁部短く外反する。内外面ヨコナ ダ。体部内外面丁寧なナダ。底部外 面右回転へラ切り離し後ナダ。高台 脚貼り付け。体部内面に自然輪。	白色粒子・石英粒・チ ヤート粒・小礫	○	良 好	7.5 YR 6/2 灰褐色	木葉 底部外面駆出 下端不明のヘラ記 跡群		
5	S104	覆土 層	須恵器	便	口縁部	5	(25.0)	—	(3.0)	口縁部外側に開き、口唇部をT字状 に形成して上端を二面面取り。口縁 部内外面ヨコナダ。内外面に自然輪。	白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒 子	×	良 好	5 Y 7/1 灰色 5 Y 3/1 下端 オーリーブ灰色	木葉 外面に黑色付 跡群		
6	S104	覆土 層	須恵器	蓋	天井部 裏	5	(16.0)	—	(1.6)	底部短く垂下させる。かえりなし。 天井部外面右回転へラケクリ後ナダ。 内面回転ナダ。	白色粒子・石英粒・チ ヤート粒	○	良 好	10 YR 6/1 灰褐色	木葉 下端 跡群		
7	S104	覆土 層	土師器	蓋	縦部	5	(15.0)	—	(1.2)	底部短く垂下させる。かえりなし。 天井部外面ナダ、内面丁寧なナダ。 内面無釉。	白色粒子・長石粒子	×	良 好	10 YR 5/4 灰 にぶい黄褐色	—		
8	S104 カマド	覆土 層	土師器	便	口縁部 下脚部	5	(16.0)	—	(6.3)	常緑型。口唇部肥厚して、内側に つまみ出される。口縁部内外ヨコ ナダ。脚部外表面方向へラケクリ後 ナダ。内面ナダ。	白色粒子・石英粒・チ ヤート粒・雲母片	×	良 好	2.5 YR 6/4 にぶい橙色	—		

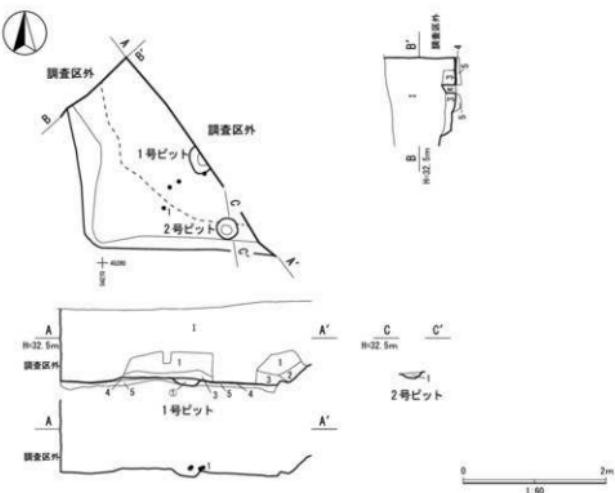
第 16 表 第 4 号住居跡出土石製品属性一覧

区段 番号	出土地 点遺構	層位	種別	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法		備考	
9	S104 カマド	覆土	石製品	支脚	磁灰岩	(18.0)	10.7	10.0	1022.8	上方に窄まる円柱状。外表面無釉だが、複数面の曲取 り。全面被熱。			

第 5 号住居跡 (第 22・23 図, 第 17・18 表, 写真図版 4・19)

1 区の北東側、標高 32.2 m 付近に単独で位置する。住居跡の南西部分以外は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、上面の擾乱やトレンチャー痕などが原因で不良である。長軸現存 267 cm、短軸現存 266 cm の推定隅丸方形を呈し、主軸方位は N - 2° - W を示す。断面形は逆台形状を呈し、最大壁高は 28 cm ほどを測り、緩やかに立ち上がる。土層は 5 層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面はやや起伏をもち、にぶい黄褐色土を基調とした厚さ 1 cm から 4 cm ほどの軟弱な貼床が、住居跡中央部を中心に形成されている。壁溝は検出されていない。柱穴は 2 基検出されたが、主柱穴は不明である。また、出入口ピットはその位置から 2 号ピットの可能性が高い。カマドは検出されていないが、本遺跡の傾向として調査区外である北壁に位置すると考えられる。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面を、ロームブロックが混入する明黄褐色土を基調とした土が、床面から最大 11 cm ほど及んでいる。底面は起伏に富む。遺物は 22 点、304.4 g と少数にとどまっている。内訳は土器が須恵器の壺類や盤・鉢・蓋、土師器の壺類や甕壺類である。このうち 1 点の遺物を図示することができた。1 は須恵器の壺である。体部外面上にクロ目が顕著に残り、胎土に海綿骨針が含まれる木葉下窓跡群の遺物である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況より 9 世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第23図 第5号住居跡



第5号住居跡

- 1 10YR 4/3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
- 2 10YR 4/3 地褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 3 10YR 4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。
- 4 10YR 4/3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。(底床)
- 5 10YR 7/明黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に含む。(振り方)

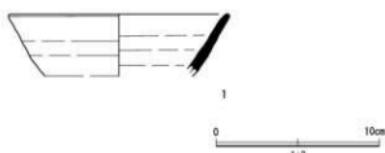
第5号住居跡1号ビット
① 10YR 2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。

第5号住居跡2号ビット
1 10YR 2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

第17表 第5号住居跡ビット属性一覧

ビット番号	位置	平面 形態	断面 形態	断面			壁立ち 上がり	底面状況	柱痕		埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			底面ア カリ数	平面形 状	アリケ ン位置	断面 柱痕			
1号ビット	中央	南北形 窓状	39	(26)	21	緩やか 丸味を帯びる	-	-	-	-	自然	不明	-	無し	北東側1/2が 調査区外
2号ビット	南側 中央	円形 窗状	29	-	12	緩やか 丸味を帯びる	-	-	-	自然	出入口 ビット	-	無し		

第24図 第5号住居跡の出土遺物



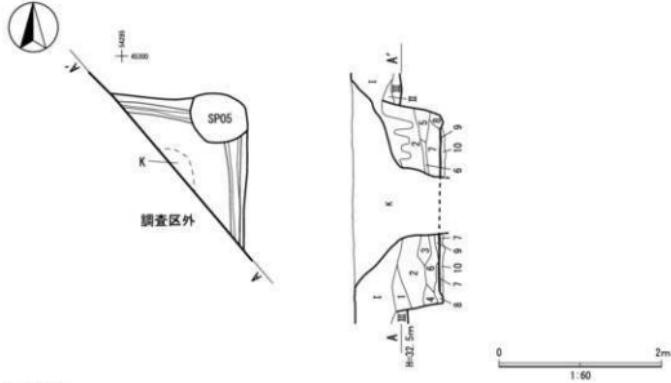
第18表 第5号住居跡出土土器属性一覧

測定番号	出土地點	層位	理別	器種	部位	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	特徴・手法	胎土	陶輪 骨針	焼成度	色調	焼成原因	備考
1	S10B	褐色土層	球形	口縁部 ～体部	5	(13.4)	—	—	—	表面直線的に立ち上がる。口縁部内 外面ヨコナダ、体部外側ロクロ目を 有し、回転ナダ、内面丁寧なナダ。	白色粒子・石英粒	○	良好	5Y6/2灰 オリーブ色 緑色	木葉下窓 緑色	

第6号住居跡（第24図、写真図版4）

2区の南西側、標高32.5 m付近に第5号ピットに先行して位置する。住居跡の北東側以外は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、中央部に大きな擾乱が位置することなどからやや不良である。長軸現存174 cm、短軸現存172 cmの推定方形を呈し、主軸方位はN-5°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は48 cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は10層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、にぶい黄褐色土を基調とした厚さ1 cmから4 cmほどの堅固で緻密な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して、幅15 cmから27 cm、深さ4 cmほどを測る。柱穴やカマド、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面に、ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が、床面から最大6 cmほど及んでいる。底面はやや起伏をもつ。遺物は3点、13.9 gとごく少量にとどまる。内訳は土器が須恵器の壺類、土師器の甕壺類である。しかし、すべて細片のため図示することはできなかった。出土遺物が少數のため判断が難しいが、遺構の形状や覆土の状況、重複関係より9世紀代の所産であった可能性が高い。

第25図 第6号住居跡



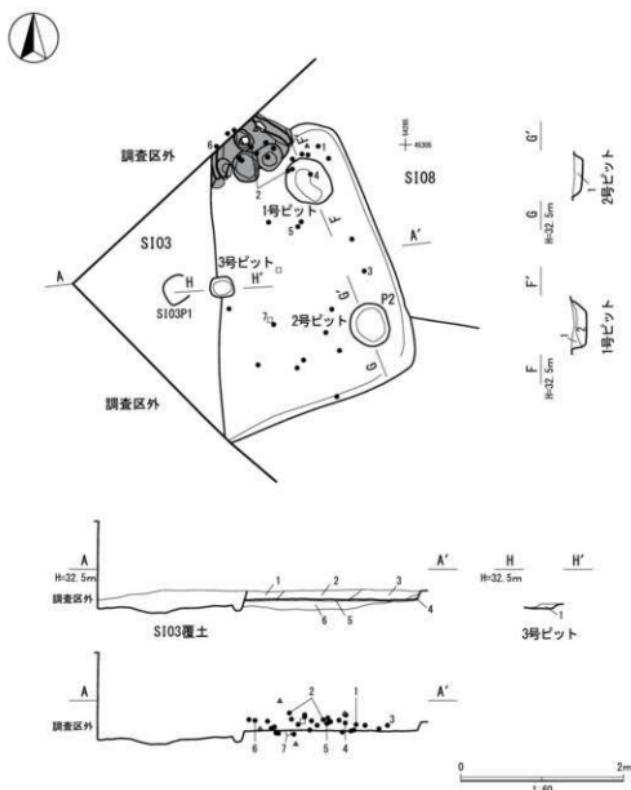
第6号住居跡

- 1 10Y9/4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック(φ1cm)・ローム粒子を少量含む。
- 2 10Y9/2.3 黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・褐色土を少量含む。
- 3 10Y9/4.4 黄褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック(φ1cm)・ローム粒子・黑色土を少量含む。
- 4 10Y9/4.4 黄褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を微量。ロームブロック(φ1cm)を微量含む。
- 5 10Y9/2.3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を微量含む。
- 6 10Y9/4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・黑色土を少量。ロームブロック(φ2cm)を微量含む。
- 7 10Y9/4.4 黄褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック(φ2cm)・ローム粒子を少量含む。
- 8 10Y9/5.8 黄褐色土層 粘性をもつて、練まりに次ぐ。ロームブロック(φ1cm~4cm)主体。黑色土を少量含む。(柱床)
- 9 10Y9/4.3にぶい黄褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック(φ2cm)を微量に含む。
- 10 10Y9/2.3 黑褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック(φ1cm)を少量含む。(裏り方)

第7号住居跡（第25～27図、第19～22表、写真図版4・5・20）

2区の西側、標高32.5m付近に、第3号住居跡に先行、第8号住居跡に後続して位置する。住居跡のカマド煙道の一部が調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、上面が擾乱で削平され、第3号住居跡に掘り込まれていることからやや不良である。長軸333cm、短軸現存267cmの隅丸方形を呈し、主軸方位はN-22°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、最大壁高は37cmほどを測り、緩やかに立ち上がる。土層は6層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、黒褐色土を基調とした厚さ1cmから3cmほどの堅固で緻密な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は検出されていない。柱穴は3基検出され、このうち主柱穴は1・2号ピットの2基である。その他の主柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは住居跡北壁の東寄りに、北壁を確認された範囲で33cmほど削り出して構築されていて、N-25°-Wの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは118cm、袖部外側の幅は確認された範囲で72cmを測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の明黄褐色シルトやにぶい黄褐色シルトが主体的に含まれる2層や8層が崩落土と考えられる。袖部は上面を擾乱に削平されているが概ね良好に遺存していて、浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用していて、芯材として厚さ5cmほどに打ち欠いた凝灰岩を利用している。袖部内側の最大幅は92cmを測り、火床部は床面から7cmほど円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化して、焼土のブロック化が僅かに確認されている。火床面から煙道部は段を持ち、緩やかに立ち上がる。カマド中央部に、凝灰岩を円柱状に削り出して制作された支脚が検出されている。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の中央部を深く掘り窪められ、ロームブロックが混入する暗褐色土を基調とした土が、床面から最大11cmほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は454点、11,919.5gが出土している。内訳は土器が繩文時代中期加曾利E式期の深鉢、弥生時代後期十王台式期の甕壺類、須恵器の坏類や高台付坏類・高台付盤・高盤・壺・甕壺類・鉢・蓋、土師器の坏類や高台付坏類・甕壺類、石製品の凝灰岩製支脚やカマド芯材、平瓦、凝灰岩の礫である。このうち7点の遺物を図示することができた。1から3は体部に膨らみをもつ土師器の坏である。3は内面黒色処理が施され、外面の一部にもその影響が確認される。また、底部外面に満巻き状のヘラ書きが確認される。4・5は土師器の高台付坏である。内面を黒色処理が施され、4が体部外面に黒色付着物、5は底部外面に僅かだが、墨様の付着物が確認される。7は凸面がナデ整形される平瓦である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第26図 第7号住居跡



第7号住居跡

- | | |
|-------------------|--|
| 1 10YR 3 黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 2 10YR4.3に近い黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に含む。 |
| 3 10YR4.4 黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に含む。 |
| 4 10YR4.4 黑褐色土層 | 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 5 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。（鉢底） |
| 6 10YR3 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 2cm~4cm）を多量に含む。（裏り方） |

第7号住居跡 1号ビット

- | | |
|-----------------|---|
| 1 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 2 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）を少量、ローム粒子を微量含む。 |

第7号住居跡 2号ビット

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|-----------------------|

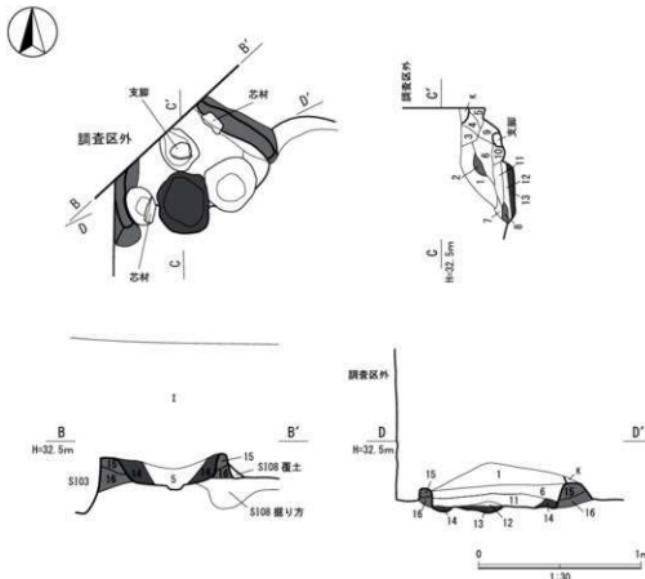
第7号住居跡 3号ビット

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|-----------------------|

第19表 第7号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規模			壁立ち 上がり	底面状況	柱痕			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				直径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			底面ア タリ面 積	半周面 アタリ面 積	断面 面積					
1号ピット	北東	椭円形	盤状	61	52	20	緩やか	やや起伏をもつ	—	—	—	自然	主柱穴	—	土器群	
2号ピット	南東	椭円形	盤状	53	48	12	緩やか	丸座を帯びる	—	—	—	自然	主柱穴	—	土器群	
3号ピット	中央	椭円形	盤状	28	24	13	緩やか	丸座を帯びる	—	—	—	自然	不明	—	無し	

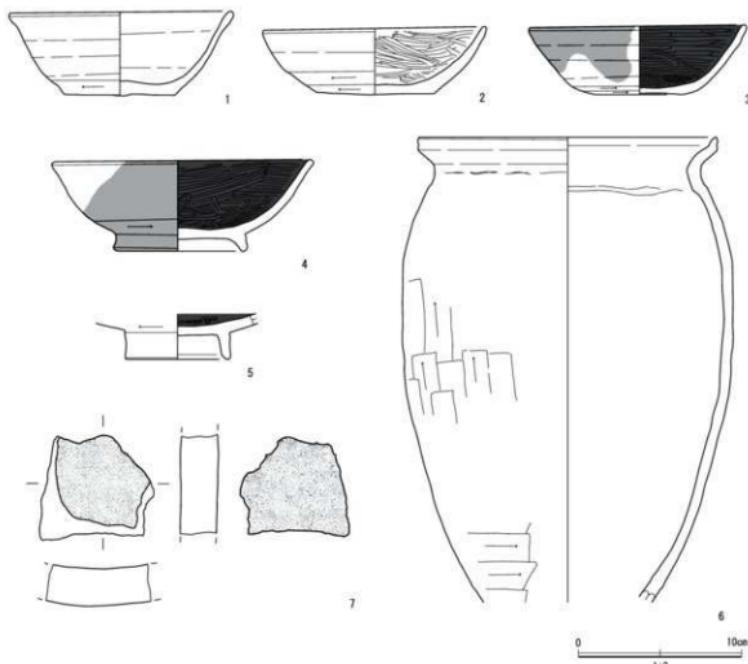
第27図 第7号住居跡カマド



第7号住居跡カマド

- 1 10YR3/4 暗褐色土層
 - 2 10YR7/6 暗黄褐色シルト層
 - 3 10YR4/3(に)~5(に) 暗褐色土層
 - 4 2.5YR4/6 暗赤褐色土層
 - 5 10YR2/3 黒褐色土層
 - 6 2.5YR4/6 赤褐色土層
 - 7 10YR2/3 黑褐色土層
 - 8 10YR4/3(に)~5(に) 黑褐色シルト層
 - 9 2.5YR4/6 暗褐色土層
 - 10 10YR3/4 暗褐色土層
 - 11 10YR2/3 黑褐色土層
 - 12 2.5YR4/6 赤褐色土層
 - 13 10YR2/3 暗褐色土層
 - 14 10YR2/3 暗褐色土層
 - 15 10YR8/3 暗黄褐色シルト層
 - 16 10YR8/3 暗黄褐色シルト層
- 粘性をもち、やや締まる。粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
粘性に欠け、締まる。黑色土を少量含む。
- 粘性をもつが、締まりに欠ける。粘土ブロック（φ 0.5cm）を多量に。粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
- やや粘性をもち、締まる。粘土ブロック（φ 0.5cm）を多量に。粘土粒子・粘土ブロック（φ 0.5cm）・粘土粒子を少量含む。
- 粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量含む。
- やや粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量含む。
- 粘性をもち、やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ 1cmから3cm）。粘土粒子を少量含む。
- 粘性をもち、締まる。ローム土を多量に含む。
- 粘性をもち、やや締まる。粘土粒子を多量に。粘土ブロック（φ 1cm～4cm）。黑色土を少量含む。
- やや粘性をもが、やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ 2cmから3cm）。粘土粒子を少量含む。
- 粘性をもち、やや締まる。粘土粒子を多量に。粘土ブロック（φ 1cm）。粘土粒子を少量含む。
- やや粘性をもつが、やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ 1cmから3cm）主体。(燃焼部)
- 粘性をもち、締まる。粘土粒子を微量含む。
- 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。(袖部)
- 粘性をもち、締まる。粘土粒子を多量に。褐色土を少量含む。(袖部)

第28図 第7号住居跡の出土遺物



第20表 第7号住居跡出土土器属性一覧 (1)

器種	出土地 番号	層位 点遺構	理別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	面糊 骨針	焼成 度	色調	焼成 度	備考
1	S107	覆土 上部 器	井	口縁部 ～底部		90	13.5	6.8	5.2	口縁部わざかに外反して、底部わざかに突出、体部膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面丁寧なナギ。底部外面右回転へラ切り離し後ナギ。	白色粒子・石英粒 ・チャート粒 ・雲母片・小礫	×	良好	7.5 YR 7/4 にぶい褐色	-	
2	S107	カバ 泥+ 覆土	土掘 器	井	口縁部 ～底部	80	13.5	7.1	4.2	体部わざかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナギ。体部外面丁寧なナギ。底部外面左回転へラ切り離し後ナギ。	白色粒子 ・チャート粒 ・小礫	×	良好	7.5 YR 6/4 にぶい褐色	-	
3	S107	覆土	土掘 器	井	口縁部 ～底部	65	13.1	5.4	4.3	内墨跡。体部わざかに膨らみを持つ。口縁部外面ヨコナギ。体部外面丁寧なナギ。下端右方向手忤もハラズリ。内面丁寧なナギ後横方向ミガキ半。底部前面一方向ミガキ。外面右方向回転へラ切り離し後ナギ。	白色粒子・赤色粒子 ・石英粒 ・チャート粒・小礫	×	良好	10 YR 6/2 灰黃褐色	-	体部外面一部 黒色化。渋巻 状のヘラ書き
4	S107	覆土	土掘 器 高台	口縁部 付近～底部		80	15.7	7.7	5.7	内墨跡。体部わざかに膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナギ。体部外面丁寧なナギ。内面横及び斜方向のミガキ。底部内部多方向のミガキ。底部外面左回転へラ切り離し後ナギ。高台部貼り付け。	白色粒子・石英粒 ・雲母片	×	良好	7.5 YR 6/4 にぶい褐色	-	体部外面全面 に黒色付着物

第21表 第7号住居跡出土土器属性一覧(2)

区段 番号	出土地 点番号	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	壁高 (cm)	特徴・手法			土質	海綿 骨針	焼成 度	色調	備考
5	S107	覆土	土師 器	高台 付杯	底部	25	—	6.2	(2, 8)	底部内面黒色化。多方向の弱いミガ 牛、外面左回転へラ切り離し後ナダ。 高台底部状、貼り付け。	白色粒子・石英粒	×	良好	7.5 YR 7/4 にぶい橙色	—	底部張かな外 面墨状の鉢底	
6	S107 カマド	覆土	土師 器	窯 窓	口縁部 ～胸部	16	(18, 2)	—	(28, 6)	窓縁型窓。口縁部上方につまみ出さ れる。口縁部外側口コナデ。胸部 外面上から中腹窓方向へナダ後 ナダ。最大径は脚部上位。	白色粒子・石英粒 ・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 YR 5/6 明褐色	—		

第22表 第7号住居跡出土瓦属性一覧

区段 番号	出土地 点番号	層位	種別	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	凹面痕跡	凹面調査	凸面痕跡	凸面調査	土質 基物	海綿 骨針	焼成 度	色調	備考
7	S107	覆土	平瓦	(6, 3)	(6, 9)	2.2	118.3	日の輪か い布目	—	—	丁寧なナ ダ	白色粒子・石英粒	×	良好	10 YR 5/2 灰黄褐色	一枚造り

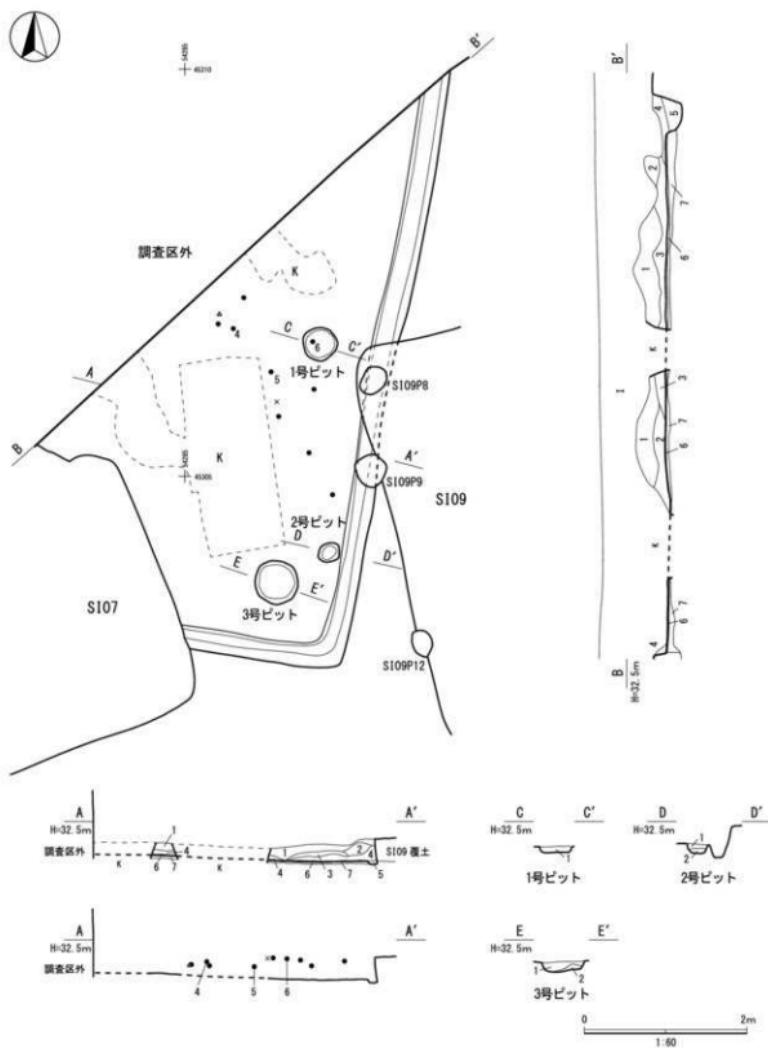
第8号住居跡(第28・29図、第23・24表、写真図版5・21)

2区の西側、標高32.5 m付近に、第7号・9号住居跡に先行して位置する。住居跡の中央部から北西側が調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、中央部や上面に大きな擾乱が位置することや南西側が第7号住居跡で掘り込まれてことなどからやや不良である。長軸現存756 cm、短軸現存427 cmの方形を呈し、主軸方位はN-11°-Eを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は28 cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は7層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、にぶい黄褐色土を基調とした厚さ1 cmから2 cmほどの堅固で緻密な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁構造は確認された範囲で全周して、幅28 cmから34 cm、深さ4 cmから20 cmほどを測る。柱穴は3基検出されたが、このうち主柱穴は1号・3号ビットの2基、その他の主柱穴や出入口ビットは確認されていない。カマドは検出されていないが、覆土に粘土粒子や焼土粒子が確認されていることや、本調査地点の傾向から調査区外である北壁に位置すると考えられる。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の中央部が浅く、ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が、床面から最大14 cmほど及んでいる。底面はやや起伏に富む。遺物は120点、4,919.3 gが出土している。内訳は土器が縄文時代前期黒浜式期、中期加曾利E式期の深鉢、弥生時代後期十王台式期の甕壺類、須恵器の壺類や壺・甕壺類・鉢・蓋、土師器の壺類や高台付杯類・甕壺類、鉄滓や安山岩の礫である。このうち5点の遺物を図示することができた。1は短いかえりを伴う須恵器の蓋である。2から4は土師器の壺である。3は器面に赤彩が施される。5は土師器の常縦型甕である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より7世紀後葉から8世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第23表 第8号住居跡ビット属性一覧

ビット番号	位置	平裏 形態	断面 形態	規格			壁立ち 上がり	底面状況	柱底			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			底面ア タリテ ー	平面形 ・目差	アタリテ ー					
1号ビット	東	円形	逆台 形狀	40	—	7	緩やか 丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	主柱 穴	—	無し	
2号ビット	南東	円形	筒状	28	—	13	緩やか 丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	不明	—	無し	
3号ビット	南東	円形	逆台 形狀	56	—	13	緩やか 丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	主柱 穴	—	無し	

第29図 第8号住居跡



第8号住居跡

- 1 10YR2/3 黒褐色土層
2 10YR4/4 棕色土層
3 10YR4/4 黑褐色土層
4 10YR3/4 棕褐色土層
5 10YR3/3 棕褐色土層
6 10YR4/3 こぶらい黒褐色土層
7 10YR2/2 黑褐色土層
8 10YR2/3 黑褐色土層
9 10YR2/3 黑褐色土層
10 10YR4/4 棕色土層
11 10YR2/3 黑褐色土層
12 10YR4/4 棕色土層

粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に。ロームブロック（ $\phi 1\text{cm}$ ）を少量含む。粘性をもち、締まる。ロームブロック（ $\phi 1\text{cm}$ ）・ローム粒子を少量含む。粘性をもち、締まる。ロームブロック（ $\phi 1\text{cm} \sim 2\text{cm}$ ）・ローム粒子を少量。焦土粒子・粘土粒子を微量含む。

粘性をもちが、やや締まる。ローム粒子を少量含む。(粘床)

粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（ $\phi 1\text{cm} \sim 4\text{cm}$ ）を多量に含む。(粘床)

第8号住居跡 1号ビット

- 1 10YR2/3 黑褐色土層

粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

第8号住居跡 2号ビット

- 1 10YR2/3 黑褐色土層

粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

- 2 10YR4/4 棕色土層

粘性をもち、締まる。ロームブロック（ $\phi 4\text{cm}$ ）・ローム粒子を少量含む。

第8号住居跡 3号ビット

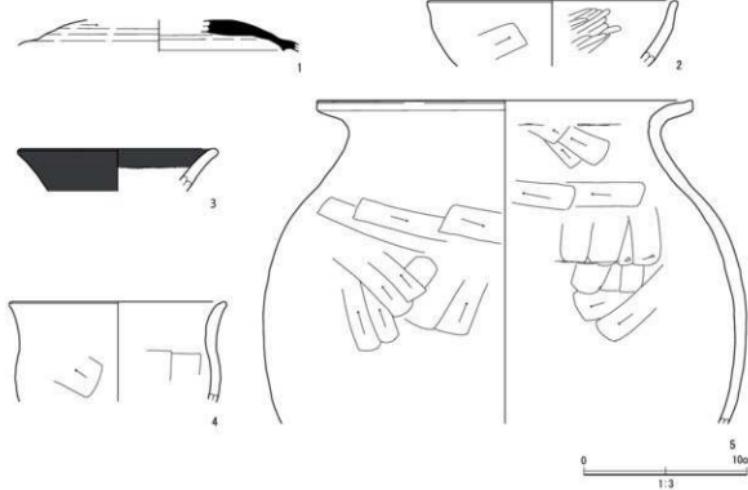
- 1 10YR2/3 黑褐色土層

粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

- 2 10YR4/4 棕色土層

粘性をもち、締まる。ロームブロック（ $\phi 4\text{cm}$ ）・ローム粒子を少量含む。

第30図 第8号住居跡の出土遺物



第24表 第8号住居跡出土土器属性一覧

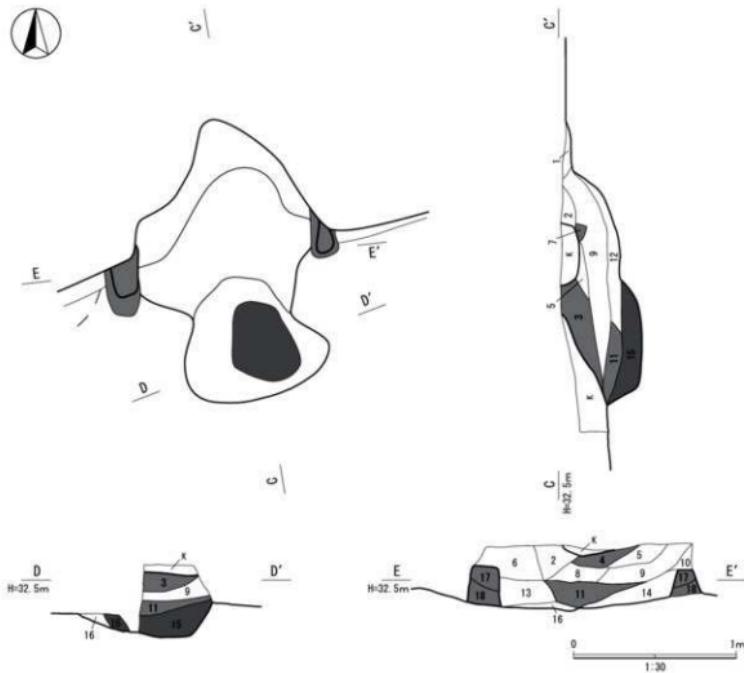
固版 出土地 番号	出土地 点番号	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	釉土	海綿 骨針	焼成 度	色調	焼成 度	備考
1	S108	板土	板土器	蓋	天井部	5	<17.0	—	<1.9	かいえり短く貼り付けた。天井部外面左回転へケタツリ後転ナゲ。内面ナギ。	白色粒子・チャート粒・雲母片	×	良好	10 YR 7/1 灰白色	新治 室跡群	
2	S108	板土	土罐器	坪	口縁部～体部	5	(15.0)	—	(4.0)	体部膨らみをもち、口縁部短くわざりながら外傾。内外面ヨコナギ。体部外丁寧なナギ、内面斜方向ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	5 YR 6/6 褐色	—	
3	S108	板土	土罐器	坪	口縁部～体部	5	(11.8)	—	(2.6)	口縁部外傾して、外表面ヨコナギ。体部外面丁寧なナギ。内面斜方向強ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・雲母片	×	良好	2.5 YR 5/6 灰白色	—	外表面びと絞 内面赤彩。
4	S108	板土	土罐器	坪	口縁部	5	(13.0)	—	(6.1)	器高の高い坪。口縁部銀線や内反、内外面ヨコナギ。体部外面ナギ。内面横方向ミガキ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・小織	×	良好	5 Y 4/1 灰白色	—	
5	S108	板土	土罐器	裏	口縁部～胴部	15	(23.0)	—	(19.8)	器底型窓。口縁部わずかに上方につまみ出す。口縁部内外面ヨコナギ。底部外周斜方向のヘタツリ後ナギ。内面横方向ヘラナギ後ナギ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片・小織	×	良好	7.5 YR 6/6 褐色	—	

第9号住居跡（第30～35図、第25～29表、写真図版6・7・21～26）

2区の中央部、標高32.5m付近に、第1号掘立柱建物跡や第3号土坑、第6号ピットに先行、第8号・第13号・第14号住居跡に後続して位置する。住居跡の南側の半分は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、北西側や西側に大きな擾乱が位置するが概ね良好である。長軸562cm、短軸528cmの方形を呈し、主軸方位はN-14°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は55cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は9層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、にぶい黄褐色土を基調とした厚さ1cmから2cmほどの堅固で緻密な貼床が、中央部を中心に形成されている。壁溝は北壁際および北西壁際の一部を除き、全周して、幅20cmから42cm、深さ8cmから14cmほどを測る。柱穴は16基検出され、このうち主柱穴は1号ピットから4号ピットの4基、出入口ピットはその位置から15号ピットと考えられる。また、5号ピットから14号ピットはその位置関係から壁柱穴と考えられる。カマドは住居跡北壁中央部に、北壁を77cmほど削り出して構築されていて、N-14°-Wの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは169cm、袖部外側の幅は142cmを測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の浅黄褐色シルトが主体的に含まれる3層や7層・11層が崩落土と考えられる。袖部は上面や一部を擾乱で破壊されることなどから遺存度は不良である。構築材は浅黄褐色シルトやにぶい黄褐色土を使用している。袖部内側の最大幅は87cmを測り、火床部は床面から18cmほど不整形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化しているが、焼土のブロック化などが確認されていない。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。支脚は検出されていない。また、土坑が1基住居跡の南側に検出されているが、位置や起伏をもつ底面の状況から貯蔵穴の可能性は低く、性格は現状不明である。その他の付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の中央部が浅く、ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が、床面から最大15cmほど及んでいる。底面は起伏に富む。遺物は1,689点、26,880.7gが出土している。内訳は土器が縄文時代の中期阿玉台式期および加曾利E式期、時期不明の深鉢、弥生時代後期十王台式期の壺壺類、須恵器の壺類や高台付壺類、高台付盤・盤・壺・長頭壺・甕壺類・鉢・蓋・円面硯、土師器の壺類や高台付壺類・蓋・皿・高台付皿・鉢・甑、灰釉陶器は壺や皿、土製品は焼成土塊、石器・石製品は縄文時代の軽石や安山岩製の砥石、鉄製品は釘や刀子・楔状製品・不明鉄製品、平瓦、雲母片岩の礫である。このうち37点の遺物を図示することができた。1は灰釉陶器の高台付皿、2・3は壺である。3の把手単位数は不明である。胎土からどちらも湖西窯跡群産の可能性が高い。4から10は須恵器壺である。4・7は底部外面に「|」状、5・6・8は底部外面に釁読不明ヘラ書き、9は体部内面に2条の平行する沈線を垂下、10は体部外面に釁読不明のヘラ書きが施される。5・9は新治窯跡群産である。11は須恵器高台付壺、12は須恵器小型壺、13は新治窯跡群産の須恵器鉢、14は須恵器甕、15・16は新治窯跡群産の須恵器甕、16は単孔である。17は疑宝珠状鉢をもつ須恵器蓋、18は須恵器円面硯の周堤部である。19から27は土師器壺である。19から21・23・24・26・27は内面が黒色処理された壺で、19から21・23・26は体部外面に釁読不明の墨書、27は体部外面に「枚口」の墨書が書かれる。28は土師器の高台付壺である。内面が黒色処理を施される。29は内面が黒色処理を施された土師器皿である。30は粗雑な土師器の鉢である。

31・32は最大径が胴部上位となる土器器常總型甕である。33は釘、34・35は刀子、36は環状の性格不明鉄製品である。37は凸面正格子目叩きの1枚造り平瓦である。本住居跡から第3号や第12号住居跡と同様に刀子を中心とした鉄製品が多数出土していることや、円面硯や長頸壺などの出土から、近隣の台渡里廃寺や那賀郡衙に関連する住居跡と考えられる。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀後葉の所産であった可能性が高い。

第31図 第9号住居跡カマド



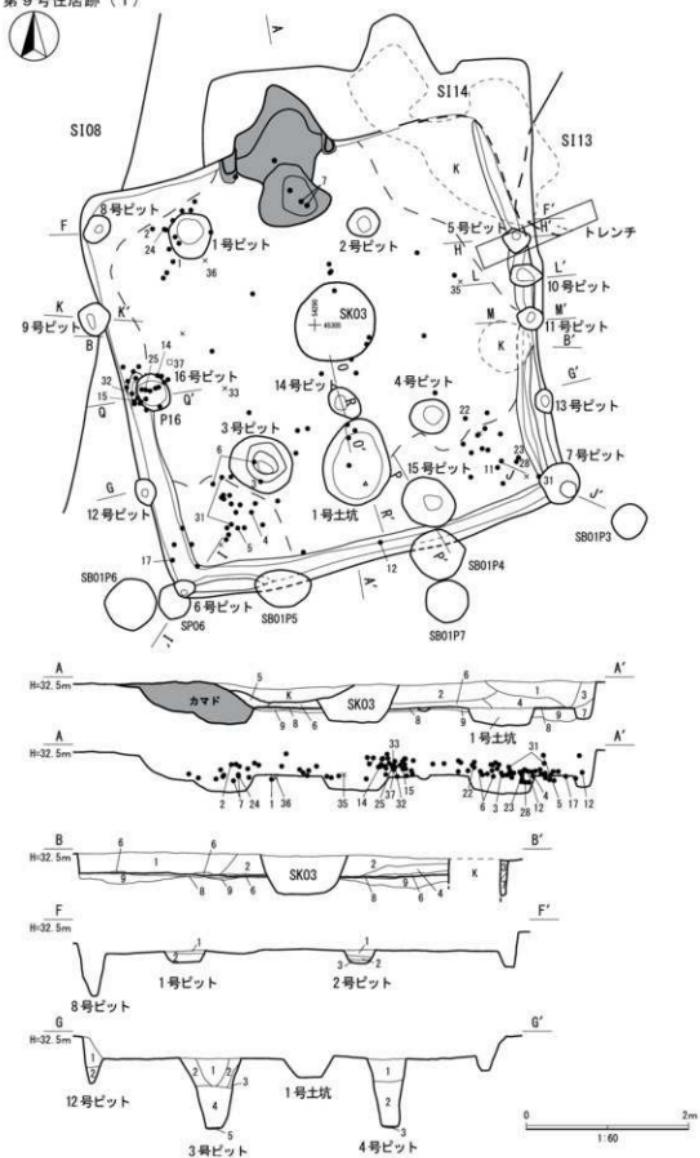
第9号住居跡カマド

- 1 10R2/3 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。粘土粒子を少量含む。
- 2 2.SYS/2 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。粘土粒子を多量に、粘土粒子を少量含む。
- 3 10YR6/3 黑黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土ブロック（φ 3cm）・粘土粒子を少量含む。
- 4 10YR2/4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 5 10YR2/4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 6 10YR2/4 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量、粘土粒子を微量含む。
- 7 10YR6/3 黑黄褐色シルト層 粘性をもち、やや締まりに欠ける。粘土粒子を主とする。
- 8 2.5SYR/2 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。土壤ブロック（φ 10cm）・粘土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
- 9 2.5SYR/4 地中褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に、粘土ブロック（φ 1cm）・粘土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
- 10 10YR4/4 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 11 10YR6/3 黑黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。
- 12 2.5SYR/8 黑褐色土層 粘性により次げる。粘土粒子主体。粘土ブロック（φ 1cm）・少量、粘土粒子を微量含む。
- 13 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子・粘土ブロック（φ 1cm）・粘土粒子を少量含む。
- 14 10YR2/4 黑赤褐色土層 粘性をもち、やや締まる。粘土ブロック（φ 0.5cm～1cm）を多量。粘土粒子・灰を少量含む。
- 15 10YR4/4 黑赤褐色土層 粘性をもち、やや締まる。粘土ブロック（φ 0.5cm～1cm）・粘土粒子・灰を多量に含む。(燃焼部)
- 16 10YR4/3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子を多量に、粘土粒子・灰を微量含む。(燃焼部)
- 17 10YR6/3 黑黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。(袖部)
- 18 10YR4/3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm）・黒色土を少量含む。(袖部)

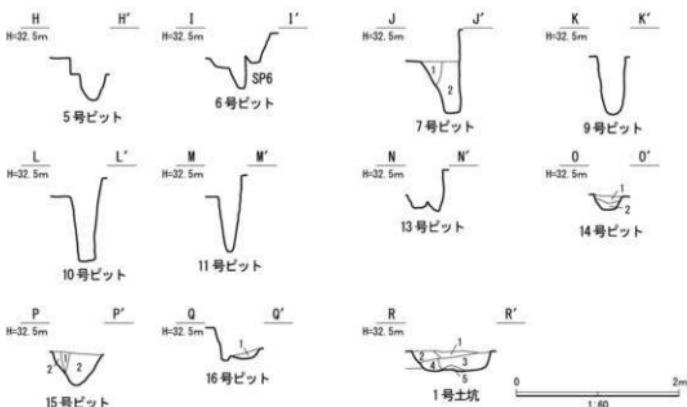
第25表 第9号住居跡ピット属性一覧

ピット・番号	位置	平面形態	断面形態	規模			壁立ち上がり	底面状況	柱痕			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			奥面アタリ数 ・位置	平均幅 (cm)	アタリ幅 (cm)						
1号ピット	北西	楕円形 逆台形状	55	52	18	緩やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	主柱穴	—	遺物器坏 土師器坏・甕		
2号ピット	北東	楕円形 逆台形状	39	35	17	緩やか	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	主柱穴	—	無し		
3号ピット	南西	楕円形 開状	77	67	82	急角度	丸塙を帯びる	1	楕円形 ・中央	21.7	12	—	自然	主柱穴	—	遺物器坏 土師器坏・甕	
4号ピット	南東	楕円形 開状	48	42	64	ほぼ垂直	丸塙を帯びる	1	円形 ・中央や や東	22	—	自然	主柱穴	—	遺物器坏 土師器坏・甕		
5号ピット	東	不整 円形 開状	34	—	52	急角度	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
6号ピット	南西隅	不整 円形 開状	21	—	39	急角度 だが一部は ほぼ垂直	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	SP06に先行	無し	底面が 住居跡の 外壁となる 斜柱	
7号ピット	南東隅	不整 円形 開状	49	—	99	急角度 だが一部は ほぼ垂直	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	遺物器坏 土師器坏		
8号ピット	北西隅	楕円形 開状	37	29	66	急角度	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
9号ピット	西	不整 円形 開状	39	—	69	ほぼ垂直	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
10号ピット	東	楕円形 開状	49	27	67	ほぼ垂直	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
11号ピット	東	円形 開状	32	—	89	ほぼ垂直	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
12号ピット	西	楕円形 開状	34	24	54	急角度	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
13号ピット	東	楕円形 開状	30	22	48	急角度 だが一部は ほぼ垂直	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	無し		
14号ピット	中央 やや南側	楕円形 開状	47	30	16	緩やか	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱穴	—	遺物器坏		
15号ピット	南	楕円形 開状	58	55	45	緩やか	丸塙を帯びる	—	—	—	—	自然	出入口 ピット	—	四面器坏・ 甕・壺・ 土師器坏・ 甕 焼成土壤		
16号ピット	西	楕円形 盤状	45	40	20	緩やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	不明	—	無し		
1号土坑	中央 やや南側	楕円形 逆台形 形状	107	83	32	緩やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	不明	—	遺物器坏・ 甕・壺・ 土師器坏・ 甕		

第32図 第9号住居跡（1）



第33図 第9号住跡(2)



第9号住跡

- 1 10YR3/3 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量。粘土粒子を微量含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・炭化粒子を微量含む。
- 3 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 4 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に。粘土粒子を微量含む。
- 5 10YR3/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 6 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・炭化粒子を微量含む。
- 7 10YR2/2 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 8 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック(φ 2cm)を多量に含む。(粘土)
- 9 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック(φ 1cm)を少量含む。(振り方)

第9号住跡 1号ピット

- 1 10YR2/2 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒子を微量含む。

第9号住跡 2号ピット

- 1 10YR2/2 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック(φ 3cm)を多量に含む。
- 3 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。

第9号住跡 3号ピット

- 1 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒子を少量。粘土粒子・粘土粒子を微量含む。
- 2 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
- 3 10YR5/5 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 4 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 5 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック(φ 2cm)を多量に含む。

第9号住跡 4号ピット

- 1 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒子を少量。粘土粒子・粘土粒子を微量含む。
- 2 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 3 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック(φ 2cm)を多量に含む。

第9号住跡 5号ピット

- 1 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
- 2 10YR4/3 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を微量含む。

第9号住跡 12号ピット

- 1 10YR2/2 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を微量含む。

第9号住跡 14号ピット

- 1 10YR2/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。

第9号住跡 15号ピット

- 1 10YR2/2 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
- 2 2.5YR3/2 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量。ロームブロック(φ 4cm)を微量含む。

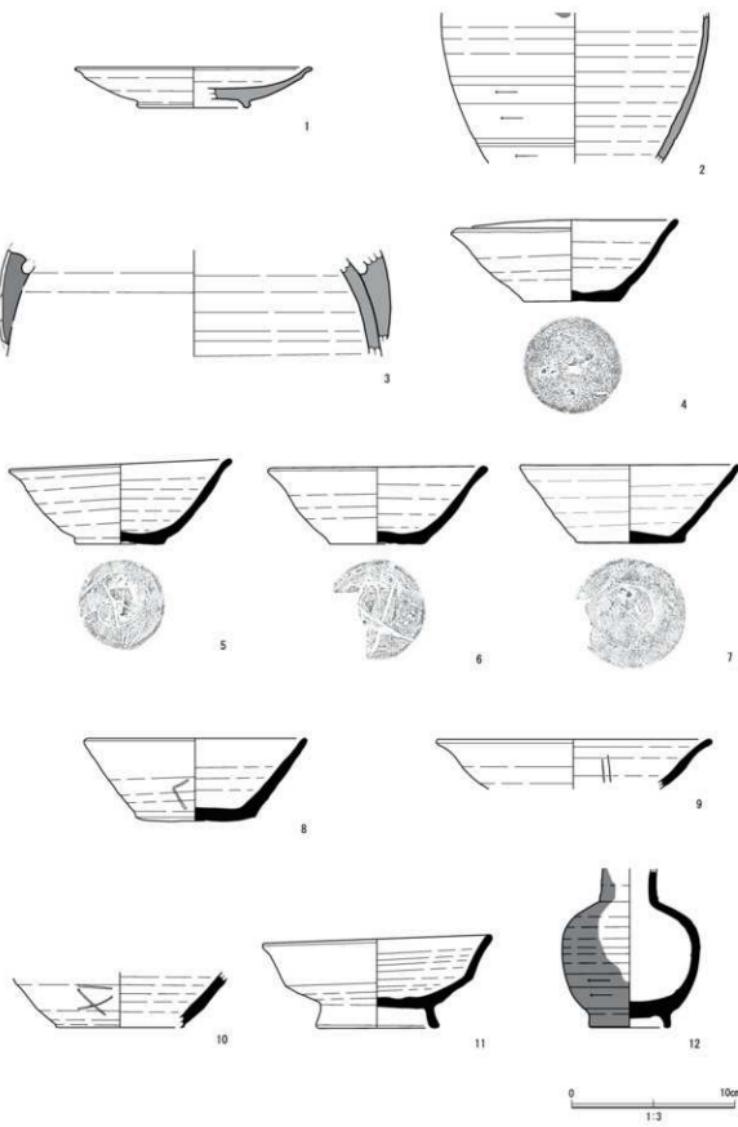
第9号住跡 16号ピット

- 1 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。

第9号住跡 17号坑

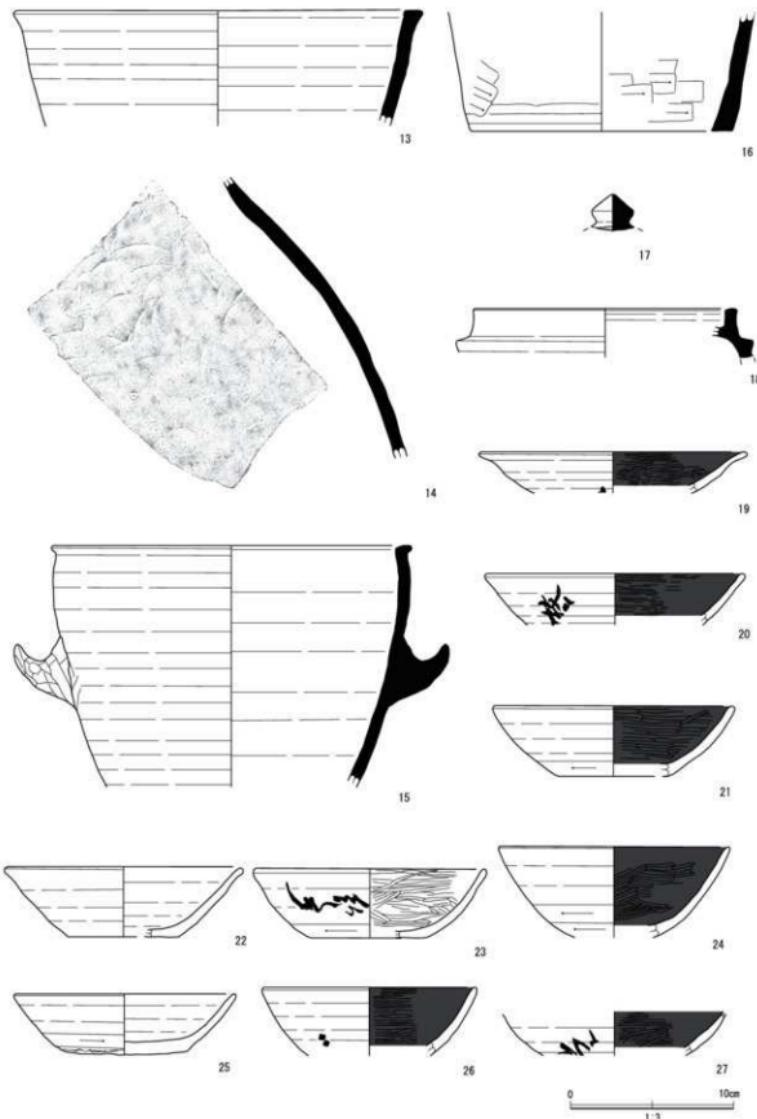
- 1 10YR3/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
- 2 10YR3/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量。
- 3 2.5YR3/2 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量。ロームブロック(φ 4cm)を微量含む。
- 4 10YR4/4 にぶい 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子・粘土粒子を微量含む。
- 5 10YR2/6 明黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック(φ 4cm)を多量に含む。

第34図 第9号住居跡の出土遺物（1）

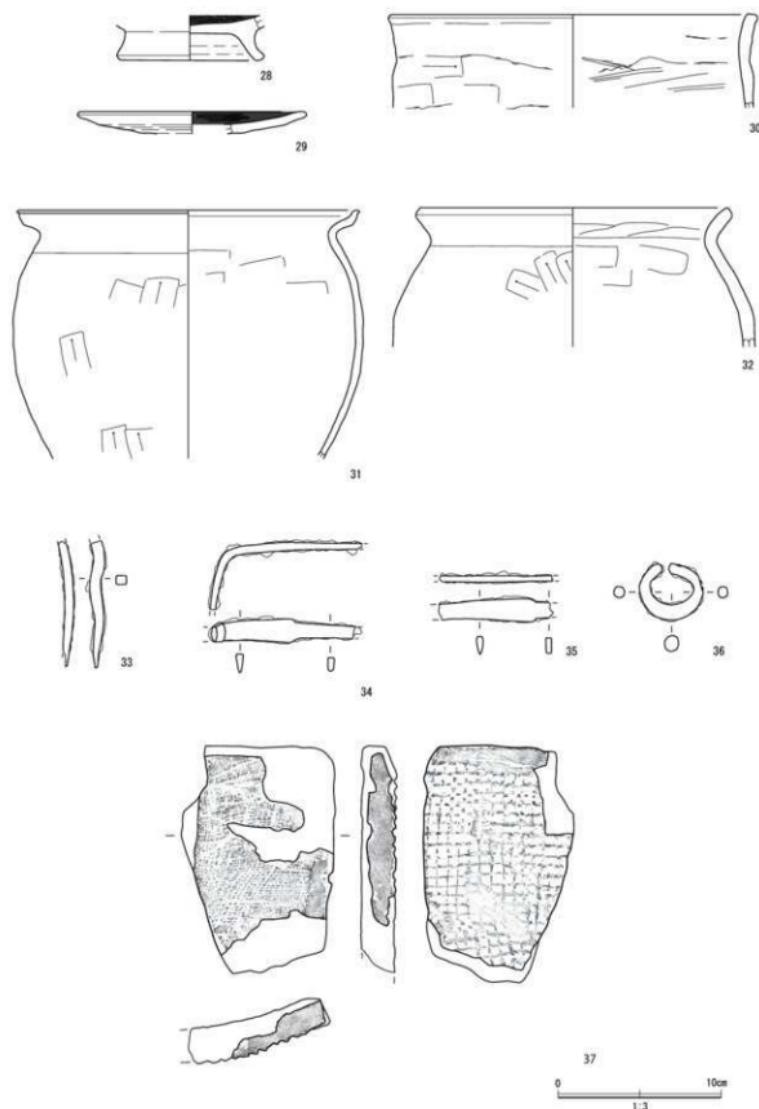


0 10cm
1:3

第35図 第9号住居跡の出土遺物（2）



第36図 第9号住居跡の出土遺物（3）



第26表 第9号住居跡出土土器属性一覧（1）

医版 番号	出土地 点遺跡	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法		施土	海綿 骨董	供 成 量	色調	供成 率	備考
										横	縦						
1	S109	床面	灰陶	高台 直上	口縁部 唇部	10	(14.2)	(6.7)	2.6	全体わざかに擦らみを持ち、口縁部外反する。全面回転ナダ。後ナダ。輪内外面塗り掛け。	白色粒子・黒色粒子	×	良好	5.6 Y 7/2 灰白色 輪: 7.5 Y 6/2 オーライブ色	新治 施土	5.6 Y 7/2 灰白色 輪: 7.5 Y 6/2 オーライブ色	新治 施土
2	S109	灰陶	陶器	直上	唇部	5	-	-	(3.2)	全体外面部回転へラケツリ痕ナダ。内面丁寧なナダ。釉剥落。	白色粒子・露葉片	×	良好	2.5 Y 7/2 灰黄色	新治 施土	2.5 Y 7/2 灰黄色	新治 施土
3	S109	床面	灰陶	直上	唇部	5	-	-	(6.5)	単位数不明の把手を瓶底に貼り付け。体部内外ヨコナダ。把手部ヘラク工具丁面取り。体部外側に刷毛印の輪。	白色粒子	×	良好	10 YR 7/1 灰白色 輪: 7.5 Y 4/2	—	—	—
4	S109	灰土	陶器	坪	口縁部 ~底部	85	13.6	5.9	5.0	全体わざかに擦らみを持ち、口縁部外反する。底部わざかに突出。口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面回転ナダ。底部内面巻き上げ窓痕。外面取り輪。技法不明強いナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・小穂	×	良好	2.5 Y 5/1 灰黄色	木葉 底部外表面「」 下茎状のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面「」 下茎状のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面「」 下茎状のヘラ書 跡群。
5	S109	灰土	陶器	坪	口縁部 ~底部	75	13.4	5.2	5.2	体部直輪的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面回転ナダ。底部内面巻き上げ窓痕。底部外側に切り離し技術不明強いナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・露葉片	×	良好	10 YR 7/3 にぶい黄褐色	新治 施土	10 YR 7/3 にぶい黄褐色	新治 施土
6	S109	灰土	陶器	坪	口縁部 ~底部	55	(13.0)	5.9	(4.7)	外部直輪的に立ち上り。口縁部外反する。内外面ヨコナダ。体部内外回転ナダ。底部内面巻き上げ窓痕。底部外側に切り離し技術不明強いナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	2.5 Y 6/1 灰黄色	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。
7	S109	カマ ド・ 直輪 器 方	陶器	坪	口縁部 ~底部	60	(13.1)	6.6	4.8	体部直輪的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナダ。体部内外面回転ナダ。底部外表面回転へラ切り離し後ナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	5 Y 6/2 灰オーライブ色	木葉 底部外表面「」 下茎状のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面「」 下茎状のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面「」 下茎状のヘラ書 跡群。
8	S109	振り 方	陶器	坪	口縁部 ~底部	50	(13.3)	7.3	(5.1)	体部直輪的に立ち上り。口縁部内外面ヨコナダ。体部外表面回転ナダ。底部外表面回転へラ切り離し後ナダ。内面ナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	2.5 Y 6/2 灰黄色	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。
9	S109	灰土	陶器	坪	口縁部 ~底部	5	(16.4)	-	(3.1)	全体わざかに擦らみを持つ。口縁部外反。口縁部内外ヨコナダ。体部内外回転ナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・露葉片	×	良好	10 YR 6/6 明黄褐色	新治 施土	10 YR 6/6 明黄褐色	新治 施土
10	S109	振り 方	陶器	坪	体部	5	-	(7.6)	(3.4)	底部突出。体部内外回転ナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	10 YR 6/4 にぶい黃褐色	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。	木葉 底部外表面脱 下茎不明のヘラ書 跡群。
11	S109	灰土	直輪 器	高台 直上	口縁部 唇部	80	13.7	7.0	5.7	体部中央部下位で角度を変える。口縁部わざかに外反。口縁部内外ヨコナダ。体部内外回転ナダ。底部外表面右回転へラ切り離し後ナダ。高台部わざかに外反。貼り付け。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	5 Y 5/1 灰色	—	—	—
12	S109	灰土	直輪 器	小壺	口縁部 ~底部	90	-	(4.6)	(3.7)	底部貼り付け。内面回転ナダ。体部内外回転ナダ。高台部貼り付け。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良好	5 Y 7/1 灰白色	木葉 下茎	5 Y 7/1 灰白色	木葉 下茎
13	S109	灰土	直輪 器	鉢	口縁部 ~脚部	5	(24.5)	-	(7.1)	口縁部平坦。口縁部内外ヨコナダ。脚部内外回転ナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・露葉片	×	良好	10 YR 7/2 にぶい黄褐色	新治 施土	10 YR 7/2 にぶい黄褐色	新治 施土
14	S109	灰土	直輪 器	壺	脚部	5	-	-	(17.3)	脚部外表面方向の平行叩き後強いナダ。内面当然。	白色粒子・石英粒子・ チャート粒子	○	良好	2.5 Y 6/1 黄灰色	木葉 下茎	2.5 Y 6/1 黄灰色	木葉 下茎
15	S109	灰土	直輪 器	瓶	口縁部 ~脚部	5	(21.7)	-	(4.1)	口唇部平坦。底部外に突出する。口縁部内外ヨコナダ。脚部内外回転ナダ。内面強いナダ。把手部手捏ねで「」字形に形成して貼り付け。単位数不明。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・露葉片	×	良好	7.5 YR 6/3 にぶい褐色	新治 施土	7.5 YR 6/3 にぶい褐色	新治 施土

第27表 第9号住居跡出土土器属性一覧(2)

回収 出土場 番号	部位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	胎土	当継 骨針 成	色調	焼成 度	備考
16 S109	腰付 張り 直邊 方 器	板	胴部～ 底部	5	—	(16.0)	(7.3)	洞部外面丁寧なナヂ。下端横 取り底、内面や窄なナヂ。下端横 方向へタケズリ。底面ナヂ。単孔。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・雲母片	×	良 好	7.5 Y R 6/3 にぶい褐色	新治 窯跡 群	
17 S109	腰付 張り 直邊 覆土 器	蓋	縁	5	—	—	(2.1)	縁宝珠状鋲。上端は大きく突出。全 面ナヂ。	白色粒子・石英粒	×	良 好	2.5 Y 5/1 黄褐色	木葉 下窯 群	
18 S109	腰付 覆土 器	直邊 円腹 器	腰部	5	(16.0)	—	(3.0)	両端部。上端を平坦に削り、全 面ナヂ。内面自然輪。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良 好	2.5 Y 5/1 黄褐色	木葉 下窯 群	
19 S109	腰付 方 器	口縁部 坏	口縁部 ～体部	5	(16.0)	—	(2.5)	内墨付。体部擦らみを持つ。口縫 部外反する。口縫部内外ヨコナヂ。 体部外ナヂ。内面多方向ミガキ。	白色粒子・赤色粒子・ チャート粒	×	良 好	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色	体部外面に軟 膜不明の墨 青。	
20 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～体部	5	(15.6)	—	(3.1)	内墨付。体部擦らみを持つ。口縫部 内外ヨコナヂ。体部外表面削除ナヂ。 内面丁寧なナヂ。俄方向ミガキ。	白色粒子・チャート粒	○	良 好	7.5 Y R 6/6 褐色	体部外面に軟 膜不明の墨 青。	
21 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～体部	10	(14.6)	(6.7)	4.3	内墨付。体部擦らみを持つ。口縫部 内外ヨコナヂ。体部外表面削除ナヂ。 内面丁寧なナヂ。俄方向ミガキ。	白色粒子・赤色粒子・ 石英粒	×	良 好	7.5 Y R 7/3 にぶい褐色	体部外面に軟 膜不明の墨 青。	
22 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～底部	30	(14.2)	(6.8)	4.2	体部直線的に立ち上がり。口縫部 が内に反する。口縫部外面ヨコ ナヂ。体部内外削除ナヂ。底部外 面削り出し技術(剪刀法)。	白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒	×	良 好	5 Y R 6/6 褐色	—	
23 S109	床面 直邊 土師 直邊 器	口縁部 ～底部	20	(14.0)	(7.1)	4.2	内墨付。体部擦らみを持ち。口縫部 外反する。口縫部内外ヨコナヂ。 体部外表面丁寧なナヂ。内面丁寧なナヂ 後削除。俄斜方ヘラ切離し削除ナヂ。内 面丁寧なナヂ。	白色粒子・赤色粒子・ 石英粒・チャート粒	×	良 好	7.5 Y R 6/2 灰褐色	体部外面に軟 膜不明の墨 青。		
24 S109	床面 直邊 土師 直邊 器	口縁部 坏	口縁部 ～体部	15	(14.0)	—	(5.6)	内墨付。体部擦らみを持つ。口縫部 内外ヨコナヂ。体部外表面丁寧なナヂ。 内面丁寧なナヂ後多方向ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・ 雲母片	×	良 好	7.5 Y R 8/2 灰白色	—	
25 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～底部	75	(13.3)	7.7	3.7	体部わざわざに凹みを持ち。口縫部 内外ヨコナヂ。体部外表面削除ナヂ。 底部内面ナヂ。外面右斜面へラ切離し削除ナヂ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良 好	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色	—	
26 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～体部	5	(13.0)	—	(4.2)	内墨付。体部擦らみを持つ。口縫部 内外ヨコナヂ。体部外表面ナヂ。内 面横方向ミガキ。	白色粒子・石英粒	×	良 好	5 Y R 6/6 褐色	体部外面に軟 膜不明の墨 青。	
27 S109	腰付 器	口縁部 坏	体部	5	—	—	(2.6)	内墨付。体部直線的に立ち上がる。 口縫部外面ヨコナヂ。体部外表面削 除ナヂ。内面丁寧なナヂ。横方向ミ ガキ。	白色粒子・石英粒	×	良 好	10 Y R 7/4 にぶい黄褐色	「枚口」の墨 青。	
28 S109	床面 直邊 土師 直邊 器	高台 底付 坏	底部	20	—	8.2	(2.6)	内墨付。底部直線的に立ち上がる。 口縫部外面ヨコナヂ。体部外表面削 除ナヂ。下端右回転ミタケズリ。内面丁 寧なナヂ。多方向ミガキ。	白色粒子・石英粒	×	良 好	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色	—	
29 S109	腰付 器	口縁部 ～体部	5	(13.4)	—	(1.3)	内墨付。直線的に開く。口縫部 内外ヨコナヂ。体部外表面削除ナ ヂ。下端右回転ミタケズリ。内面丁 寧なナヂ。多方向ミガキ。	白色粒子・石英粒	○	良 好	10 Y R 6/3 にぶい黄褐色	—		
30 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～脚部	5	(22.2)	—	(5.7)	粗雑な脚。口縫部平底。口縫部外 面ヨコナヂ。脚部外表面横方向へラカ ズリ後ナヂ。内面多方向へナヂ後 ナヂ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良 好	7.5 Y R 6/4 にぶい褐色	—	
31 S109	腰付 器	口縁部 坏	口縁部 ～脚部	5	(20.7)	—	(18.3)	被絶型空窓。口縫部上方につまみ出さ れる。口縫部内面ヨコナヂ。脚部 内外面ナヂ。最大径は脚部上位。	白色粒子・チャート粒・ 雲母片	×	良 好	7.5 Y R 6/4 にぶい褐色	—	
32 S109	腰付 器	口縁部 ～脚部	5	(18.8)	—	(8.5)	被絶型空窓。口縫部断面山形で外面を 平坦。口縫部内外面ヨコナヂ。脚部 外表面斜方向へタケズリ後ナヂ。内面 ナヂ。最大径は脚部上位。	白色粒子・石英粒・ 雲母片・小穂	×	良 好	7.5 Y R 6/3 にぶい褐色	—		

第28表 第9号住居跡出土鉄製品属性一覧

図版 番号	出土地 点遺構	層位	種別	種類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
33	S109	廻土	鉄製品	刀	鉄製	0.7	0.65	0.55	13.8	断面無欠損。基部は断面四角形。	
34	S109	廻土	鉄製品	刀子	鉄製	0.9	1.50	0.45	19.4	先端部欠損。刃部中央部より折れ曲がる。	
35	S109	床面 直上	鉄製品	刀子	鉄製	0.8	1.40	0.38	11.5	基部及び先端部欠損。	
36	S109	床面 直上	鉄製品	不明	鉄製	3.90	3.50	0.85	20.1	環状鉄製品、用途不明。	

第29表 第9号住居跡出土瓦属性一覧

図版 番号	出土地 点遺構	層位	種別	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	凹面痕跡	凸面調整	凸面痕跡	底土 基物	瓦縫 合計	積成	色調	備考	
37	S109	廻土	平瓦	(13.8)	(9.4)	2.0	309.2	目の粗 さ有	周縁部 一方向へ ラケズリ	正格子目 叩き	周縁部 一方向へラ ケズリ	白色粘子・石英粒 ・チャート粒	○	良好	10 YR 7/2 に近い黄褐色	一枚造り

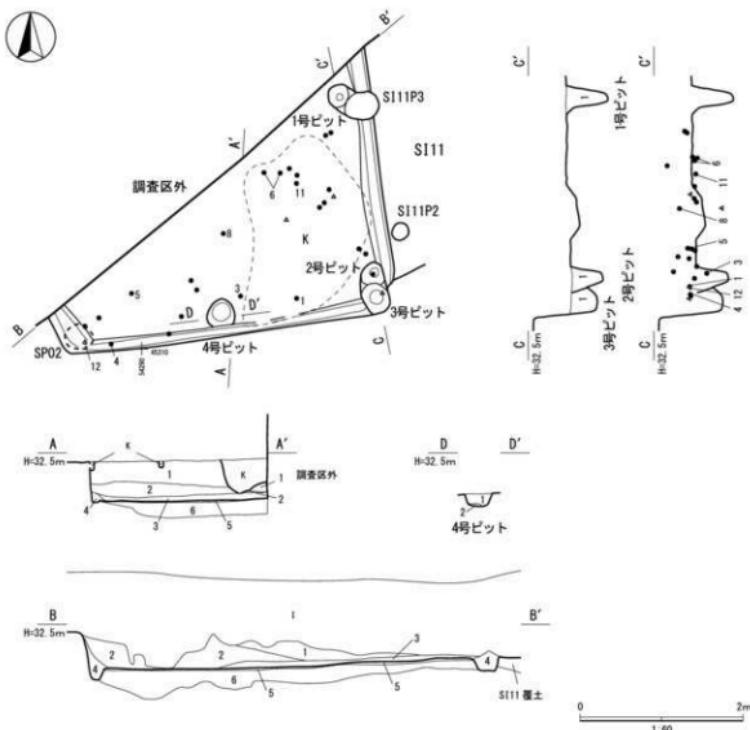
第10号住居跡（第36～38図、第30～32表、写真図版7・26～28）

2区の北側、標高32.5m付近に、第2号ピットに先行、第11号住居跡に後続して位置する。住居跡の北側の2/3は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、中央部に大きな擾乱が位置することなどからやや不良である。長軸432cm、短軸現存330cmの方形を呈し、主軸方位はN-7°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は53cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は6層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、黒褐色土を基調とした厚さ1cmから4cmほどの堅固で緻密な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して、幅13cmから28cm、深さ3cmから15cmほどを測る。柱穴は4基検出されたが、その位置関係からどれも主柱穴とは考えられないが、P4はその位置から出入り口ピットの可能性が高い。カマドは検出されていないが、本調査地点の傾向から北壁に位置する可能性が高い。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面に、ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が、床面から最大19cmほど及んでいる。底面は起伏に富む。遺物は265点、14,539.9gが出土しているが、このうち砂岩の礫が2点で9,041.9gと重量の62%を占める。内訳は土器が縄文時代中期加曾利E式期の深鉢、弥生時代後期十王台式期の甕壺類、須恵器の壺類や高台付壺類・高台付盤・高台付皿・壺・甕壺類・鉢・蓋・円面鏡、土師器の壺類や高台付壺類・甕壺類・蓋・高坏、土製品はミニチュアの鉢や焼成土塊、石器は縄文時代の磨石・敲石・砂岩や片岩の砥石、砂岩の礫である。このうち12点の遺物を図示することができた。

1・2は須恵器の壺である。胎土から1が新治窯跡群產、2は木葉下窯跡群產である。3は須恵器の高台付坏である。4・5は須恵器の高台付盤である。4は底面外面を硯として再利用した痕跡が残る。5は底部外表面読不明のヘラ書きが確認される。6は須恵器の盤である。底部外面に「十」字状のヘラ書きが確認された。7は笠状の須恵器の蓋である。偏平疑宝珠状の鉢を貼り付ける。8は脚付き円面鏡の脚部である。獸脚様であり、縦の沈線が8条垂下する。9は土師器の壺である。内面に黒色処理が施される。10は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。11はミニチュアの土師器鉢である。内面を黒色化を施す。12は砂岩製の砥石である。使用面は3面を数える。第9号住居跡と同様に円面鏡が出土していることから、同様な寺院や群衆関連の住居跡の可能性をもつが、刀子な

どの関連遺物の出土していないため、現状では特殊な性格の住居跡と判断することは困難である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀後葉の所産であった可能性が高い。

第37図 第10号住居跡



第10号住居跡

- | | |
|-------------------|--|
| 1 10YR0/2 黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。 |
| 2 10YR0/3 暗褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に含む。 |
| 3 10YR4/3 ぶらく褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 4 10YR4/4 褐色土層 | 粘性をもつが、練まりに欠ける。ローム粒子を多量に含む。 |
| 5 10YR2/3 黑褐色土層 | 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に含む。（底） |
| 6 10YR2/2 黑褐色土層 | 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。（底り方） |

第10号住居跡1号ピット

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| 1 10YR2/2 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|--------------------------------------|

第10号住居跡2号ピット

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| 1 10YR2/2 黑褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|--------------------------------------|

第10号住居跡3号ピット

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 10YR2/3 増褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|-----------------------|

第10号住居跡4号ピット

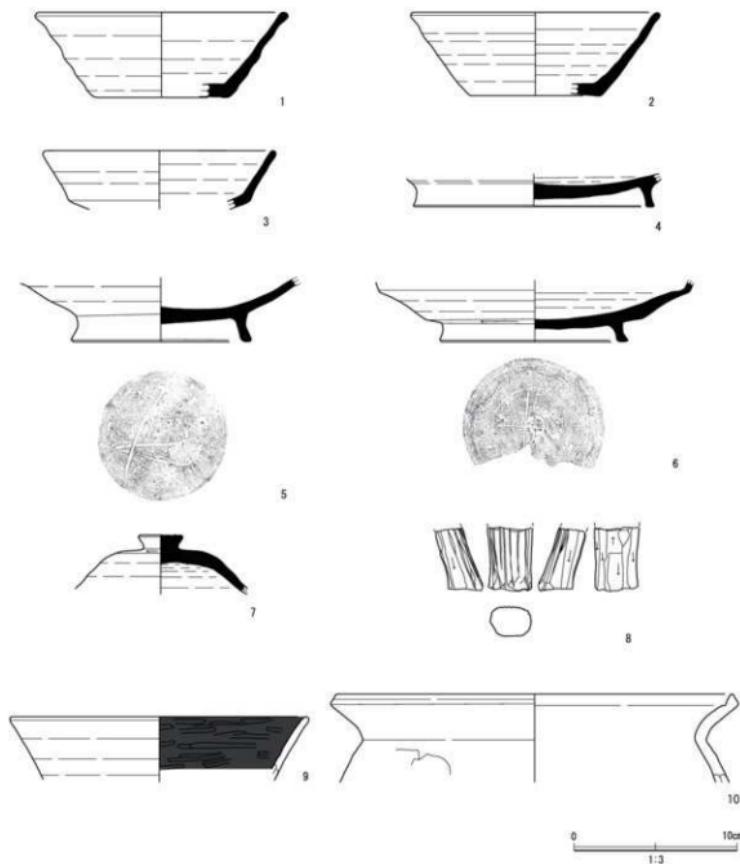
- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 10YR3/2 増褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|-----------------------|

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| 2 10YR2/2 増褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。 |
|-----------------|--------------------------------------|

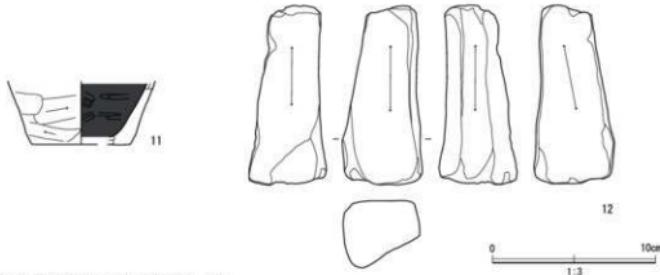
第30表 第10号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規模			壁立ち 上がり	底面状況	柱痕			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)			表面ア カリ数	平均厚 ・位置	アクリヤ ー深度 (m)					
1号ピット	東	南北形 開状	29	26	47	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	不明	—	無し	
2号ピット	南東	円形 開状	29	—	40	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	不明	S110P3に 後続	無し	
3号ピット	南東	椭円形 開状	39	32	75	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	不明	S110P2に 先行	無し	
4号ピット	南	円形 逆台形 状	35	—	21	緩やか	やや起伏を もつ	—	—	—	—	自然	出入 り口 ピット	—	鐵意器 ・鐵 土師器類	

第38図 第10号住居跡の出土遺物（1）



第39図 第10号住居跡の出土遺物（2）



第31表 第10号住居跡出土土器属性一覧

固版 出土地 番号	点遺構	等位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	施土	輪轉 骨片	被成 灰	色調	焼成 度	備考
1	SII10	発土	須恵器	坪	口縁部 ～底部	20	(15.0)	(8.0)	5.2	体部直線的に立ち上がる。口縁部外 以、内外面ヨコナヂ。体部内外面回 転ナヂ。外部外側切り出し・技法不 規復ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒・雲母 片	×	良好	10 YR 6/3 にふい黄褐色	新出 実跡 群	
2	SII10	発土	須恵器	坪	口縁部 ～底部	15	(15.0)	(8.0)	5.1	体部直線的に立ち上がる。口縁部互 疊状で内外面ヨコナヂ。体部内外面 回転ナヂ。底部外側切り出し・技法不 規復ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒	○	良好	10 YR 6/1 灰黑色	木葉 下窓 跡群	
3	SII10	掘り	須恵器	高台に縁部 付付・休部	15	(14.0)	—	(3.6)	体部半球部下位で角度が変わる。体 部わざくに外反。口縁部外側ヨコ ナヂ。体部内外面回転ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒	○	良好	10 YR 6/2 下窓 跡群	木葉 下窓 跡群		
4	SII10	発土	須恵器	高台に縁部 付付	40	—	(14.6)	(2.0)	体部内面ナヂ。外部右回転ヘラ切り 出し後ナヂ。高台ナヂ。貼り付け ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒・小繖 片	○	良好	10 YR 6/1 灰黑色	木葉 下窓 跡群	底部外表面 して転用。	
5	SII10	発土	須恵器	高台に縁部 付付	40	—	10.8	(4.0)	体部全部をもつ。内外面回転ナヂ ナヂ。底部内面ナヂ。外表面回転ヘラ 切り出し後ナヂ。高台部外反し てナヂ。貼り付け。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒・小繖 片	○	良好	10 YR 6/2 灰黑色	木葉 底部外表面 下窓不明のヘラ跡 跡群。		
6	SII10	床面 直上、 発土	須恵器	盤	体部～ 底部	40	—	11.4	(4.1)	体部わざくに外反。外面上位回転ナ ヂ。下位右回転ヘラカズリ。内面回 転ナヂ。底部右回転ヘラ切り 出し後ナヂ。高台部外反し貼り付 け。ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒	○	良好	2.5 Y 5/1 灰黑色	木葉 底部外面に 下窓不規 跡群	
7	SII10 P4	須恵器	蓋	縫～天 井部	25	鉢底 2.6	—	(3.6)	偏平矮宝状突起を貼り付け ナヂ。天井部上面に右回転ヘラカ ズリ。下方ナヂ。内面回転ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒	○	良好	3 YR 1/ 灰色	木葉 下窓 跡群		
8	SII10	須恵器	圓筒	脚	5	長さ (3.9) (2.7)	幅 2.9	厚さ (3.9)	脚脚付円筒形の脚部。柱状突起をへ ラ工具と棒状に形成し。ナヂ無外 面に8条の溝を施す。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒	○	良好	2.5 Y 5/1 灰黑色	木葉 下窓 跡群		
9	SII10	土器	坪	口縁部 ～休部	5	(18.0)	—	3.9	内墨坪。体部直線的に立ち上がる。 口縁部内外面ヨコナヂ。体部外側ナ ヂ。内墨丁寧なヘラ後横方向ミガキ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・雲母片	○	良好	7.5 Y R 6/6 橙色	—		
10	SII10	土器	裏	口縁部 ～削部	5	(24.0)	—	(5.4)	被施墨。口削部上方内側につま み出される。口縁部内外面ヨコナヂ。 削部内外面ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・ チャート粒・雲母片・小 繖	○	良好	7.5 Y R 6/4 にふい褐色	—		
11	SII10	床面 直上	ミニ 土器	手付 アヌ	底部	10	—	(6.0)	(3.8)	内部墨色。脚部直線的に立ち上 がる。外墨ナヂ。内部丁寧なナヂ。横 方向ミガキ。底部外面ナヂ。	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英粒子・ チャート粒・雲母片	○	良好	10 Y R 5/3 にふい黄褐色	—	

第32表 第10号住居跡出土土石製品属性一覧

固版 出土地 番号	点遺構	露出	種別	種類	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	備考
12	SII10	発土	石製品	砾石	砂岩	11.0	4.9	4.7	286.1	使用面は3面。上端と下端は未使用面。	

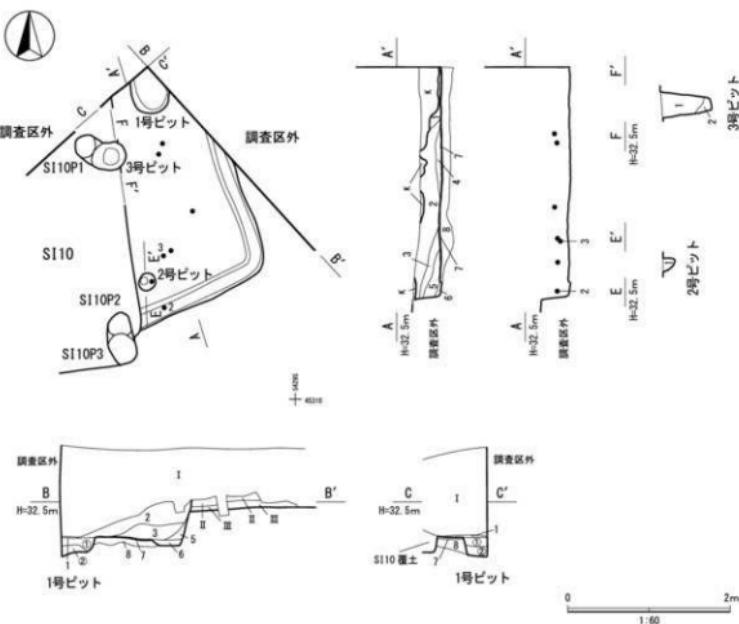
第11号住居跡（第39・40図、第53・54表、写真図版7・28）

2区の北側、標高32.4m付近に、第10号住居跡に先行して位置する。住居跡の北側の2/3は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、住居跡西側を第10号住居跡により掘り込まれ、中央部上面や南西側を擾乱が位置することなどから不良である。長軸現存293cm、短軸現存181cmの方形を呈し、主軸方位はN-20°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は42cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は8層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面はやや起伏を持ち、黒褐色土を基調とした厚さ1cmから3cmほどのやや軟弱な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁溝は確認された範囲で全周して、幅21cmから24cm、深さ3cmから8cmほどを測る。柱穴は3基検出されたが、主柱穴は不明である、出入口ピットはその位置から2号ピットと考えられる。カマドは検出されていないが、本調査地点の傾向から調査区外である北壁に位置すると考えられる。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面を、ロームブロックが混入する黄褐色土を基調とした土が、床面から最大16cmほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は64点、1,683.8gが出土している。内訳は土器が縄文時代中期加曾利E式期の深鉢、須恵器の坏類や高台付坏類・壺・甕・蓋、土師器の坏類や甕類である。このうち4点の遺物を図示することができた。1は須恵器の坏である。2は須恵器の高台付坏である。体部外面の黒色付着物が確認された。3はかえりを伴わない須恵器の蓋である。4は土師器の常総型甕である。最大径は不明である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第33表 第11号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規格			底面状況	柱痕			埋没状況	性格	重複関係	出土遺物	備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		底面ア カリ数	平面斜 ・位置	アカリ数 (cm)						
1号ピット	北東	椭円形	箱状	37	49	25	緩やか 丸味を帯びる	-	-	-	-	自然	不明	-	須恵器 ・蓋 土師器甕	北側1/2が 調査区外
2号ピット	南	円形	箱状	21	-	63	緩やか 丸味を帯びる	-	-	-	-	自然	出入口 ピット	-	無し	
3号ピット	やや北	椭円形	箱状	42	34	26	ほぼ 直底 丸味を帯びる	-	-	-	-	自然	不明	-	無し	

第40図 第11号住居跡



第11号住居跡

- | | | |
|---|-----------------|--|
| 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 2 | 10YR3/3黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 3 | 10YR2/3黒褐色土層 | 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 4 | 10YR3/2黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 5 | 10YR2/3黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子を少量含む。 |
| 6 | 10YR4/4褐色土層 | 粘性をもつが、練まりに欠ける。ローム粒子を多量に、黒色土粒子を少量含む。 |
| 7 | 10YR2/3黒褐色土層 | 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。（埴跡） |
| 8 | 10YR5/3 黄褐色土層 | 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 3cm）を多量に、黒色土を少量含む。（埴跡） |

第11号住居跡1号ビット

- | | | |
|---|-----------------|--|
| ① | 10YR4/3にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子、黒色土を少量含む。 |
| ② | 10YR2/3黒褐色土層 | 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 2cm）・ローム粒子を多量に含む。 |

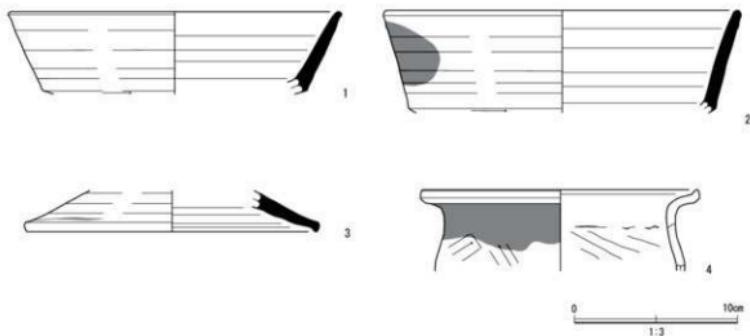
第11号住居跡2号ビット

- | | | |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黑褐色土層 | 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を微量含む。 |
|---|---------------|-------------------------|

第11号住居跡3号ビット

- | | | |
|---|-----------------|--------------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黑褐色土層 | 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 2 | 10YR4/3にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子、黒色土を少量含む。 |

第41図 第11号住居跡の出土遺物



第34表 第11号住居跡出土土器属性一覧

調査区	出土地番号	出土位置	標高	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	最高 (cm)	特徴・手法	胎土	釉結・焼成	色調	焼成度	備考
1	SIII	裏土 壁部 坪	口縁部 ～体部	10	(20.0)	—	(5.0)	—	—	外部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面丁寧なナダ。	白色粒子・黒色粒子・ 石英粒	×	良好	2.5Y 6/2 灰黄色	不明
2	SIII	裏土 壁部 坪	高台口縁部 ～体部	30	(21.6)	—	(6.3)	—	—	外部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナギ。体部内外面回転ナダで丁寧なナダ。	白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒・ 小端	×	良好	2.5Y 7/1 灰白色	不明 体部外面黑色 付着物。
3	SIII	裏土 壁部 蓋	天井部 蓋 ～端部	10	(17.7)	—	(2.5)	—	—	かえしにくく垂下、かえりなし。天井部内外面回転ナダ。	白色粒子・黒色粒子・ 石英粒・チャート粒	×	良好	2.5Y 5/1 黄灰色	木葉 下窓 跡
4	SIII	裏土 上部 器	口縁部 ～脚部	10	(16.8)	—	(5.0)	—	—	骨壺型體。口唇部上方につまみ出さ れる。口縁部内外面ヨコナギ。脚部内外面ナダ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・雲母片・ 小端	×	良好	2.5Y R 4/4 にぶい赤褐色	—

第12号住居跡（第41～44図、第35～38表、写真図版8・29）

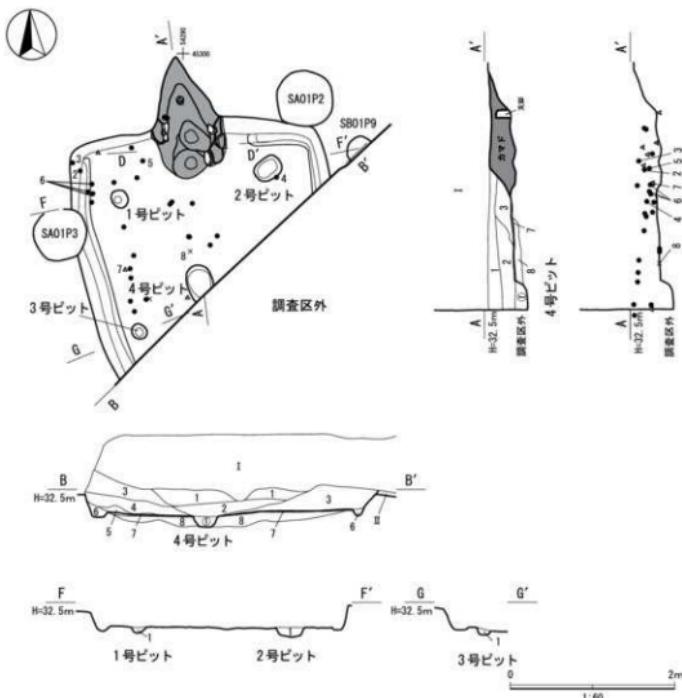
2区の南側、標高32.5m付近に、第1号ピット列に先行して位置する。住居跡の南側半分は調査区外であるため、その部分は調査できなかった。住居跡の遺存度合は、概ね良好である。長軸318cm、短軸現存296cmの方形を呈し、主軸方位はN-6°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、最大壁高は29cmほどを測り、緩やかに立ち上がる。土層は8層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面はやや起伏を持ち、黒褐色土を基調とした厚さ1cmから3cmほどの軟弱な貼床が、確認された範囲で全面に形成されている。壁溝はカマド部分および住居跡北側際の一部を除き、確認された範囲で全周して、幅19cmから30cm、深さ6cmから9cmほどを測る。柱穴は4検出され、このうち主柱穴は1号ピットから3号ピットの3基と考えられる。その他の主柱穴や出入口ピットは調査区外に展開すると考えられ、検出されていない。カマドは住居跡北壁中央部に、北壁を82cmほど削り出して構築されていて、N-5°-Eの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは148cm、袖部外側の幅は84cmを測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の橙色シルトが主体的に含まれる5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していく、にぶい黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用していく、芯材として、碎片だが方形に加工したと考えられる凝灰岩の切石を利用している。また、内壁の一部が被熱により

強く赤変硬化していることが確認された。袖部内側の最大幅は 50 cm を測り、火床部は床面から 5 cm ほど 2ヶ所を円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は赤変硬化して、焼土のブロック化が確認されている。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。また、カマド中央やや奥の位置に、凝灰岩を円柱状に削り出して作製された支脚が検出されているが、強く熱を受け、取上げ時に破碎してしまったため、図示することはできなかった。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の中央部を深く、ロームブロックが混入する褐色土を基調とした土が、床面から最大 15 cm ほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は 236 点、9,037.6 g が出土している。内訳は土器が縄文時代は前期黒浜式期、中期加曾利 E 式期、時期不明深鉢、須恵器の壺類や高台付壺類・壺・壺壺類・鉢・蓋、土師器の壺類や高台付壺類・壺壺類、灰釉陶器は壺、土製品は焼成土塊、石器・石製品は凝灰岩製のカマド芯材および支脚・片岩製の砥石、鉄製品は釘、安山岩の礫である。このうち 8 点の遺物を図示することができた。1 は胎土から湖西窯跡群産と考えられる、灰釉陶器の壺である。2 は新治窯跡群産の須恵器壺である。3 は大型の須恵器の壺である。4・5 は土師器の壺である。4 は内面に黒色処理が施される。5 は体部内面に黒色付着物が確認される。6 は土師器の常総型壺である。最大径は胴部上位に位置する。7 は片岩製の砥石である。砥面は 4 面を数える。8 は刀子である。残存は悪く、基部や先端部を欠く。この住居跡からも第 3 号・第 9 号住居跡と同様に刀子が出土しているが、第 3 号住居跡と同様、この住居跡の性格までは確認できなかった。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より 9 世紀後葉から 10 世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第 35 表 第 12 号住居跡ビット属性一覧

ビット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規格			底面状況	柱底				埋設状況	性格	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (mm)	短径 (mm)	深さ (mm)		底面ア タリ幅 ・位置	平面ア タリ幅 ・位置	断面 柱底						
1号ビット	北西	円形	壺状	20	—	8	緩やか	丸窓を帯びる	—	—	—	自然	主柱穴	—	無し	
2号ビット	北東	椭円形	壺状	34	26	12	緩やか	丸窓を帯びる	—	—	—	自然	主柱穴	—	無し	
3号ビット	南西	円形	壺状	19	—	8	緩やか	丸窓を帯びる	—	—	—	自然	主柱穴	—	土師器壺 ・壺	
4号ビット	中央	椭円形	壺状	36	31	18	緩やか	丸窓を帯びる	—	—	—	自然	不明	—	無し	南側 1/4 が 調査外

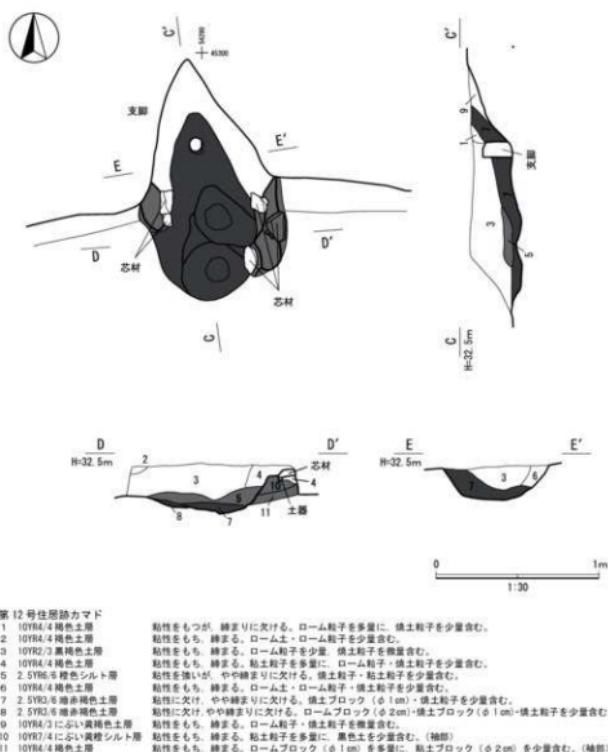
第42図 第12号住居跡



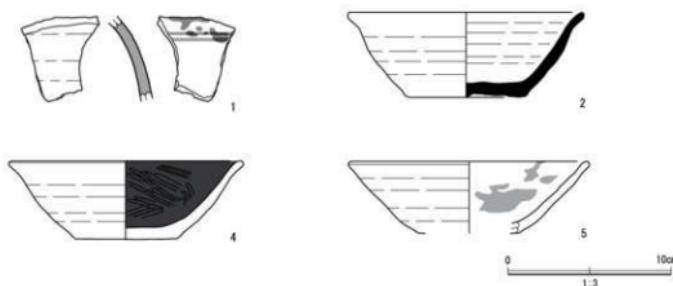
第12号住居跡

- | | |
|--------------------|---|
| 1 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、綈まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 2 10YR2.4 棕褐色土層 | 粘性をもち、綈まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 3 10YR2.4 棕褐色土層 | 粘性をもち、綈まる。ローム粒子を少量含む。壤土粒子を微量含む。 |
| 4 10YR4.3(ぶ)い黄褐色土層 | 粘性をもち、綈まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 5 10YR2.4 棕褐色土層 | 粘性をもち、綈まる。壤土粒子を微量含む。 |
| 6 10YR2.4 棕褐色土層 | 粘性をもち、やや綈まる。ローム粒子を微量含む。 |
| 7 10YR2.3 黑褐色土層 | 粘性をもち、綈く綈まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に含む。（床） |
| 8 10YR4.4 棕褐色土層 | 粘性をもち、綈く綈まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。（掘り方） |
-
- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 第12号住居跡 1号ビット | 粘性をもち、綈まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。 |
| 1 10YR4.4 棕褐色土層 | |
-
- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 第12号住居跡 2号ビット | 粘性をもち、綈まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。 |
| 1 10YR4.4 棕褐色土層 | |
-
- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 第12号住居跡 3号ビット | 粘性をもち、綈まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。 |
| 1 10YR4.4 棕褐色土層 | |
-
- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 第12号住居跡 4号ビット | 粘性をもち、綈まる。ローム土・ローム粒子を少量含む。 |
| ① 10YR4.4 棕褐色土層 | |

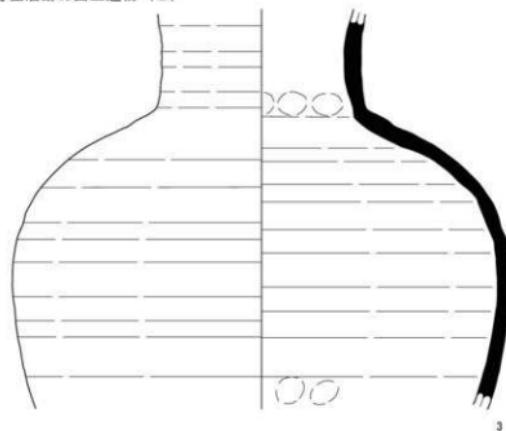
第43図 第12号住居跡カマド



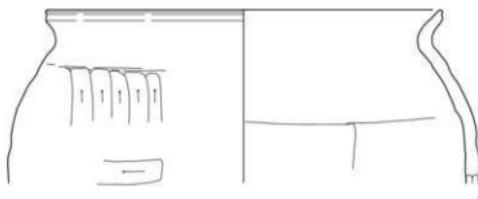
第44図 第12号住居跡の出土遺物（1）



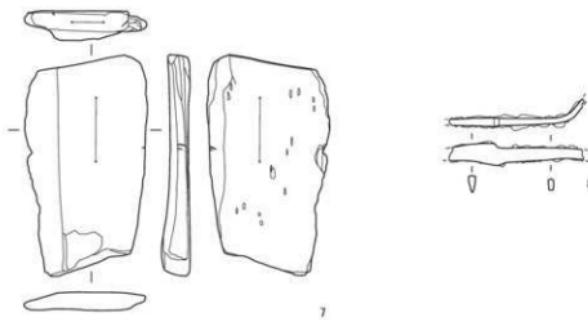
第45図 第12号住居跡の出土遺物（2）



3



6



7

0 10cm
1:3

第36表 第12号住居跡出土土器属性一覧

図版番号	出土地点	部位	種別	器種	部位	既存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	特徴・手法	胎土	海綿青封	焼成	色調	焼成度	備考
1	SII2	層土	灰陶	陶器	腹	胴部	5	—	—	(4.8) 体部外面に平行する沈線を横走。全周ナデ。輪巻り併げ。自然軸。	白色粒子・黒色粒子	×	10 YR 7/2 に近い黄褐色 輪: 7.5V/2 灰オーブル色	泥質 実驗群		
2	SII2	層土	灰陶	环	口縁部～底部	55	(14.2)	7.0	5.2	体部膨らみを持つ。口縁部外反。内外面ヨコナデ。底部内面ナデ。底部左側面へラ切り廻し後ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	2.5 Y 6/2 灰褐色	泥質 実驗群		
3	SII2	床面	須恵器	長軸	腰	腰部～胴部	30	—	—	(24.8) 全面回転ナデ。肩面自然軸。	白色粒子・石英粒・チャート粒	×	良好	N 5/0 灰色	木葉下窓 焼成	
4	SII2	層土	土加厚	环	口縁部～底部	40	(14.0)	6.2	4.8	内凹窪。体部わずかに膨らみを持つ。口縁部外反。内外面ヨコナデ。体部正面回転ナデ。内面: 壁等ナデ後斜方向へラギリ。底部内面自然軸方向へラギリ。底部外面回転し輪巻不規則丁寧なナデ。	白色粒子・チャート粒・雲母片・小繊	○	良好	10 YR 4/3 に近い黄褐色	—	
5	SII2	層土	土加厚	环	口縁部～底部	10	(14.4)	—	(4.4)	体部直線的に立ち上がる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面回転ナデ。	白色粒子・石英粒・チャート粒	○	良好	10 YR 6/4 に近い黄褐色	—	体部内面黒色 付着物
6	SII2	層土	土加厚	腰	口縁部～胴部	10	(24.0)	—	(10.7)	環状強健。口唇部斜め外側につまみ出される。口縁部内外面ヨコナデ。脚部外沿上端機能力へラギリ。以下瓶方向へラギリ後ナデ。内面機能方向へナナデ後ナデ。最大径は胴部上位。	白色粒子・赤色粒子・石英粒・チャート粒・雲母片	×	良好	7.5 YR 6/4 に近い褐色	—	

第37表 第12号住居跡出土土石製品属性一覧

図版番号	出土地点	部位	種別	種類	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴・手法			備考
7	SII2	層土	石製品	砾石	片状	13.1	7.9	1.8	248.2	右側面及び裏面。下端面が使用面。			

第38表 第12号住居跡出土鉄製品属性一覧

図版番号	出土地点	部位	種別	種類	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	特徴・手法			備考
8	SII2	床面 直上	金属製品	刀子	铁製	0.8-2.2	1.3	0.6	29.4	基部及び先端部を欠損。刃部幅狭い。			

第13号住居跡（第45～47図、第39・40表、写真図版9・29・30）

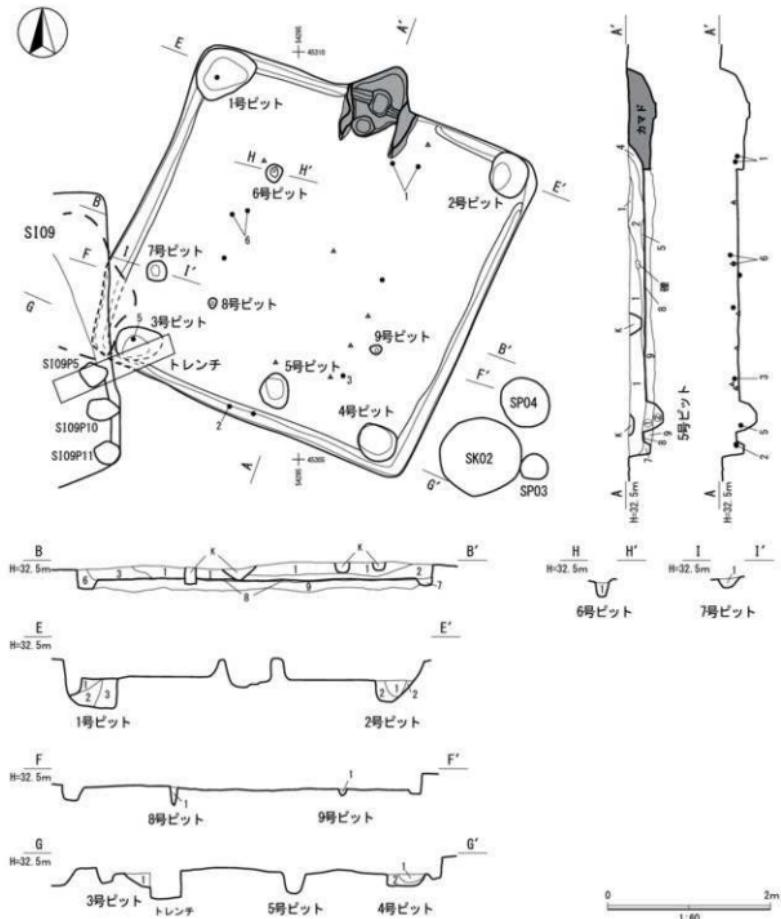
2区の東側、標高32.5 m付近に、第9号・第14号住居跡に先行して位置する。住居跡の遺存度合は、南西隅に一部擾乱が位置する程度で概ね良好である。長軸430 cm、短軸422 cmの方形を呈し、主軸方位はN-21°-Eを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は24 cmほどを測り、垂直に立ち上がる。土層は9層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。床面は平坦で、黒褐色土を基調とした厚さ1 cmから2 cmほどの堅固で緻密な貼床が全面に形成されている。壁構は北壁際の一部および北東隅の一部を除き、カマド下部を含め全周して、幅12 cmから28 cm、深さ9 cmから12 cmほどを測る。柱穴は9基検出され、主柱穴は1号ピットから4号ピットの4基、出入口ピットはその位置から5号ピットと考えられる。また、7号から9号ピットはその位置から添柱穴の可能性を持つ。カマドは住居跡北壁中央部に、北壁を44 cmほど削り出して構築されていて、N-13°-Wの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは94 cm、袖部外側の幅は97 cmを測り、天井部は崩落していて、

カマド土層断面図中の黄橙色シルトや橙色シルトが主体的に含まれる3層や4層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存していて、浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用している。また、内壁のごく一部が被熱により赤変硬化していることが確認された。袖部内側の最大幅は57cmを測り、火床部は床面から14cmほど2ヶ所を円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化しているが、顕著な焼土のブロック化は確認されていない。火床面から煙道部は緩やかに立ち上がる。支脚は検出されていない。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面を、ロームブロックが混入する黒褐色土を基調とした土が、床面から最大13cmほど及んでいる。底面は起伏をもつ。遺物は115点、9,244.9gが出土しているが、砂岩や安山岩・チャートの礫が6点で5,776.7g、重量の62%を締める。内訳は土器が縄文時代の中期加曾利E式期、須恵器の壺類や壺・鉢・蓋、土師器の壺類や甕壺類、石器は縄文時代の磨石・敲石、砂岩や安山岩・チャートの礫である。このうち6点の遺物を図示することができた。1は須恵器の壺である。2は須恵器の壺である。胴部外面に黒色付着物が確認される。3は偏平疑宝珠状鉢の須恵器蓋である。新治窯跡群産であろう。4・5は丸底の土師器壺である。2点共内面に2条一単位の放射状暗文が施される。6は素口縁の土師器甕である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より8世紀前葉から中葉の所産であった可能性が高い。

第39表 第13号住居跡ピット属性一覧

ピット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規模			底面状況	柱痕			埋没状況	性態	重複関係	出土遺物	備考	
				長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)		建立上 がり	底面ア タリ数	平均軸 ・位置	アタリ目 数	断面 柱痕				
1号ピット	北西隅	不整地 円形	逆台形 状	76	58	6.9	ほぼ 垂直	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	主柱 穴	—	土師器甕
2号ピット	北東隅	稍円形	不整地 塊状	54	44	29	ほぼ直 立だが 一部傾 やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	主柱 穴	—	土師器壺 ・甕
3号ピット	南西隅	椭円形	逆台形 状	60	(26)	19	緩やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	主柱 穴	—	須恵器蓋 半をトレンチ で破損
4号ピット	南東隅	円形	逆台形 状	48	—	19	ほぼ直 立だが 一部傾 やか	起伏をもつ	—	—	—	—	自然	主柱 穴	—	土師器壺
5号ピット	南	南北形	筒状	51	35	29	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	四人口 ピット	—	無し
6号ピット	中央 心や南東	南北形	筒状	21	19	24	ほぼ 垂直	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	不明	—	無し
7号ピット	南北	円形	筒状	24	—	13	緩やか	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱 穴	—	無し
8号ピット	中央 心や南東	不整 圓形	逆台形 状	12	—	25	緩やか	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱 穴	—	無し
9号ピット	中央 心や南東	不整 圓形	逆台形 状	14	—	8	ほぼ 垂直	丸味を帯びる	—	—	—	—	自然	副柱 穴	—	無し

第46図 第13号住居跡



第13号住居跡

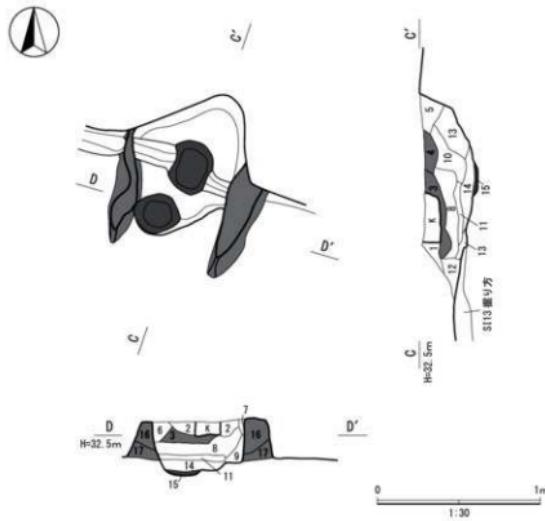
- 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を少量、砂土粒子を微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に、砂土粒子を少度含む。
- 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に、砂土粒子を少度含む。
2. 5YR2/6 棕赤褐色土層 やや粘性をもち、やや練まる。ローム粒子・砂土粒子・粘土粒子を少量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・砂土粒子を少量含む。
- 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子・褐色土を少量含む。
- 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、やや練まる。ローム粒子を少量含む。
- 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。(粘床)
- 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く練まる。ロームブロック（φ 2cm）を少度含む。(掘り方)

第13号住居跡 1号ピット

- 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 2cm）・ローム粒子を少度含む。
- 10YR4/3 にじみる黄褐色土層 粘性をもち、練まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック（φ 2cm）を少度含む。
3. 10YR2/4 褐色土層 粘性をもち、練まる。ロームブロック（φ 1cm）・ローム粒子・砂土ブロック（φ 0.5cm）・砂土粒子を少度含む。

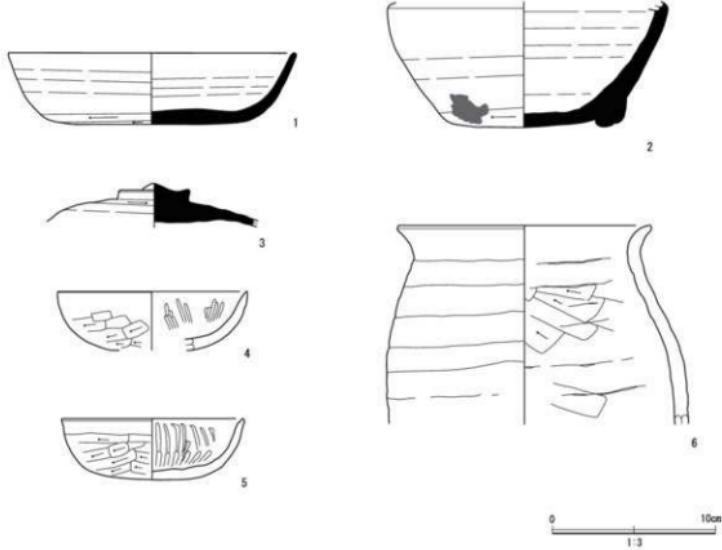
- 第 13 号住居跡 2 号ビット
 1 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 2 10YR4/3 にぶら黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック ($\phi 2\text{cm}$) を少量含む。
- 第 13 号住居跡 3 号ビット
 1 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量。粘土粒子を微量含む。
- 第 13 号住居跡 4 号ビット
 1 10YR4/3 深褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に、ロームブロック ($\phi 1\text{cm}$) を少量含む。
 2 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、締まる。
- 第 13 号住居跡 5 号ビット
 1 10YR4/3 にぶら黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
 2 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック ($\phi 2\text{cm}$)、ローム粒子・粘土粒子を多量に含む。
- 第 13 号住居跡 6 号ビット
 1 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
- 第 13 号住居跡 8 号ビット
 1 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
- 第 13 号住居跡 9 号ビット
 1 10YR4/4 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。

第 47 図 第 13 号住居跡カマド



- 第 13 号住居跡カマド
 1 10YR4/4 深褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に、粘土粒子を少量含む。
 2 10YR4/4 褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック ($\phi 2\text{cm}$) を多量に、粘土粒子を少量含む。
 3 10YR6/6 黄褐色シルト層 粘性は強いが、締まりに欠ける。粘土主体。黒色土を少量含む。
 4 2 SYR6/6 深褐色シルト層 粘性は強いが、やや締まりに欠ける。粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
 5 10YR4/4 黄褐色シルト層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量含む。
 6 10YR4/6 黄褐色土層 やや粘性に欠け、やや締まる。粘土ブロック ($\phi 4\text{cm}$) を少量含む。
 7 2 SYR6/6 棕褐色土層 粘性は強いが、やや締まりに欠ける。粘土粒子を多量に、粘土粒子を微量含む。
 8 10YR4/4 棕褐色土層 やや粘性に欠け、やや締まる。ローム粒子・粘土粒子・粘土粒子を少量含む。
 9 10YR4/6 棕褐色土層 やや粘性に欠け、やや締まる。粘土粒子・粘土粒子・黒色土粒子を少量含む。
 10 10YR4/3 にぶら黄褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子・粘土粒子を少量。ロームブロック ($\phi 1\text{cm}$) を微量含む。
 11 2 SYR4/4 深褐色土層 粘性は強いが、締まりに欠ける。粘土ブロック ($\phi 0.5\text{cm} \sim \phi 1\text{cm}$) を少量含む。
 12 10YR4/4 深褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土ブロック ($\phi 0.5\text{cm}$) を少量含む。
 13 10YR4/3 にぶら黄褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土ブロック ($\phi 1\text{cm}$) を少量含む。ロームブロック ($\phi 1\text{cm}$)、ローム粒子・粘土粒子を微量含む。
 14 10YR4/4 棕褐色土層 粘性を欠け、やや締まりに欠ける。粘土ブロック ($\phi 1\text{cm}$)、ロームブロック ($\phi 1\text{cm}$)、粘土粒子を少量含む。
 15 2 SYR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子・粘土粒子 (種類)
 16 10YR6/3 深黃褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。(種類)
 17 10YR8/2 淡黃褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。褐色土を少量含む。(袖部)

第48図 第13号住居跡の出土遺物



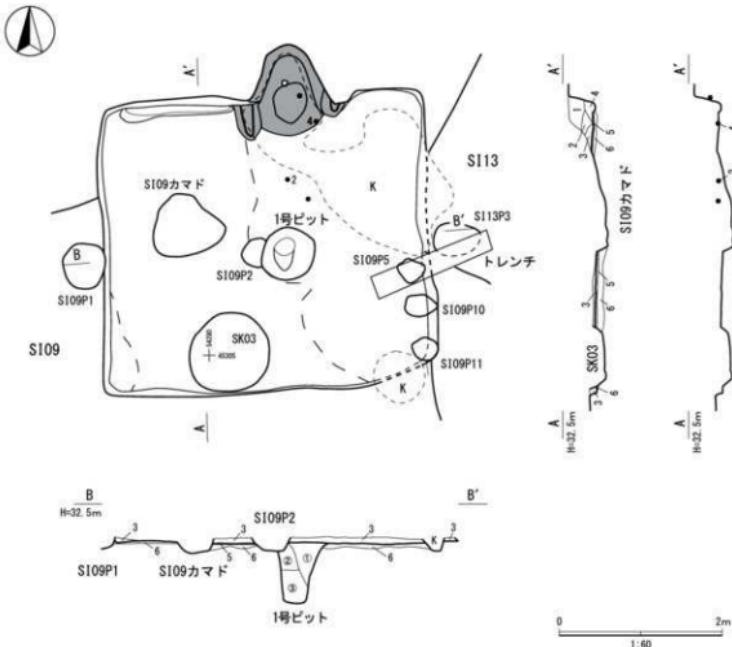
第40表 第13号住居跡出土土器属性一覧

回数 出土地 番号	出土地 番号	部位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	最高 (cm)	特徴・手法	胎土	商轉 骨針	焼成 度	色調	構成 要素	備考
1	SII13	カツ ド袖 銀地 部・ 器 埋土	縫	口縫部 ～底部	85	17.4	10.0	4.4		体部わざかに脚らみを持つ。口縫部 内外面ヨコナザ。体部内外面回転ナ ザ後ナザ。外面上端模方向内持ちち ラケズリ。底部内面ナザ。外面部回 転ヘラカリ離し後未調整。	白色粒子・黒色粒子・赤 色粒子・石英粒子・チャ ート粒・雲母片	○	良 好	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色	木葉 下窓 跡群	
2	SII13	床面 銀地 直上 器 埋土	蓋	胴部～ 底部	40	—	(8.8)	(7.7)		胴部内外面回転ナザ。底部内面ナザ。 外面部回転ヘラ切り離し後強いナザ。	白色粒子・石英粒・チャ ート粒	×	良 好	2.5 Y 5/1 黄灰色	胴部外面に黑 色付着物	
3	SII13	床面 銀地 直上 器 埋土	蓋	縫～天 井部	30	4.2	—	(2.7)		縫半錐宝珠状跡。縫部ナザ。天井部 上位各面左回転ヘラケズリ。下位回 転ナザ。内面ナザ。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒・雲母 片・小織	×	良 好	10 Y R 6/4 にぶい黄褐色	新形 空器 群	
4	SII13	土塗 器 埋土	縫	口縫部 ～体部	45	(11.5)	—	(3.6)		丸底。口縫部内面ヨコナザ。体部 外縫方向ヘラケズリ。内面ナザ。 2条1重位の放射状暗文。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・チャート粒・雲母 片	×	良 好	7.5 Y R 5/4 にぶい褐色	—	
5	SII13 P 3	土塗 器 埋土	縫	口縫部 ～底部	80	11.0	—	3.7		丸底。器底器壁破壊跡。口縫部と体部の 間に壁を持たない。口縫部内外面ヨ コナザ。体部外表面横方向のヘラ ケズリ。下位多方向ヘラケズリ。内 面ナザ。2条1重位の放射状暗文。	白色粒子・黒色粒子・石 英粒・雲母片	×	良 好	2.5 Y R 5/8 明赤褐色	—	
6	SII13	土塗 器 埋	縫	口縫部 ～胴部	40	15.2	—	(12.2)		直口縫型。口縫部外反。内外面ヨコ ナザ。胴部輪模痕痕著。内外面ナザ。	白色粒子・赤色粒子・石 英粒・チャート粒・雲母 片・小織	×	良 好	10 Y R 7/3 にぶい黄褐色	—	

第14号住居跡（第48～50図、第41・42表、写真図版10・30）

2区の中央部、標高32.4m付近に、第9号住居跡に先行、第13号住居跡に後続して位置する。住居跡の遺存度合は、全面を第9号住居跡に掘り込まれているうえ、北東側に大きな擾乱が位置することなどから不良である。長軸404cm、短軸370cmの方形を呈し、主軸方位はN-3°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、最大壁高は北壁の一部で35cmほどを測るが、全体的にほぼ上面を第9号住居跡により削平されている。壁は垂直に立ち上がる。土層は6層に分けられるが、全体的な状況が第9号住居跡により確認できなかつたため埋没状況は不明である。床面はやや起伏をもち、黒褐色土を基調とした厚さ1cmから3cmほどの堅固で緻密な貼床が、住居跡西側を中心に形成されている。壁溝は北壁西側際部分にのみ検出され、幅18cmから25cm、深さ3cmから5cmほどを測る。柱穴は主柱穴と考えられるピットが1基検出されたが、その他の主柱穴や出入口ピットは確認されていない。カマドは住居跡北壁中央部に、北壁を70cmほど削り出して構築されていて、N-4°-Wの主軸方位を示す。焚口部から煙道部までの長さは138cm、袖部外側の幅は112cmを測り、天井部は崩落していて、カマド土層断面図中の浅黄橙色シルトが主体的に含まれる2層や5層・7層・11層が崩落土と考えられる。袖部は向かって東側の袖部が擾乱により一部削平されているが比較的良好に遺存していて、浅黄橙色シルトや褐色土を構築材として使用している。袖部内側の最大幅は77cmを測り、火床部は床面から9cmほど円形に掘りくぼめて構築されている。火床面と推測される面は弱く赤変硬化しているが、頗著な焼土のブロック化などは確認されていない。火床面から煙道部は急角度に立ち上がる。また、中央や北寄りの位置に、凝灰岩を円柱状に削り出して作製された支脚が検出されている。その他、貯蔵穴などの付帯施設は確認されていない。掘り方は、住居跡の全面を掘り込み、ロームブロックが混入する暗褐色土を基調とした土が、床面から最大9cmほど及んでいる。底面はやや起伏をもつ。遺物は128点、2,464.4gが出土している。内訳は土器が須恵器の壺類や高台付壺類・甕壺類・鉢・蓋、土師器の壺類や高台付壺類・甕壺類・鉢である。このうち4点の遺物を図示することができた。1は木葉下窓跡群産の須恵器壺である。2は須恵器の蓋である。かえり・かえしが伴わない。3は土師器の高台付壺である。内面が黒色処理を施される。4は土師器の常総型甕である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀前葉の所産であった可能性が高い。

第49図 第14号住居跡



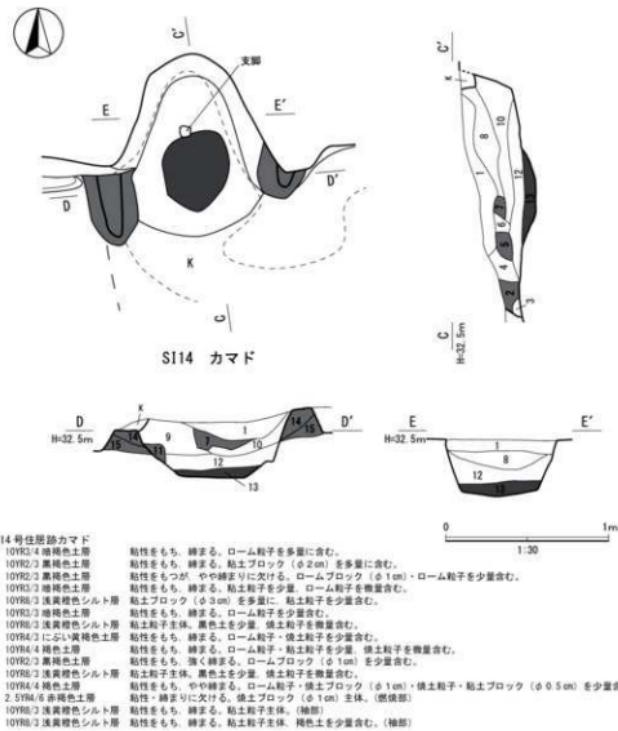
- 第14号住居跡
- 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもつが、やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ 2cm）・粘土粒子を少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm～2cm）を少量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。(粘床)
 - 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。(握り方)

- 第14号住居跡 1号ビット
- 10YR2/4 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cmから2cm）を多量第14号住居跡
 - 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
 - 10YR2/2 黑褐色土層 粘性をもつが、やや締まりに欠ける。粘土ブロック（φ 2cm）・粘土粒子を少量含む。
 - 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm～2cm）を少量含む。
 - 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含む。(粘床)
 - 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm～4cm）を多量に含む。(握り方)

第41表 第14号住居跡ビット属性一覧

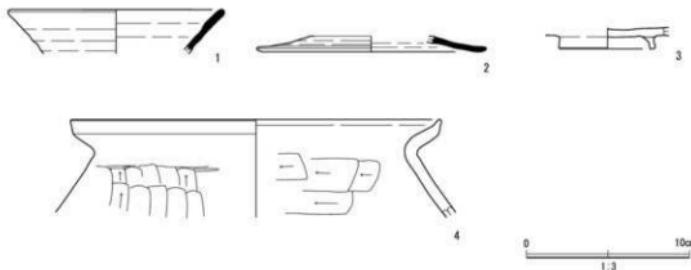
ビット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規格		底面 状況	柱痕		埋没状況	性別	重複関係	出土遺物	備考
				長径 (cm)	短径 (cm)		壁立ち 上がり	アリティ 数	断面 形状				
1号ビット	中央	円形	楕円形	71	—	69	急角度	丸窓を帯びる	—	—	人為	主柱穴	無し

第50図 第14号住居跡カマド



- SI14号住居跡カマド
- 10YR3/4 暗褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土ブロック ($\phi 2\text{cm}$) を多量に含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもつが、やや締まりに欠ける。ロームブロック ($\phi 1\text{cm}$)・ローム粒子を少量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。粘土粒子を少量、ローム粒子を微量含む。
 - 10YR2/1 黒褐色シルト層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
 - 10YR2/3 暗褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 - 10YR2/2 暗褐色シルト層 粘土粒子为主体、黑色土を少量、堆土粒子を微量含む。
 - 10YR4/1 深黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・堆土粒子を微量含む。
 - 10YR4/4 暗褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子・粘土粒子を少量、堆土粒子を微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック (1cm) を少量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色シルト層 粘土粒子为主体、黑色土を少量、堆土粒子を微量含む。
 - 10YR4/2 暗褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子・堆土ブロック ($\phi 1\text{cm}$)・堆土粒子・粘土ブロック ($\phi 0.5\text{cm}$) を少量含む。
 - 2.5YR4/2 暗褐色土層 粘性をもち、締まる。堆土ブロック (1cm) 主体。(堆土部)
 - 10YR3/2 暗褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子为主体。(堆土部)
 - 10YR4/2 深黒褐色シルト層 粘性をもち、締まる。粘土粒子主体。黑色土を少量含む。(堆土部)

第51図 第14号住居跡の出土遺物



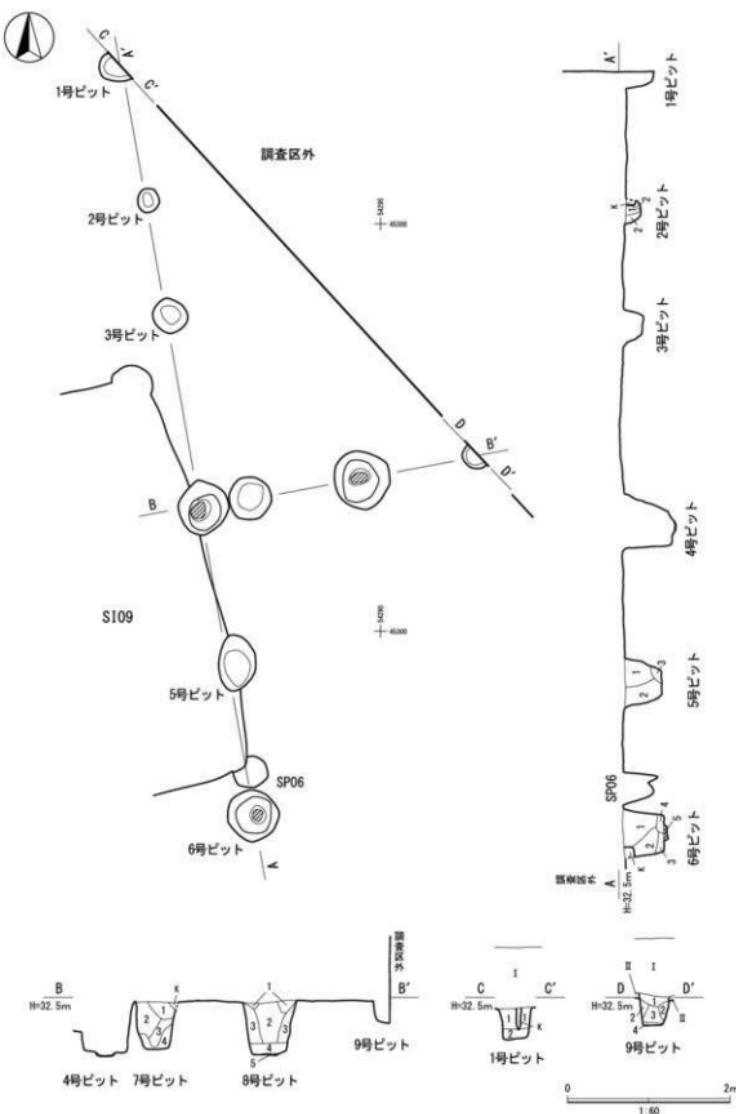
第42表 第14号住居跡出土土器属性一覧

記録番号	出土場所	層位	種別	器種	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	焼成温度	焼成時間	備考	
1	SI14	掘り出し物 方	須恵器	环	口縁部 ～胴部	5	(13.0)	—	(2.7)	底部高輪的に立ち上がる。口縁部内 外面ヨコナギ。底部内面凹弧ナギ。 外面ヨコロ目銀茎。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	2.5 Y 6/3 にぶい黄褐色	木葉下窯 群群
2	SI14	覆土	須恵器	環	端部	5	(12.6)	—	(1.0)	かえり・かえしない。天井部内外面 凹弧ナギ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	2.5 Y 5/2 埋灰黄色	木葉下窯 群群
3	SI14	覆土	土器	高台付付	底部	5	—	5.2	(1.3)	内黒の高台付付。底部内面一方向ミ ガキ、外面左回転ヘラ切り離し後強 いナギ。高台部割り付け。	白色粒子・石英粒	×	良好	7.5 Y R 6/4 にぶい褐色	—
4	SI14 カマド	覆土	土器	甕	口縁部 ～胴部	5	(22.6)	—	(5.9)	完結型甕。口縁部を上方につまみ出 される。口縁部内面ヨコナギ。胴 部外表面方向ヘラケズリ。内面横方 向ヘラケズリ後ナギ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・小穂	×	良好	7.5 Y R 5/4 にぶい褐色	—

第1号掘立柱建物跡（第51・52図、第43・44表、写真図版10・11・31）

2区の南東側から南側にかけて、標高32.4mから32.5mほどに、第9号住居跡に後続して分布する。桁行は2間以上、梁間は5間以上の建物で、桁行方向はN-10°-Wを示す。規模は桁行長354cm以上、梁間936cm以上、柱間寸法は平均189.4cmを測る。柱穴は9基確認されているが、1号から3号や9号ピットは、4号から8号ピットより径も小さく、深さも浅い。このことから、4号ピットから8号ピットまで構成される掘立柱建物跡の可能性も指摘できる。しかし、ピットの配列は規則性を持つため、今回は掘立柱建物跡と報告する。各ピットの法量などは第43表を参照していただきたい。概ね平面形は円形または梢円形を呈し、径は平均51cm、深さは平均45.7cmを測る。ピット間距離は1号と2号ピット間が170cm、2号と3号ピット間は146cm、3号と4号ピット間は242cm、4号と5号ピット間は201cm、5号と6号ピット間は188cm、4号と7号ピット間は66cm、7号と8号ピット間は136cm、8号と9号ピット間は148cmほどを測る。4号・6号・8号ピットの底面から径17cmから22cmほどの、平面形が円形や梢円形の柱圧痕が、2号や8号ピットから断面で柱の抜き取り痕が確認されている。掘り方はにぶい黄褐色や黒褐色土などを基調とした、ローム粒子を含む、やや締まりをもつ土で構築されている。遺物は6号ピットから須恵器の坏類が1点、5.9g、9号ピットから須恵器の蓋が1点、4.1gが出土している。このうち須恵器の蓋1点を図示することができた。木葉下窯跡群産の蓋端部片である。かえりはない。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より10世紀前葉以降の所産であった可能性が高い。

第52図 第1号掘立柱建物跡



第1号掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 1号ビット

- 1: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2: 10YR2/4 棕褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。

第1号掘立柱建物跡 2号ビット

- 1: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
2: 10YR2/4 棕褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量含む。

第1号掘立柱建物跡 3号ビット

- 1: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
2: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量含む。
3: 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもつが、やや締まりに次げる。ローム粒子を少量含む。

第1号掘立柱建物跡 4号ビット

- 1: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
2: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量含む。
3: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。
4: 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもつが、やや締まりに次げる。ローム粒子を少量含む。
5: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック (φ 1cm)・ローム粒子を少量含む。

第1号掘立柱建物跡 5号ビット

- 1: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
2: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
3: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量含む。
4: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。
5: 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 粘性をもち、やや締まりに次げる。ローム粒子を少量含む。

第1号掘立柱建物跡 6号ビット

- 1: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
2: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
3: 10YR3/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量含む。
4: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。
5: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック (φ 1cm)・ローム粒子を少量含む。9

第1号掘立柱建物跡 7号ビット

- 1: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
2: 10YR4/4 棕褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量に含む。
3: 10YR3/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量含む。
4: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。
5: 10YR2/3 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック (φ 1cm)・ローム粒子を少量含む。

第43表 第1号掘立柱建物跡ビット属性一覧

ビット番号	平場 断面 形態	規格	直徑 (mm)	厚 (mm)	深さ (mm)	壁立ち上がり	底面状況	柱底			埋没状況	重複關係	出土遺物	備考
								底面ア カラ数	平面ア カラ数	アタリ幅 (mm)	断面 柱底			
1号ビット	椭円形	筒状	(41)	(24)	35	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	人為	—	無し	
2号ビット	椭円形	筒状	29	26	21	緩やか	起伏をもつ	—	—	—	有り	人為	—	無し
3号ビット	円形	筒状	43	—	27	緩やか	丸味を帯びる	—	—	—	人為	—	無し	版築状の掘り方
4号ビット	円形	逆台 形状	63	—	65	急角度	丸味を帯びる	1	円形・ 中央	22	人為	S109に後続	無し	粗雑な版築状 の掘り方
5号ビット	椭円形	逆台 形状	68	46	48	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	人為	S109に後続	無し	粗雑な版築状 の掘り方
6号ビット	円形	逆台 形状	63	—	56	急角度	平坦	1	円形・ 中央や東	17	人為	—	須恵器片	
7号ビット	円形	踏状	53	—	60	急角度	平坦	—	—	—	人為	—	無し	
8号ビット	円形	逆台 形状	67	—	69	ほぼ垂直	平坦	1	円形・ 中央や東	22.13	有り	人為	—	無し
9号ビット	円形	筒状	32	—	30	ほぼ垂直	丸味を帯びる	—	—	—	入為	—	須恵器片	

第53図 第1号掘立柱建物跡の出土遺物



第44表 第1号掘立柱建物跡出土土器属性一覧

図版 番号	出土地 点遺構	出 世	理形	器種	部位	残存率 (%)	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	特徴・手法	地 土	海綿 骨針	埋 成	色 調	焼 成 度	備 考
1	9号 ビット	覆土	單 層	器 種	蓋	天井部 ～端部	5	(13.5)	—	(1.1) 天井部内面回転ナダ。	白色粒子・チャート粒	○	良好	2.5 Y 6/1 黄 褐色	木炭 下塗 灰斑	

第2号掘立柱建物跡（第53・54図、第45～48表、写真図版11～13・31）

1区の北側から中央部にかけて、標高32.3mから32.4mほどに、第4号住居跡に先行、第8号・第13号ピットに後続して分布する。桁行は4間以上、梁間は3間以上の側柱建物で、桁行方向はN-12°-Eを示す。規模は桁行長688cm以上、梁間696cm以上、柱間寸法は平均233.3cmを測る。柱穴は8基確認されている。各ピットの詳細な法量などは第45表を参照していただきたい。概ね平面形は隅丸方形が中心で、方形を志向している。長軸は平均99cm、短軸は平均83.5cm、深さは平均102.6cmを測る。ピット間距離は1号と2号ピット間が162cm、2号と3号ピット間は150cm、3号と4号ピット間は182cm、4号と5号ピット間は184cm、5号と6号ピット間は216cm、6号と7号ピット間は246cm、7号と8号ピット間は238cmを測る。ピットの底面から1ヶ所ないし2ヶ所、径17cmから34cmほどの、平面形が円形や楕円形の柱圧痕が、1号や7号ピット以外から断面で柱の抜き取り痕が確認されている。掘り方はロームブロックを多量に含む、黒褐色や褐色、明黄褐色土などを基調とした、やや締まりをもつ土で構築されている。また、1号から3号や8号ピットでは掘り方が黒褐色土とロームブロックの互層となる版築状となっている。遺物は1号ピットから時期不明の繩文土器や須恵器の坏類・甕壺類・蓋、土師器の甕壺類、丸瓦が合計で49点、747.3g、6号ピットから須恵器の甕壺類が4点、79.0gが出土している。このうち2点を図示することができた。1は須恵器の坏底部片である。底部外面全面に手持ちヘラケズリを施す。2は凸面ナデで、凹面布目の丸瓦である。その胎土から1・2共に木葉下窓跡群産であろう。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より7世紀後半から8世紀前半の所産であった可能性が高い。

第2号掘立柱建物跡1号ピット

2区の北側、標高32.3m付近に、第8号ピットに先行して位置する。第2号掘立柱建物跡における、確認された桁行の最も北側のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸127cm、短軸97cm、深さ104cmほどを測り、主軸方位はN-12°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。底面はやや起伏をもつ。また、平面形が楕円形の柱圧痕が底面中央部やや南側に1ヶ所確認されている。長軸34cm、短軸23cmほどを測る。土層は4層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕は確認されていないが、一部ロームブロックの混入する黒褐色土や明黄褐色土などが互層となり、乱雑な版築を形成して、掘り方となる。遺物は時期不明の繩文土器や須恵器の坏類・甕壺類・蓋、土師器の甕壺類、丸瓦が合計で49点、747.3gが出土している。

第2号掘立柱建物跡2号ピット

2区の北側、標高32.3m付近に、単独で位置する。第2号掘立柱建物跡における、確認された桁行の北から2番目のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸125cm、短軸97cm、深さ125cmほどを測り、主軸方位はN-74°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面はやや起伏をもつ。また、平面形が楕円形の柱圧痕が底面北側に1ヶ所確認されている。長軸22cm、短軸17cmほどを測る。土層は5層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また、一部ロームブロック

クの混入する褐色土や黒褐色土などが互層となり、乱雑な版築を形成して、掘り方となる。遺物は出土していない。

第2号掘立柱建物跡3号ピット

2区の北側、標高32.3m付近に、単独で位置する。第2号掘立柱建物跡における、確認された桁行の北から3番目のピットである。南東側1/2が電柱の添えワイヤー部分に位置して、その部分は調査できなかった。平面形は推定不整円形を呈する。長軸61cm、短軸現存37cm、深さ111cmほどを測る。断面形は筒状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は丸味を帯びる。また、平面形が円形の柱圧痕が底面中央部に1ヶ所確認されている。径17cmほどを測る。土層は6層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また、一部ロームブロックの混入する明黄褐色土や黒褐色土などが互層となり、整然な版築を形成して、掘り方となる。遺物は出土していない。第2号掘立柱建物跡を構成するピットのうち、本ピットのみ平面形が円形と推定される。しかし、本ピットの法量や版築の状況などから考えて、第2号掘立柱建物跡を構成するピットの一つと判断している。

第2号掘立柱建物跡4号ピット

2区の中央部や北東側、第2号掘立柱建物跡の検出されたピットのうち、確認された桁行の北から4番目に位置する。標高32.4m付近に、単独で位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長軸109cm、短軸101cm、深さ118cmほどを測る。主軸方位はN-14°-Eを示す。断面形は箱状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。また、平面形が円形の柱圧痕が底面中央部や西側に1ヶ所確認されている。径22cmほどを測る。土層は7層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また、一部ロームブロックと明黄褐色土や黒褐色土などが混入する土が、乱雑な版築状となり、掘り方として形成されている。遺物は出土していない。

第2号掘立柱建物跡5号ピット

2区の中央部や東側、標高32.3m付近に、単独で位置する。第2号掘立柱建物跡の検出されたピットのうち、確認された桁行と梁行の交差する建物南東隅のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸117cm、短軸74cm、深さ115cmほどを測る。主軸方位はN-74°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。また、平面形が円形の柱圧痕が底面中央部や北東側に1ヶ所確認されている。径21cmほどを測る。土層は7層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また、一部ロームブロックや鹿沼土ブロックの混入する明黄褐色土や黒褐色土などが互層となり、粗雑な版築を形成して、掘り方となる。遺物は出土していない。

第2号掘立柱建物跡 6号ピット

2区の中央部、標高31.8m付近に、第4号住居跡に先行して位置する。確認面標高が他のピットに比べ深いのは、第4号住居跡の床下から検出されたためである。第2号掘立柱建物跡における、確認された梁行の東から4番目のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸121cm、短軸92cm、深さ72cmほどを測る。主軸方位はN-87°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は概ね平坦である。また、平面形が円形の柱圧痕が底面中央部やや北西側に1ヶ所確認されている。径21cmほどを測る。土層や埋没状況、掘り方などは完掘してしまったため不明である。遺物は土師器の甕壺類が4点、79.0g出土している。

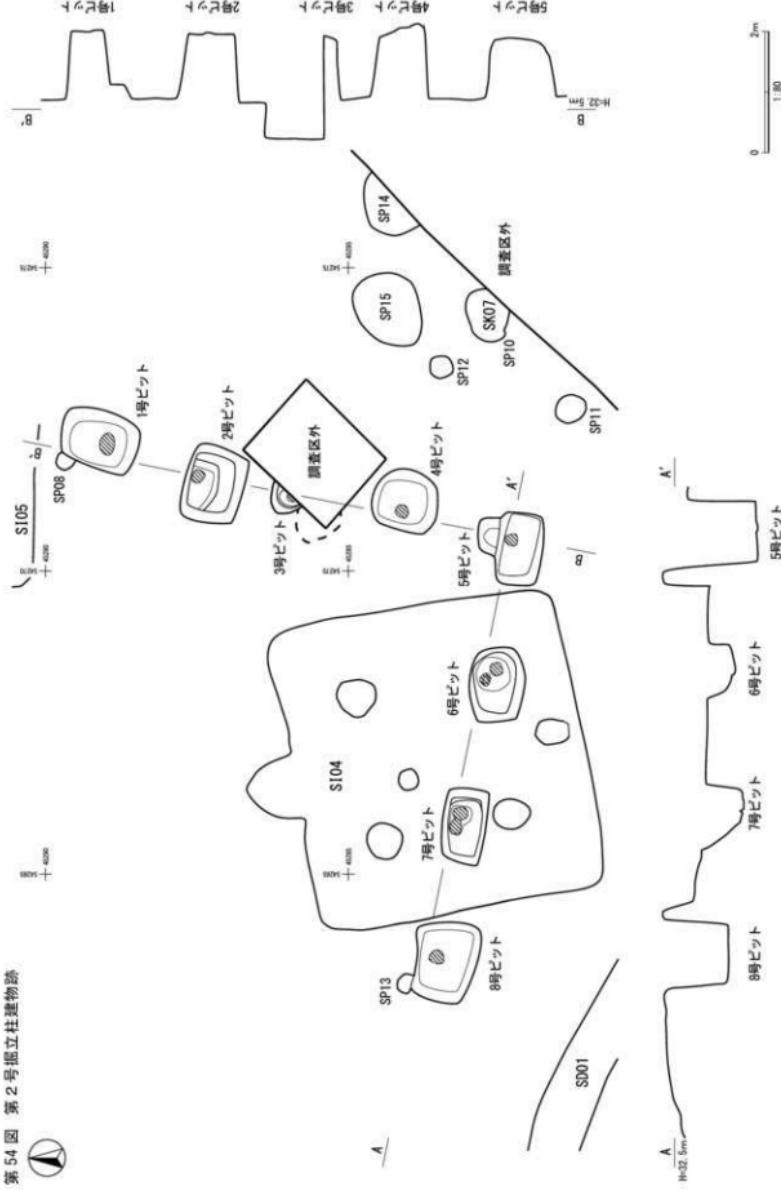
第2号掘立柱建物跡 7号ピット

2区の中央部やや西側、標高31.8m付近に、第4号住居跡に先行して位置する。確認面標高が他のピットに比べ深いのは、第4号住居跡の床下から検出されたためである。第2号掘立柱建物跡における、確認された梁行の東から2番目のピットである。平面形は長方形を呈する。長軸121cm、短軸72cm、深さ68cmほどを測る。主軸方位はN-80°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。底面は起伏をもつ。また、平面形が楕円形の柱圧痕が底面北側に2ヶ所確認されている。長軸27cmおよび24cm、短軸24cmおよび20cmほどを測る。土層は4層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕や版築状の掘り方は確認されていない。遺物は出土していない。

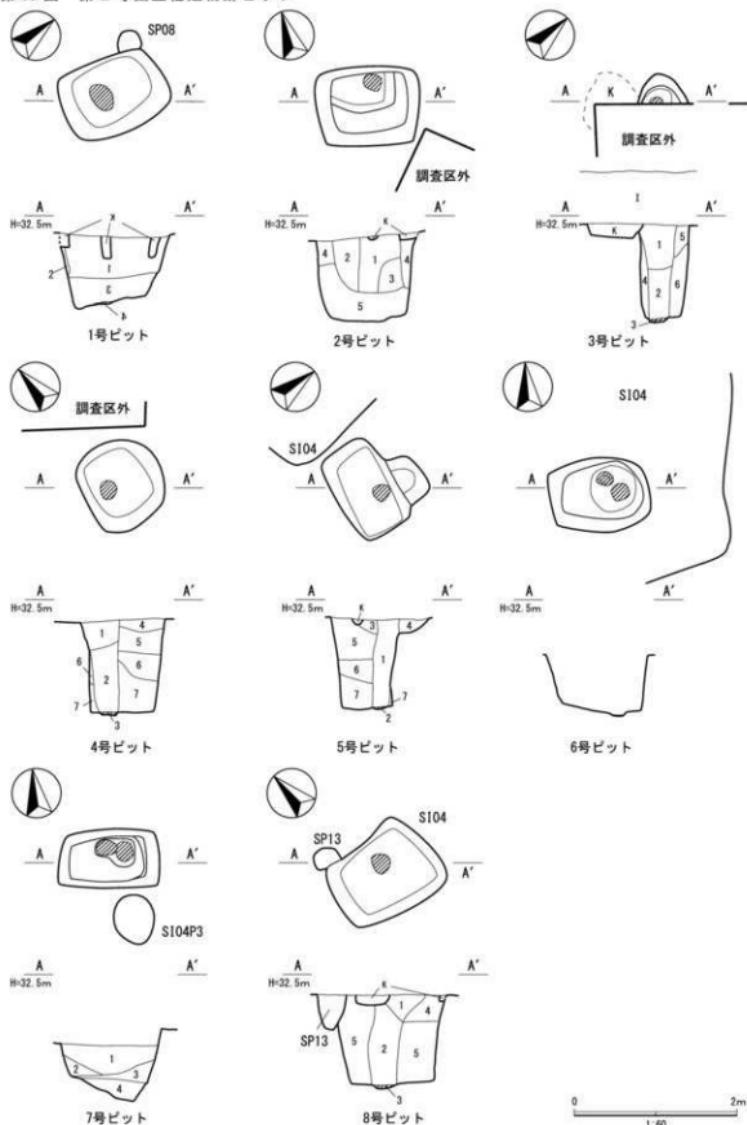
第2号掘立柱建物跡 8号ピット

2区の西側、標高32.3m付近に、第13号ピットに先行して位置する。第2号掘立柱建物跡における、確認された梁行の最も東側のピットである。平面形は隅丸方形を呈する。長軸132cm、短軸98cm、深さ108cmほどを測る。主軸方位はN-78°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。また、平面形が円形の柱圧痕が底面北側に1ヶ所確認されている。径22cmを測る。土層は5層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認されている。また、一部ロームブロックの混入する褐色土や黒褐色土などが互層となり、乱雑な版築を形成して、掘り方となる。遺物は出土していない。

第54図 第2号掘立柱連物跡



第55図 第2号掘立柱建物跡 ピット



第2号掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡 1号ビット

- 1 10YR4/4にぶる黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子、鹿沼土粒子を少量含む。
 2 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。
 3 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm~4cm）を多量に、ローム粒子・黒褐色土層・鹿沼土ブロック（φ 2cm）を少量含む。
 4 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。

第2号掘立柱建物跡 2号ビット

- 1 10YR5/3 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子、鹿沼土粒子を少量含む。
 2 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を多量に含む。
 3 10YR4/4にぶる黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 2cm）、ローム粒子、鹿沼土粒子を少量含む。
 4 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。
 5 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm~4cm）を多量に、ローム粒子、黒褐色土層・鹿沼土ブロック（φ 2cm）を少量含む。
 6 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含むことと10YR4/4明黄褐色土層で、粘性をもち、締まる。
 ローム土・ロームブロック（φ 3cm）を少量に含む所の並ぶ。

第2号掘立柱建物跡 3号ビット

- 1 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
 2 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量、ロームブロック（φ 1cm）を微量含む。
 3 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。
 4 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム土・ロームブロック（φ 2cm）、ローム粒子を多量に含む。
 5 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム土を多量に、ロームブロック（φ 1cm）を少量含む。
 6 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm）を多量に含むことと10YR4/4明黄褐色土層で、粘性をもち、締まる。
 ローム土・ロームブロック（φ 3cm）を少量に含む所の並ぶ。

第2号掘立柱建物跡 4号ビット

- 1 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
 2 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。
 3 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。鹿沼土粒子を多量に、ロームブロック（φ 2cm）を少量含む。
 4 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
 5 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm~5cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。
 6 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 1cm~5cm）主体。ローム土を多量に含む。
 7 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 3cm~5cm）、ローム粒子を多量に含む。

第2号掘立柱建物跡 5号ビット

- 1 10YR4/4にぶる黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を多量に含む。
 2 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 1cm）を多量に含む。
 3 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）、鹿沼土ブロック（φ 2cm）を多量に含む。
 4 10YR4/4にぶる黒褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ローム粒子を微量含む。
 5 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を多量に含む。
 6 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）、ローム粒子を多量に含む。
 7 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 2cm）、ローム粒子を多量に含む。

第2号掘立柱建物跡 6号ビット

- 1 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 3cm）、ローム粒子を多量に含む。
 2 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm~4cm）、ローム粒子を多量に含む。
 3 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ローム粒子を少量含む。
 4 10YR7/7 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。鹿沼土ブロック（φ 1cm）を少量含む。

第2号掘立柱建物跡 7号ビット

- 1 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 3cm）、ローム粒子を多量に含む。
 2 10YR6/8 明黄褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm~4cm）、ローム粒子を多量に含む。
 3 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ローム粒子を少量含む。
 4 10YR7/7 黄褐色土層 粘性をもち、強く締まる。鹿沼土ブロック（φ 1cm）を少量含む。
 5 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 3cm）、ローム粒子を少量含む。

第2号掘立柱建物跡 8号ビット

- 1 10YR5/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 3cm）、ローム粒子を多量に、鹿沼土粒子を微量含む。

- 2 10YR4/3にぶる黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子、鹿沼土粒子を少量含む。

- 3 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を多量に含む。

- 4 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 1cm~4cm）を多量に、ローム粒子、黒褐色土層・鹿沼土ブロック（φ 2cm）を少量含む。

- 5 10YR2/3 黑褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ 1cm）、ローム粒子を少量含む。

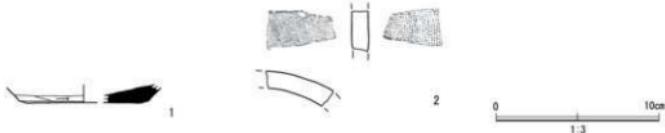
第45表 第2号掘立柱建物跡ビット属性一覧（1）

ビット番号	平面形状	断面形状	規格	直進	曲進状況	柱底			埋没状況	重複関係	出土遺物	備考	
						長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	立ち上り	アタリ アリ	断面 直角		
1号ビット	隅丸丸形	逆台形状	127 97 104	急角度	やや起伏をもつ	1	隅円形、中央や や左斜	34 × 23	—	人為	SP08 に先行	繩文土器、 須恵器片、 愛宕型、基 土器破片、 丸瓦	回り方は弱い、 瓦層
2号ビット	隅丸丸形	箱状	125 97 125	ほぼ 垂直	やや起伏をもつ	1	隅円形、 北	27 × 17	有り	人為	—	無し	回り方は弱い、 瓦層
3号ビット	不整円形	箱状	61 (37) 111	ほぼ 垂直	丸味を帯びる	1	円形、 中央	17	有り	人為	—	無し	南東側 1/2 は圓 盤できなかった 限り方は取駆化
4号ビット	隅丸丸形	箱状	109 101 118	ほぼ 垂直	平坦	1	円形、 中央や や西	22	有り	人為	—	無し	
5号ビット	隅丸丸形	箱状	117 74 115	ほぼ 垂直	平坦	1	円形、 中央や や北東	21	有り	人為	—	無し	北側に深さ 15 cm の突出部あり
6号ビット	隅丸丸形	逆台形状	121 92 72	ほぼ 垂直	やや起伏をもつ	2	隅円形または よじ隅丸形 分岐、— 左斜	17 × 21 — 21 × 17 — 20 左斜や左 左斜や左	不明	不明	S104 に先行	土師漆器	

第46表 第2号掘立柱建物跡ピット属性一覧(2)

ピット番号	平面形態	断面形態	規模			壁立ち 上がり	底面状況	柱底			埋没状況	重複関係	出土遺物	備考
			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			底面ア タリ数	平面形 ・位置	アタリ径 (cm)	断面 柱底			
7号ピット	長方形	逆台形状	121	72	68	急角度	起伏をもつ	2	椭円形 中央や 東	27×18 24×20	—	人為	S104に先行	無し
8号ピット	楕円形	逆台形状	132	98	106	ほぼ 垂直	平坦	1	円形 中央や 北化	22	有り	人為	SPI3に先行	無し 掘り方は弱い 瓦層

第56図 第2号掘立柱建物跡の出土遺物



第47表 第2号掘立柱建物跡出土土器属性一覧

調査 番号	出土地 点名	層位	種別	器種	部位	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法			胎土	断面 骨針	焼成 度	色調	備考
										外側 内側	内側 外側	手持 輪					
1	S802 P 1	覆土 層	第Ⅱ 層	坪	底部	5	—	(7.9)	(1.1)	体部外面回転ナギ、下端横方向手持 輪へラケズリ。底部内面ナギ、外面 切り離し、技法不明後面手持ち多方 向へラケズリ。	白色粒子・石英粒	○	良好	5 Y 6/1 灰色	木葉 下窓 鉢群		

第48表 第2号掘立柱建物跡出土瓦属性一覧

調査 番号	出土地 点名	層位	種別	器種	部位	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	表面痕跡			胎土 基物	断面 骨針	焼成 度	色調	備考
										凹面痕跡	凸面痕跡	凸面調整					
2	S802 P 1	覆土 層	瓦瓦	坪	—	42.0	1.1	16.4	布目	—	—	ナゲ	白色粒子 ・チャート粒	×	良好	2.5 Y 8/1 灰白色	

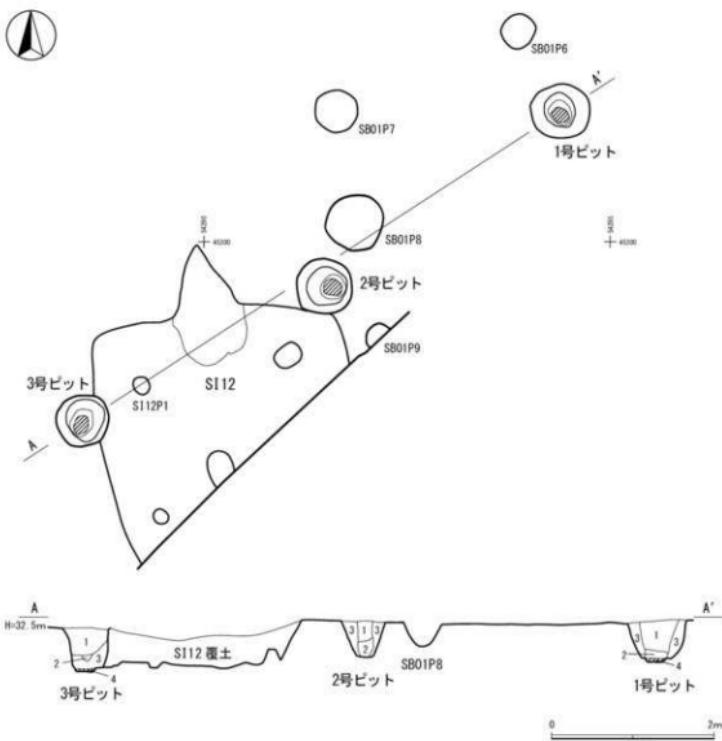
第1号ピット列(第56図、第49表、写真図版13)

2区の南側、標高32.4 mから32.5 m付近に、第12号住居跡に後続して位置する。3基のピットで構成され、全長701 cmを測り、主軸方向はN-57°-Eを示す。ピットの平面形はすべて円形を呈し、ピット間寸法は平均349 cm、深さ平均50 cmほどを測る。3基すべての底面から柱の圧痕、1号・2号ピットから断面で柱の抜き取り痕が確認されている。ピット間の距離は1号ピットと2号ピットは346 cm、2号ピットと3号ピットは352 cmを測る。各ピットの法量などは第49表で確認していただきたい。遺物は1号・2号ピットから出土していないが、3号ピットから7点、54.1 gが出土している。内訳は土師器の壺類、甕壺類、鉄製品の釘であるが、すべて細片のため図示することはできなかった。出土遺物や覆土の状況、重複関係より10世紀前葉以降の所産であった可能性が高い。

第49表 第1号ピット列ピット属性一覧

ピット番号	平面形態	断面形態	規模			壁立ち 上がり	底面状況	柱底			埋没状況	重複関係	出土遺物	備考
			長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			底面ア タリ数	平面形 ・位置	アタリ径 (cm)	断面 柱底			
1号ピット	円形	筒状	71	—	50	急角度	平坦	1	椭円形 ・中央	23×19	—	人為	—	土師器壺
2号ピット	円形	筒状	71	—	46	急角度	平坦	1	椭円形 ・東	22×20	有り	人為	—	土師器壺 ・壺
3号ピット	円形	筒状	65	—	55	急角度	平坦	1	椭円形 ・中央	23×17	有り	人為	—	無し

第57図 第1号ビット列



第1号ビット列

第1号ビット列1号ビット

- 1 10R3/2 にぶい 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約1cm）・ローム粒子を少量含む。
- 2 10R2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 3 10R2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。
- 4 10R2/4 嫌褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（約2cm）を多量に含む。

第1号ビット列2号ビット

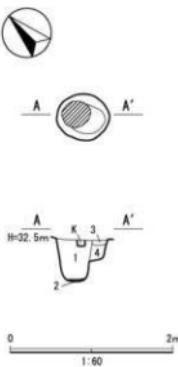
- 1 10R3/4 嫌褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約1cm）・ローム粒子を少量含む。
- 2 10R2/3 黒褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約2cm）を少量、ローム粒子を微量含む。
- 3 10R4/3 にぶい 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約1cm）を多量に、ローム粒子を少量含む。

第1号ビット列3号ビット

- 1 10R2/4 嫌褐色土層 粘性をもち、やや締まる。粘土粒子を多量に含む。
- 2 10R4/4 嫌褐色土層 粘性をもつが、やや締まりに欠ける。粘土粒子を多量に含む。
- 3 10R2/3 黑褐色土層 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約1cm）・ローム粒子を少量含む。
- 4 10R3/4 嫌褐色土層 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（約2cm）を多量に含む。

第4号ピット（第57図、第50表、写真図版14・31）

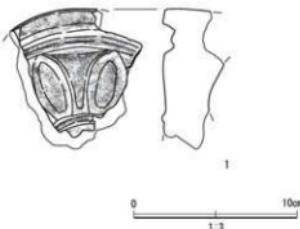
2区の東側、標高32.4m付近に単独で位置する。平面形は楕円形を呈する。長軸63cm、短軸56cm、深さ51cmを測り、主軸方位はN-44°-Wを示す。断面形は有段の筒状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。底面は平坦である。土層は3層に分かれ、人為的な埋没状況を示す。遺物は16点で348.8gが出土している。内訳は、土器が縄文時代の中後期加曾利E式期の深鉢、須恵器の坏類・高台付坏類・蓋、土師器の甕壺類・蓋、軒丸瓦が出土している。このうち、軒丸瓦1点を図示することができた。1は素文縁单弁八弁蓮華文軒丸瓦の瓦当面片である。連子数などは欠損して不明であるが、全体的に丸味を帯びることから、使用された瓦当範の後期に造られたと考えられる。3103型式であろう。遺構の法量や形状から、第5号ピットや第1号掘立柱建物跡における4号から8号ピットと共通する要素が多いため、掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは、規則的な配列が確認できなかったため、今回は単独のピットとして報告する。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況より平安時代の所産であった可能性が高い。



第4号ピット

- 1 10YR3/4 塗褐色土層
 - 2 10YR2/3 黑褐色土層
 - 3 10YR7/6 明黄褐色土層
 - 4 10YR2/3 黑褐色土層
- 粘性をもつが、やや弱まりに欠ける。ローム粒子・粘土粒子を多量に含む。
- 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（φ1cm）・ローム粒子を少量含む。
- 粘性をもつが、やや弱まりに欠ける。ローム土を多量に、粘土粒子・暗褐色土を少量含む。
- 粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ1cm）・ローム粒子を少量含む。

第59図 第4号ピットの出土遺物



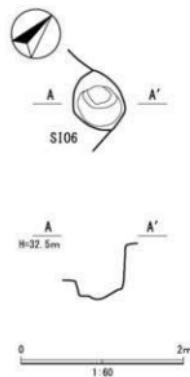
第50表 第4号ピット出土瓦属性一覧

図版 番号	出土地 点	層位	種別	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法	胎土 試物	陶輪 骨針	焼成	色調	備考
1 SF04	埋土	軒丸瓦	(E.6)	(8.15)	3.8	118.6		素文縁单弁八弁蓮華文軒丸瓦。全面ナデ。丸瓦一部一方に向かってケツリ削り。	白色粒子・赤色粒子・石英粒子・チャート粒子	×	良好	2.5~8/1 灰白色	

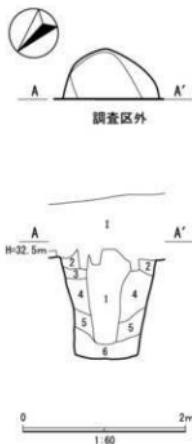
第5号ピット（第59図、写真図版15）

2区の南西側、標高32.4m付近に、第6号住居跡に後続して位置する。平面形は橢円形を呈する。長軸75cm、短軸61cm、深さ69cmを測り、主軸方位はN-62°-Wを示す。断面形は筒状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。第6号住居跡掘削中に確認されたため、土層や埋没状況は不明である。また、底面の北側に柱の圧痕が確認されている。平面形は隅丸方形で、長軸23cm、短軸22cmを測る。遺物は出土していない。遺構の法量や形状から第4号ピットや第1号掘立柱建物跡における4号から8号ピットと共通する要素などが多いため、掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは、規則的な配列が確認できなかつたため、今回は単独のピットとして報告する。遺構の形状、覆土の状況、重複関係より9世紀以降の所産であった可能性が高い。

第60図 第5号ピット



第61図 第14号ピット



第14号ピット（第60図、写真図版15）

1区の東側、標高32.3m付近に、単独で位置する。南東側1/2が調査区外であるため、その部分は調査ができなかつた。平面形は隅丸方形を呈する。長軸現存64cm、短軸現存83cm、深さ124cmを測り、主軸方位はN-71°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。土層は6層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認され、ロームブロックと黄褐色土や黒褐色土・鹿沼土などが混入する土が、掘り方として確認されている。遺物は出土していない。遺構の法量や形状から第15号ピットや第2号掘立柱建物跡における各ピットと共通する要素などが多いため、大型の掘立柱建物跡を構成するピットの可能性が高い。しかし他のピットとは、規則的な配列が確認できなかつたため、今回は単独のピットとして報告する。遺構の形状、覆土の状況より奈良・平安時代の所産であった可能性が高い。

第14号ピット

- | | |
|-------------------|--|
| 1 10YR4/3にぶい黄褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 2 10YR4/4褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 3 10YR7/4褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約1cm）を多量に、黒色土を少量含む。 |
| 4 10YR3.5褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約2cm）多量に、ローム粒子を少量含む。 |
| 5 10YR2/3黒褐色土層 | 粘性をもち、締まる。ロームブロック（約3cm）多量に、鹿沼土ブロック（約2cm）を少量含む。 |
| 6 10YR6/3明黄褐色土層 | 粘性をもち、強く締まる。ロームブロック（約1cm）、鹿沼土ブロック（約2cm）を少量含む。 |

第 15 号ビット（第 61 図、写真図版 15）

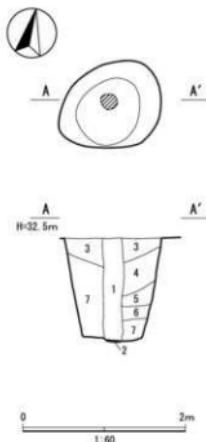
1 区の東側、標高 32.3 m 付近に、単独で位置する。平面形は不整格円形を呈する。長軸 133 cm、短軸 107 cm、深さ 137 cm を測り、主軸方位は N-54°-E を示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。底面は平坦である。土層は 7 層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。土層断面から柱痕が確認され、底面の北西側から 1 ヶ所柱の圧痕が確認されている。平面形は楕円形で、長軸 23 cm、短軸 19 cm ほどを測る。また、ロームブロックと黄褐色土や黒褐色土などが混入する土が、掘り方として確認されている。遺物は出土していない。遺構の法量や形状から第 14 号ビットや第 2 号掘立柱建物跡における各ビットと共通する要素などが多いため、大型の掘立柱建物跡を構成するビットの可能性が高い。しかし他のビットとは、規則的な配列が確認できなかつたため、今回は単独のビットとして報告する。遺構の形状、覆土の状況より奈良・平安時代の所産であった可能性が高い。

古墳時代から平安時代の遺構出土遺物

（第 62 図、第 51 表、写真図版 31～33）

表土や古墳時代から平安時代以外の遺構から出土した代表的な遺物を 12 点図示することができた。1 から 4 は古墳時代、5 から 11 は奈良・平安時代の遺物である。以下から説明を加えることとする。1 は第 14 号住居跡の覆土である。2・3・6 は須恵器の壺である。外面を格子目叩きが施され、当具痕は青海波文である。2 は第 8 号住居跡の覆土、3 は第 9 号住居跡の覆土、4 は第 3 号土坑覆土出土の須恵器壺、5 は第 9 号住居跡の掘り方出土の高台付壺、6 は第 3 号住居跡の覆土、7 は第 3 号土坑覆土出土の須恵器壺、8 は表採の須恵器長頸壺である。内面に黒色付着物が確認された。9 は第 8 号住居跡の須恵器壺である。10 は表採の環状鉢を伴う須恵器蓋である。10・11 は体部外面に釈読不明の墨書が確認できた、土師器の壺である。双方共に表採で内面を黒色処理が施される。12 は表採の土師器高台付壺である。内面に黒色処理が施される。

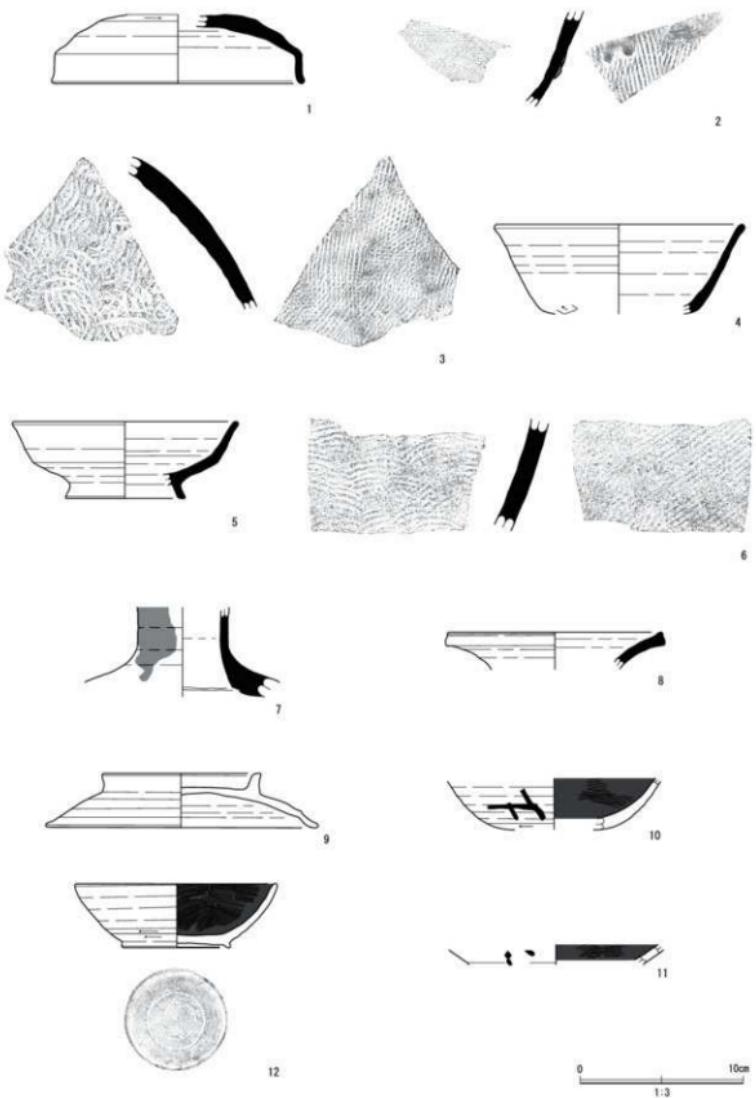
第 62 図 第 15 号ビット



第 15 号ビット

- 1 10YR5/4 黄褐色土層 和的をもち、やや緑まる。
ローム粒子を微量含む。
粒度をもち、強く結まる。
ロームブロック（φ 1 cm）
を多量に含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土層 和的をもち、緑まる。
ローム粒子を少量含む。
粒度をもち、緑まる。
- 3 10YR4/3 黃褐色土層 和的をもち、緑まる。
ロームブロック（φ 3 cm）
を多量に、ローム粒子を
少量含む。
- 4 10YR2/3 黑褐色土層 和的をもち、緑まる。
ローム粒子を微量含む。
粒度をもち、緑まる。
- 5 10YR5/8 黄褐色土層 和的をもち、緑まる。
ロームブロック
(φ 1 cm~4 cm) を上部。
和的をもち、中で緑まる。
ロームブロック
(φ 2 cm~4 cm) を多量に
含む。
- 6 10YR2/3 黑褐色土層
- 7 10YR2/3 黑褐色土層

第63図 古墳時代から平安時代の遺構外出土遺物



第51表 古墳時代から平安時代出土土器属性一覧

図版 番号	出土地 点(遺構)	部位	種別	器種	部位	既存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法	胎土	陶種 青封	被成 層	備考
1 S114	土器 群	蓋	天井部 ～端部	35	(15, 0)	—	(4, 2)	壊坏。天井部内外面回転ナデ。端部 内外面ヨコナデ。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・チャート粒	×	良好	2.5 Y 5/2 暗灰黄色	不明	
2 S108	土器 群	蓋	胴部	5	—	(5, 8)	—	—	外面部の斜格子目印き、一部ハケ 口。内面青海波紋。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良好	10 Y R 5/1 褐色	不明
3 S109	土器 群	蓋	胴部	5	—	—	9.4	胴部外斜方向斜格子目印き、内面 青海波紋。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良好	N 4/0 灰色	不明	
4 SK03	土器 群	环	口縁部 ～底部	15	(15, 0)	(9, 7)	(5, 5)	—	体部底部を持ち、口縁部外反。内 外面ヨコナデ。体部外斜方向斜ナデ。 クロロム難着。内面ナデ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	○	良好	10 Y R 6/3 木葉下葉 黄褐色	
5 S109	腰方 引手	蓋	高台口縁部 付近～底部	25	(13, 5)	(7, 2)	4.7	—	体部中央部で角度をえめる。口縁部 内外面ヨコナデ。底部外斜方向斜ナ デ。高台付貼り付け。ナデ。	白色粒子・石英粒・ チャート粒	×	良好	10 Y R 6/1 褐色	不明
6 S103	土器 群	蓋	胴部	5	—	—	(6, 9)	胴部外斜正格子目印き、内面青海波 紋。	白色粒子・石英粒・ チャート粒・雲母片	×	良好	2.5 Y R 6/1 黄色	不明	
7 2区 表土	土器 群	長指 蓋	胴部	5	—	—	(5, 5)	頭部及び胴部貼り付け。内外面ナデ。 外面に自然鉢。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・雲母片	×	良好	7.5 Y 4/1 灰色 輪: 5 Y 4/4 輪オリーブ色	不明 内面黒色付着 物。	
8 S108	土器 群	蓋	口縁部	15	(13, 0)	—	(2, 3)	口唇部平坦で口縁部大きく開く。内 外面ヨコナデ。外面に自然鉢。	白色粒子・石英粒	×	良好	10 Y R 7/1 灰白色 輪: 7.5 Y 5/3灰オリーブ色	不明	
9 2区 表土	土器 群	蓋	天井部 ～端部	70	(16, 3)	9.4	3.3	縦状跡を貼り付け。ナデ。天井部下 端をわざわざに折る。かえり・かえし なし。天井部内外面回転粘ナデ。縦部 内外面ヨコナデ。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・チャート粒・小颗粒	×	良好	10 Y R 6/2 灰黄色	不明	
10 2区 表土	土器 群	环	体部	10	—	—	(3, 2)	内墨坏。体部外斜回転ナデ。下旋横 方向手押ヒラカズリ。内面丁寧な ナデ後横方向ミガキ。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・チャート粒・雲母 片	○	良好	7.5 Y R 7/3 木葉下葉	— 体部外斜に取 説不明の墨 書。	
11 2区 表土	土器 群	环	体部	5	—	—	(1, 2)	内墨坏。体部外斜ナデ。内面丁寧な ナデ後横方向ミガキ。	白色粒子・黑色粒子・赤 色粒子・チャート粒	×	良好	7.5 Y R 7/4 木葉下葉	— 体部外斜に取 説不明の墨 書。	
12 2区 表土	土器 群	高台口縁部 付近～底部	85	12.3	6.4	3.9	内墨坏。体部底部を持ち。口縁部 内外面ヨコナデ。体部外斜方向斜ナデ。 内面丁寧なナデ後横及ヒラカズリ向 ミガキ。底部内面丁寧なナデ後一方向 ミガキ。底部外斜右回転へ切り離し 難未調査。高台部削り出し。	白色粒子・黑色粒子・石 英粒・チャート粒・雲母 片	○	良好	10 Y R 7/4 木葉下葉	—		

(4) 中世以降の遺構と遺物

本調査地点から検出された中世以降の遺構は、溝跡 1 条（第 1 号溝跡）、土坑 6 基（第 1 号から第 6 号土坑）、ピット 9 基（第 1 号から第 3 号ピット・第 6 号から第 9 号・第 12 号・第 13 号ピット）を数える。重複関係や覆土の状況から土坑は中世期、第 1 号溝跡やピットは近世以降と考えられるが、伴う遺物は出土していないため、本報告では一括して中世以降として報告する。遺物は表土から陶器の碗や瓦質土器の壺、寛水通寶などが 5 点、68.9g ときわめて低調である。以下から検出・出土した中世以降の遺構と主要な遺物について触れていくたい。

第 1 溝跡（第 64 図、写真図版 13）

2 区の西側、標高 32.14 m から 32.23 m 付近に第 2 号住居跡、第 4 号土坑に後続して位置する。調査区を北西から南の方向に走り、両端が調査区外に伸びるため、全容は不明である。確認部分の全長は 11.7 m、上幅 58 cm から 90 cm、下幅 36 cm から 58 cm、深さ 4 cm から 13 cm を測る。主軸方位は N - 65° - W を示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。底面はやや起伏をもつ。確認された範囲で底面の標高は概ね 32.1 m 前後を測る。土層は單一層であり、人為的埋没状況を示す。覆土には流水の痕跡は確認されず、本調査地点でも出土している住居跡カマド芯材と考えられる、破碎された凝灰岩片が多数混入する。遺物は出土していない。覆土の状況、重複関係や平坦な底面等より近世以降の区画溝であった可能性が高い。

第 1 号土坑（第 63 図、写真図版 14・15）

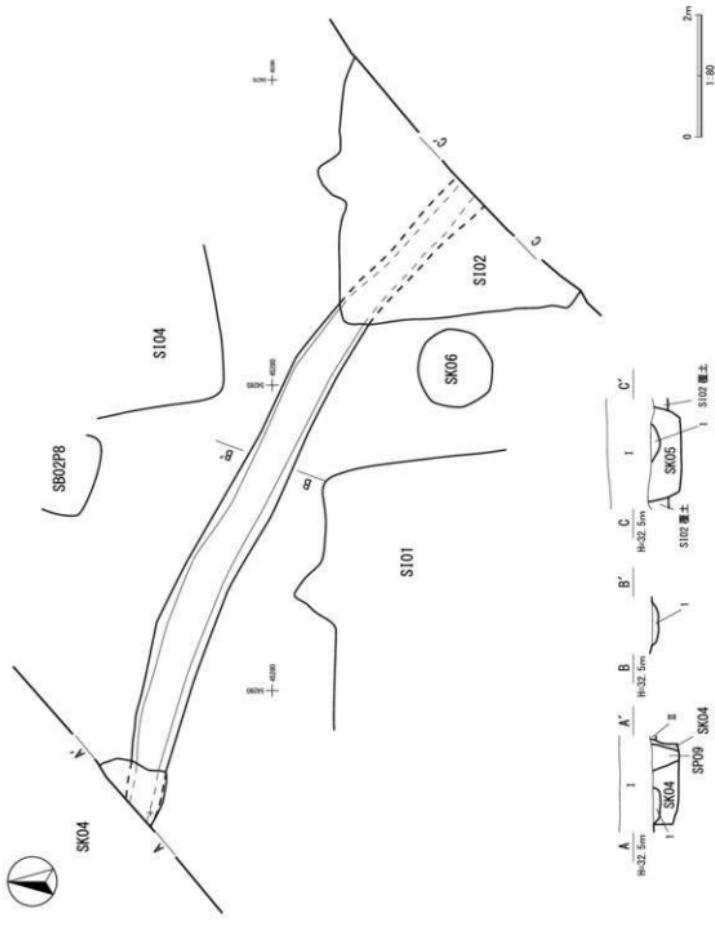
2 区の東側、標高 32.4 m 付近に単独で位置する。南東側 1/4 が調査区外あり、その部分は調査できなかった。平面形は推定不整円形、口径 129 cm、深さ 19 cm を測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。坑底はやや起伏をもつ。土層は 2 層に分かれ、人為的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。この土坑の他、第 2 号から第 6 号土坑の 6 基が、口径や深さの大小はあるものの、同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが、その性格は不明である。遺構の形状、覆土の状況より中世以降の所産であった可能性が高い。

第 64 図 第 1 号土坑



第 1 号土坑
1 10F02-3 黒褐色土層 和性をもち、緻まる。ローム粒子
を多量含む。
2 10F02-2 黒褐色土層 和性をもち、緻まる。ロームブロック
(φ 2cm)・ローム粒子を少量含む。

第65図 第1号溝跡



第1号溝跡 A ~ A'

1 IORY2/3 黒褐色土層 粘性をもち、やや緻密。ロームブロック（φ 1 cm）・ローム粒子を少量、凝灰岩片を微量含む。

第1号溝跡 B ~ B'

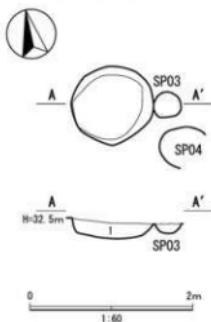
1 IORY2/3 黒褐色土層 粘性をもち、やや緻密。ロームブロック（φ 1 cm）・ローム粒子、凝灰岩片を少量含む。

第1号溝跡 C ~ C'

1 IORY3/4 暗褐色土層 粘性をもち、やや緻密。ローム粒子を少量含む。

第2号土坑（第65図、写真図版14）

第66図 第2号土坑



第2号土坑

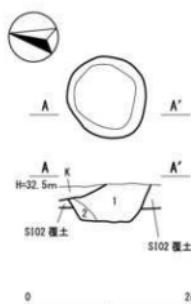
- 1 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、やや締まる。
ロームブロック（約1m）
・ローム粒子を少量含む。

2区の東側、標高32.4m付近に単独で位置する。平面形は円形で、口径97cm、深さ24cmを測る。断面形は筒状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は単一層で、人為的な埋没状況を示す。遺物は4点、31.4gが出土している。内訳は、土器が須恵器の壺類、土師器の高台付壺類である。しかし、すべて埋没時の混入した遺物と考えられ、細片のため図示することはできなかつた。この土坑の他、第1号や第3号から第6号土坑の6基が口径や深さの大小はあるものの、同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが、その性格は不明である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況より中世以降の所産であった可能性が高い。

第3号土坑（第66図、写真図版14）

第67図 第3号土坑

2区の中央部、標高32.2m付近に第9号・第14号住居跡に後続して位置する。平面形は円形で、口径97cm、深さ24cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。坑底は平坦である。土層は2層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。遺物は21点、409.0gが出土していく、すべて埋没時の混入した遺物と考えられる。内訳は、土器が須恵器の壺類・高台付壺類・甕壺類・鉢・蓋、土師器の甕壺類・瓶である。このうち須恵器の壺を1点図示することができたが、遺構と伴わない遺物であるため、第62図・第51表にて一括して言及している。この土坑の他、第1号・第2号や第4号から第6号土坑の6基が口径や深さの大小はあるものの、同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが、その性格は不明である。遺物は出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より中世以降の所産であった可能性が高い。

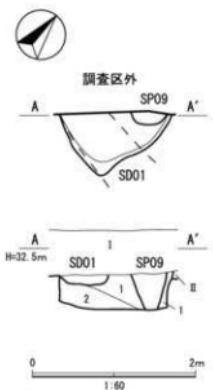


- 第3号土坑
1 10YR2/4 暗褐色土層 粘性をもち、やや締まる。
ローム粒子を少量含む。
2 10YR4/4 黄色土層 粘性をもち、やや締まる。
ローム粒子を多量に含む。

第4号土坑（第67図、写真図版14）

1区の西側、標高32.2m付近に第1号溝跡・第9号ピットに先行して位置する。北西侧1/2が調査区外であり、その部分は調査できなかつた。平面形は推定不整円形で、口径135cm、深さ34cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は2層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。遺物は出土していない。この土坑の他、第1号から第3号や第5号・第6号土坑の6基が口径や深さの大小はあるものの、同様な

第68図 第4号土坑



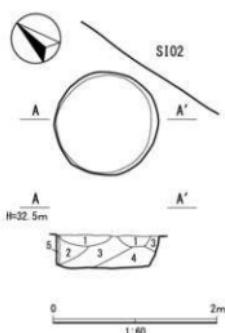
第4号土坑
1 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、締まる。
ローム粒子を少量含む。
2 10YR4/3に近い黄褐色土層 粘性をもち、締まる。
ローム粒子を少量含む。

することはできなかつた。この土坑の他、第1号から第4号や第6号土坑の6基が口径や深さの大小はあるものの、同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが、その性格は不明である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況、重複関係より中世以降の所産であった可能性が高い。

第6号土坑（第69図、写真図版14）

1区の南側、標高32.2m付近に単独で位置する。平面形は円形で、口径126cm、深さ41cmを測る。断面形は箱

第70図 第6号土坑

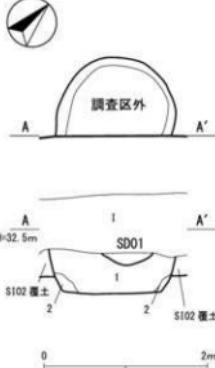


様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが、その性格は不明である。遺構の形状、覆土の状況、重複関係より中世以降の所産であった可能性が高い。

第5号土坑（第68図、写真図版14）

1区の南側、標高32.0m付近に第1号溝跡に先行、第2号住居跡に後続して位置する。南東側1/3が調査区外であり、その部分は調査できなかつた。平面形は推定不整円形で、口径145cm、深さ25cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁は急角度に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は2層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。遺物は8点、74.0gが出土している。内訳は、土器が須恵器の高台付壺類や蓋、土師器の甕壺類である。すべて埋没時の混入した遺物と考えられ、細片のため図示

第69図 第5号土坑



第5号土坑
1 10YR4/4褐色土層 粘性をもち、締まる。
ローム粒子を少量含む。
2 10YR4/3に近い黄褐色土層 粘性をもち、締まる。
ロームブロック(Φ1cm)・ローム粒子を少量含む。

状を呈し、壁は垂直に立ち上がる。坑底は平坦である。土層は5層に分けられ、人為的な埋没状況を示す。遺物は1点、18.9gが出土している。内訳は、土師器の甕壺類である。埋没時の混入した遺物と考えられ、細片のため図示することはできなかつた。この土坑の他、第1号から第5号土坑の6基が口径や深さの大小はあるものの、同様な様相をもつ。同一性格の遺構群と考えられるが、その性格は不明である。出土遺物や遺構の形状、覆土の状況より中世以降の所産であった可能性が高い。

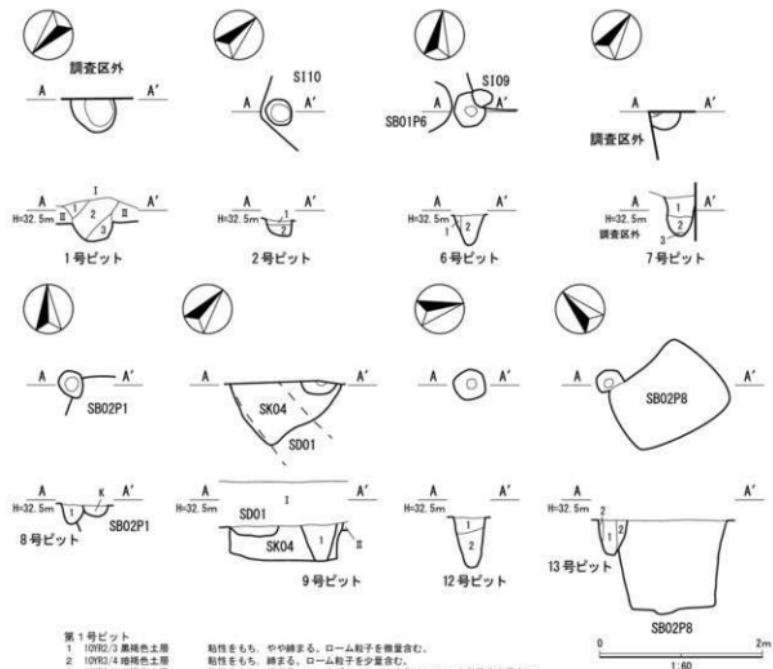
第6号土坑

- | | |
|-------------------|--|
| 1 10YR3/4褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量含む。 |
| 2 10YR3/4褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック(Φ1cm)・ローム粒子を多量含む。黒色土を少量含む。 |
| 3 10YR3/4褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。ロームブロック(Φ1cm)・ローム粒子を多量含む。 |
| 4 10YR3/3褐色土層 | 粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を少量。ロームブロック(Φ2cm)を微量含む。 |
| 5 10YR4/3に近い黄褐色土層 | 粘性をもち、やや締まりに欠ける。ロームブロック(Φ2cm)・ローム粒子を多量に含む。 |

中世以降のピット（第70図、第52表）

検出されたピットは8基を数える。分布に偏在は見られず、覆土の状況などからも、その性格は不明と言わざるを得ない。ここでは個々に対しての説明を加えずに、断面図および第52表の属性一覧で説明に代えさせていただきたい。

第71図 中世以降のピット



第1号ピット

- 1 10YR2/3 黒褐色土層
- 2 10YR2/4 暗褐色土層
- 3 10YR3/4 増褐色土層

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を少量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。

第2号ピット

- 1 10YR2/3 黒褐色土層
- 2 10YR4/4 増褐色土層

粘性をもつが、締まりに欠ける。ローム粒子を少量含む。

粘性をもち、締まる。ロームブロック（φ 2cm）・ローム粒子を少量含む。

第6号ピット

- 1 10YR2/3 暗褐色土層
- 2 10YR2/3 黒褐色土層

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量含む。

粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 2cm）・ローム粒子を少量含む。

第7号ピット

- 1 10YR2/3 黒褐色土層
- 2 10YR2/3 暗褐色土層
- 3 10YR2/3 黒褐色土層

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量含む。

粘性をもち、やや締まる。ロームブロック（φ 2cm）・ローム粒子を少量含む。

第8号ピット

- 1 10YR2/3 黒褐色土層
- 2 10YR2/3 暗褐色土層

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を微量含む。

第9号ピット

- 1 10YR2/3 暗褐色土層

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

第12号ピット

- 1 10YR2/3 黒褐色土層
- 2 10YR2/3 黑褐色土層

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

粘性をもち、やや締まる。ローム粒子を微量含む。

第13号ピット

- 1 10YR2/3 黑褐色土層
- 2 10YR3/4 増褐色土層

粘性をもつが、やや締まりに欠ける。ローム粒子を微量含む。

粘性をもち、締まる。ローム粒子を多量含む。

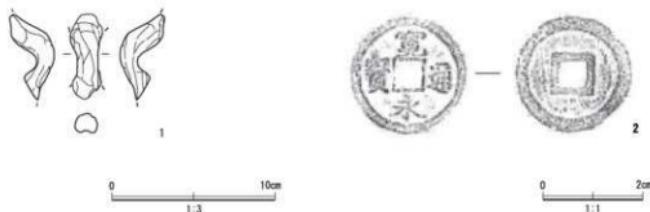
第52表 中世以降のピット属性一覧

ピット番号	位置	平面 形態	断面 形態	規模			壁立ち 上がり	底面状況	柱痕			埋没状況	性格	重複関係	出土 遺物	備考
				直径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)			直徑ア ラリ痕	半周形 アタリ痕	断面 柱痕					
1号ピット	2区東側	楕円形	筒状	(42)	90	22	急角度	平坦	—	—	—	自然埋没	不明	—	無し	南東側1/5が 調査区外
2号ピット	2区北側	円形	筒状	31	—	22	急角度	起伏に富む	—	—	—	人為埋没	不明	第10号は同 時に後続	無し	
6号ピット	2区中央 面や西面	円形	断面 断続	42	—	36	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	人為埋没	不明	第9号は同 時に後続	無し	
7号ピット	2区東側	推定 円形	筒状	76	—	45	垂直	不明	1.6	不明	有り	人為埋没	—	—	無し	南側1/2が 調査区外 テストピット 断面で検出
8号ピット	1区北側	楕円形	筒状	36	—	27	緩やか	丸味を帯びる	—	—	—	人為埋没	不明	第2号は同 建物跡1号ビ ットに後続	無し	
9号ピット	1区西側	推定 円形	断面 形状	44	—	36	急角度	不明	—	—	—	人為埋没	不明	第4号は同 時に後続	無し	北側2/3が 調査区外
12号ピット	1区東側	円形	筒状	37	—	58	急角度	丸味を帯びる	—	—	—	人為埋没	不明	—	無し	
13号ピット	1区東側	楕円形	筒状	31	25	48	垂直	丸味を帯びる	—	—	—	人為埋没	—	—	無し	第2号は同 建物跡8号ビ ットに後続

中世以降の遺構外出土遺物（第71図、第53・54表、写真図版32）

当該期の遺構から、前述したとおり、伴う遺物は出土していないため、表土からの出土した代表的な2点の遺物を図示して、説明を加える。1は瓦質土器の蓋把手部分である。2は初鉄1636年の古寛永通寶である。

第72図 中世以降の遺構外出土遺物



第53表 中世以降出土土器属性一覧

図版 番号	出土地 点	層位	種別	番号	部位	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	特徴・手法			胎土	海綿 骨針	焼成 度	色調	焼成 窓	備考
1	1区	表土 上部	土器	把手	5	(5.2)	(2.7)	(2.0)	全面、ヘクサ工具で成形後ナデ整形	白色粒子・石英粒	×	良好	10 YR 4/1	褐色	—			

第54表 中世以降出土銅製品属性一覧

図版 番号	出土地 点	層位	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴・手法			備考
2	1区	表土	銅製品	銅貨	2.4	2.4	0.12	2.8	古寛永。初鉄年1636年。			

第55表 渡里町遺跡第22地点出土遺物計量表（1）

出土地点	第1号遺物		第2号遺物		第3号遺物		第4号遺物		第5号遺物		第6号遺物		第7号遺物		第8号遺物		第9号遺物		第10号遺物		第11号遺物		第12号遺物	
	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)	品目	数	重さ(g)
手工具	石斧	1	35.0																					
	石刀	1	16.1																					
	石器	1	16.3																					
	石器	1	16.3																					
手工具	石斧	4	40.4		3	41.8		1	12.1		4	40.8		2	21.5		4	10.2		1	14.6		1	12.8
	石刀	4	40.6		3	41.9		1	12.7		2	21.7		1	10.2		1	14.6		1	12.8		1	12.7
	石器	4	40.6		3	41.9		1	12.7		2	21.7		1	10.2		1	14.6		1	12.7		1	12.7
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4																					
	石器	1	16.4																					
手工具	石斧	1	35.4																					
	石刀	1	16.4</td																					

第 56 表 濱里町遺跡第 22 地点出土遺物計量表 (2)

第4章 総括

渡里町遺跡は水戸市の北西に位置し、那珂川の西側の台地上標高32m～33m程に立地し、崖線より西に130mほど入った地点である。今回の調査地点は渡里町遺跡内の北部に位置する。その北には古代の台渡里廃寺や那賀郡衙、中世の長者山城が存在していた地域が存在し、南東1.6kmには県内有数の規模を持つ愛宕山古墳が存在する。このように古くから大きく発展していたと考えられる地域である。

現状ではこの地域は畠地と宅地が混在していて、往時の面影を偲ぶことは出来ないが、過去の発掘調査報告を紐解いてみると、その一端に触れることが出来る。

過去に行われた発掘調査において、縄文時代から近世以降までの遺構や遺物が数多く検出され、特に、奈良・平安時代の遺構や遺物が台渡里廃寺や那賀郡衙との関係で数多く検出されていることが特徴の一つとなっている。

今回の発掘調査では、過去に行われた渡里町遺跡第5次調査において、奈良・平安時代の住居跡が確認されているため、その時期の集落が今回の調査地点にも広がっていることが想定され、その集落の時期や範囲を確認することが目的の一つである。

以上のことより住居跡が検出されることは想定できたが、発掘調査の結果、時代では縄文時代から近・現代まで、遺構は住居跡14軒、掘立柱建物跡2棟、ピット列1条、溝跡1条、土坑7基、ピット14基、遺物は4,479点、約118kgと、約378m²の調査区に比して数多くの遺構・遺物が検出・出土している。

第3章で言及しているが、今回の発掘調査では建物建設位置にあたる、北東側と西側の2ヶ所に調査区が設定され、それぞれ東側を1区、西側を2区と呼称している。

以下時代順に若干の考察をしていくが、その際、遺構や遺物の詳細は第3章で確認していただきたい。

(1) 縄文時代

遺構は1区の北東側から土坑が1基とピットが3基纏まって検出されているが、遺構からの遺物の出土は無く、時代の決定は覆土の状況に依るものである。限定された部分での検出のため、本調査地点での当該期における遺構の分布ははっきりしない。

遺物は土器が早期稻荷原式期、前期黒浜式期、浮島式期、中期阿玉台式期、加曾利E式期の深鉢が出土しているが、その中心は加曾利E式期の土器で、出土縄文土器の過半を占める。石器は打製石斧、磨石・敲石、軽石などが確認されているがごく少量である。

本調査地点の南東側120mほどの位置に縄文時代中期の土坑群などが多数検出されていること、本調査地点東側の第5地点の発掘調査において縄文時代の遺構や遺物が主体的に確認されていないことなどを考えると、本調査地点付近には縄文時代の集落が主体的に展開していなかったと考えられる。

(2) 弥生時代

遺構は検出されていない。遺物は後期十王台式期の甕・壺類片が少量出土しているに過ぎ

ぎない。この傾向は渡里町遺跡第5地点における当該期の傾向と同様であり、本調査地点や第5地点の東側に位置する、水戸市教育委員会で行われた第12地点第2次の調査で当該期の住居跡などが検出されていることから、第5地点と第12地点第2次との間で当該期における集落の西端が位置すると考えられる。

(3) 古墳時代から平安時代

本調査地点から検出された当該期の遺構は住居跡が14軒（第1号から第14号住居跡）、掘立柱建物跡が2棟（第1号・第2号掘立柱建物跡）、ピット列1条（第1号ピット列）、ピットが4基（第4号・第5号・第14号・第15号ピット）と今回の発掘調査で検出された遺構の中心を占める。

出土した当該期の遺物は約4400点で約94kgが出土している。出土遺物全体における当該期遺物の割合は点数が98%、重量は79%とほかの時期に比べ圧倒的な量を占める。過半が住居跡からの出土だが、検出された住居跡範囲の問題もあるが、住居跡あたりの出土量は3点から1689点と大きな幅をもっている。種別は須恵器や土師器、灰釉陶器、土製品、石製品、鉄製品、瓦であり、器種は壺類や高台付壺類、盤、高盤、皿、高台付皿、壺、長頸壺、甕、高壺、鉢、蓋、円面硯、石製支脚、砥石、芯材、釘、刀子、楔状製品、ミニチュア鉢、軒丸瓦、平瓦、丸瓦などである。

まず14軒の住居跡の時期であるが、古墳時代後期である7世紀後葉から8世紀前葉が1軒（第8号住居跡）、奈良時代である8世紀前葉から中葉が1軒（第13号住居跡）、平安時代である9世紀前葉が9軒（第1号から第5号・第7号・第10号・第11号・第14号住居跡）、9世紀後葉から10世紀前葉が1軒（第12号住居）、10世紀前葉が1軒（第9号住居跡）、出土遺物が少なく、時期がはつきりしないが9世紀代と考えられるのが1軒（第6号住居跡）である。調査区の制約で第4・9・13・14号住居跡以外は、全容を確認することはできなかった。これら住居跡の特徴を挙げていくと、位置的な分布に極端な偏りは見られないが、時期的には9世紀前葉において数的なピークを迎えること、2区の住居跡は重複が激しく、単独で位置する1区と比較すると異なる様相を呈すること、主軸方位は古墳時代から奈良時代はN-11°から21°-Eと東向きを示し、平安時代はN-2°から20°-Wと西向きを示す傾向が伺えること、カマドは8基検出されているが、すべて北カマドで北壁中央部に設置していること、等が挙げられる。

第1号掘立柱建物跡および第4号・第5号ピットは2区東側から南側に纏まって位置する。第1号掘立柱建物跡の主軸方位は9世紀以降の住居跡と同様な傾向をもち、重複関係より10世紀前葉以降と判断できたことを裏付ける。また、ピットの配列から考えると、建物跡の東西側はピットが確認できず、礎石が存在していた可能性があるが、その痕跡は確認できていない。

第1号ピット列は、第1号掘立柱建物跡の南側に重複するように位置して、3基のピットで構成されるが、掘立柱建物跡の北側柱穴の可能性を持つ。主軸方位は掘立柱建物跡を考えると第1号掘立柱建物跡と若干異なるが、近似値を示している。第1号掘立柱建物跡および第1号ピット列は調査区の制約でその全容は確認できなかったため、範囲や性格まで確認することはできなかった。また、第4号・第5号ピットは第1号掘立柱建物跡や第

1号ピット列を構成するピットと類似点が多く、同時期の所産と考えている。

第2号掘立柱建物跡および第14号・第15号ピットは1区北側から東側に纏まって位置する。第2号掘立柱建物跡は側柱建物跡で、主軸方位は8世紀頃の住居跡と同様な傾向をもち、重複関係より8世紀以前と判断できたことを裏付ける。第1号掘立柱建物跡と異なり、ピットは基本的に大型の方形プランを呈し、100cmを超える深さをもつ。また、掘り方がロームブロックを主体とする層と黒色土の主体の層の互層となるピットが3基確認されたことなどから、一般的な掘立柱建物跡とは異なる様相を示している。出土遺物は須恵器や土師器、瓦などの細片が少量出土しているのみで、遺物から時期の特定は追うことが困難であるが、少なくとも、ピットの掘り方にナデ調整の丸瓦が混入する時期に造られていることが確認できた。また、瓦の出土量から純瓦葺以外の屋根で造営されていたと考えられる。第14号・第15号ピットは、第2号掘立柱建物跡を構成するピットと法量などが類似することから、第2号掘立柱建物跡と同様の掘立柱建物跡を構成するピットの一部と考えられる。

遺物は大半が住居跡から出土した、日常的に使用されていたと考えられる壺や甕などであるが、複数の刀子が出土した第3号住居跡、円面鏡や長頸壺、複数の刀子が出土した第9号住居跡、円面鏡の骯脚部が出土した第10号住居跡など、住居跡の性格を想定できる遺物も出土している。また、ごく少量だが灰釉陶器が出土している。須恵器の焼成窯は大半が木葉下窯跡群産であり、少量新治窯跡群産が混入するというこの時期において一般的な傾向を示している。

文字資料としては、ヘラ書きや墨書き土器が出土している。破片数でヘラ書き土器は須恵器の壺を中心に78点、墨書き土器は土師器の壺を中心に7点を数える。出土地点は偏在していて、遺構出土のヘラ書き土器は第9号・第10号住居跡から、過半の53点出土している。また、墨書き土器は第9号および第10号住居跡からのみの出土である。ヘラ書き土器のすべてを図示することはできなかったが、大半は釈読不明の記号状ヘラ書きで、大多数は須恵器壺や盤などの底部外面に施されるが、第9号住居跡の9は須恵器壺の体部内面に、8は須恵器壺の体部外面にヘラ書きが施されている。この体部に施された3点は底部外面に施されたヘラ書きと使用目的が異なる可能性を持つが、破片の出土のため、その意味は不明である。また、第7号住居跡の3は唯一土師器の壺底部外面に満巻き状のヘラ書きが施されている。釈読が可能であった個体は少なく、5点のみである。前述した満巻き状のヘラ書きが1点、「|」字状が3点、「十」字状が1点を数える。どれも、本調査地点近隣から出土しているヘラ書き土器と同様の文字種である。墨書き土器はすべて土師器の壺体部外面に施され、釈読可能であった個体は第9号住居跡の27のみである。「枚口」銘で、文字は横方向に書かれる。この「枚」は台渡里遺跡第39次調査で出土した須恵器蓋の「枚」と筆の運びや払いの癖など類似点が多く、同一人物の手によるもの可能性を持つ。また、この「枚口」も台渡里第39次調査と同様に地名の可能性が高い。しかし、その他の部分は確認できず、その意味などは不明である。

(4) 中世以降

本調査地点から検出された中世以降の遺構は、溝跡1条、土坑6基、ピット11基である。遺物は表土から陶器の碗や瓦質土器の壺、寛永通寶など5点、68.9gが出土している。時

期は土坑が中世期、第1号溝跡やピットは近世以降であるが、遺物が出土していないため、覆土の状況や遺構の重複関係からの判断である。

土坑はどれも円形プランをもち、径約1.0mを測る。茨城県内では、この形状の土坑は数多く検出されているが、その性格などは不明である。また、第1号溝跡は流水の痕跡もなく、概ね現在の地割に沿った主軸方位を示すことから、根切り溝や区画溝であろう。また、ピットは規則的な配列は確認できなかつたため、その性格まで追うことはできなかつた。

(5)まとめ

以上のことより、今回の調査では調査区の範囲など制約が多かつたにもかかわらず、多数の成果が確認された。縄文時代や弥生時代、中世以降は集落や土地利用の状況が確認できたことが、成果の一つとなるが、古墳時代から平安時代は今後の渡里町遺跡やその周辺遺跡を考えるうえで、大きな成果を得ることができた。

当該地の古墳時代から平安時代は北側約800mの位置に分布する台渡里官衙遺跡群や台渡里廃寺が営まれた時期にあたり、それら遺構群との関連性は避けは通れず、それらの成立時期と考えられる7世紀後葉の住居跡や、その最盛期である9世紀の住居跡が数的なピークとして検出されていることは、本地点の集落成立時期や隆盛時期と、それらの遺構群との成立時期や隆盛時期と軌道を一としている集落であることが明確となつた。なおかつ、第3号や第9号、第10号住居跡から出土した円面鏡や長頸壺、刀子、偏在するヘラ書きや墨書き土器などは、寺院や官衙遺跡などを強く示唆する遺物であり、「枚口」銘の墨書き土器を代表されるように、台渡里官衙遺跡群や台渡里廃寺と密接に関連している集落といえる。また、その集落を構成する住居跡は本調査地点の東側である第5地点などからも検出されていて、今回集落の範囲を明確にはできなかつたが、限定的な範囲ではなく、ある程度の拡がりをもつ集落であった可能性を指摘することができた。

また、2棟の掘立柱建物跡、特に第2号掘立柱建物跡や第14号・第15号ピットは、本調査区の制約で、全体の様相が確認できなかつたが、台渡里官衙遺跡群長者山地区から検出されている掘立柱建物跡が4×4間や4×8間の総柱建物を基本としており、今回検出されたような5×4間以上の側柱建物は類例が少ないと、この第2号掘立柱建物跡は主軸方位が台渡里官衙遺跡群の掘立柱建物跡より西に振れていることなどから、現在想定される正倉院城がこの北西付近まで拡がりをもつていて、正倉院とは別性格の建物の可能性が高い。このような建物跡が、本地点周辺にある程度の拡がりをもつて分布する可能性を初めて指摘することができた。また、第1号掘立柱建物跡や第4号・第5号ピットも台渡里官衙遺跡群や台渡里廃寺が衰退に向かう時期における、周辺集落における景観復元の一助となる史料である。

本地点で検出された第2号掘立柱建物跡や同時期のピットの分布や性格の確認、その周辺の集落との関連などが今後の当該地における土地利用の変遷や性格、台渡里官衙遺跡群の拡がりを確定するうえで、重要な課題の一つとなるであろう。(林・山下)

参考文献

- 赤井 博之 1998 「古代常陸国新治塚群の基礎的研究(Ⅰ)『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会
- 浅井哲也 1991 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅰ)『貢研究ノート』1号 貢田法人茨城県教育財团
- 1992 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅱ)『貢研究ノート』2号 貢田法人茨城県教育財团
- 渥美賀吾 2005 「木葉下塚群における須恵器生産の変化と両面」『筑波大学先史学・考古学研究』第16号 筑波大学人文社会学研究科 歴史・人類学専攻
- 井 博幸・小宮山達雄 1999 「第7章 内原町周辺的主要古墳と出土遺物」『牛伏4号墳の調査』 国士館大学・牛伏4号墳調査班
- 伊東重敏 1975 『常陸考古学研究所報第16集 Site No.6181 水戸地方における古代需業の研究(その2)水戸市田谷廢寺跡出土古瓦難考』 常陸考古学研究所
- 伊藤廉信 1995 「茨城県水戸市 墓道跡・住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一」水戸市教育委員会
- 井上義安編 1992 「水戸市アラヤ遺跡 北部地区老人福祉センター・ダイサービスセンター建設に伴う文化財の調査報告書」水戸市アラヤ遺跡発掘調査会
- 井上義安・栗原芳子 1996 「水戸市台渡里廻寺跡 共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」水戸市教育委員会・空間計画工房
- 井上義安・千葉隆司 1995 「水戸市台渡里廻寺跡 都市計画道路3・6・30号線埋蔵文化財発掘調査報告書」水戸市台渡里廻寺跡発掘調査会
- 井上義安・千葉隆司 1995 「水戸市塙道跡 塙町住宅用地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」水戸市塙道跡発掘調査会・裡村行実
- 井上義安・夢沼幸由 1998 「水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版」水戸市教育委員会
・仁平妙子・松木裕子
- 茨城県教育委員会 2000 『茨城県遺跡地図』
- 茨城大学考古学研究会 1976 『茨城大学周辺跡群分布調査報告書目録』
- 江幡良夫・吹野富美夫 1998 「水戸市軍人坂遺跡出土の埴輪」『常陸台地』第14号 常陸台地研究会
- 小川和博・大庭淳志 2006 『台渡里遺跡 一集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
・川口武彦・松谷栄子
- 大森信英 1952a 「渡里村大字塙字西原四号地下式壙」『茨城高等学校史学部紀要』第一号 茨城高等学校史学部
1952b 「渡里村大字塙字西原の地下式壙」『茨城高等学校史学部紀要』第一号 茨城高等学校史学部
1952c 「渡里村大字流里字アラヤ遺跡」『埋蔵文化財発掘調査に於ける報告』『茨城高等学校史学部紀要』第一号 茨城高等学校史学部
1974 「⑥ 桜現山下横穴群」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 茨城県
- 大船 淳 1991 「研究ノート 大瓦の製作技術」『奈良國立文化財研究所学報第49号 研究論集IX』奈良國立文化財研究所
- 大橋 生・佐々木藤雄 2006 『台渡里廻寺跡一帯道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)一』水戸市教育委員会
・川口武彦・林 弥送
・渥美賀吾

写 真 図 版

図版 1



1区調査区完掘 北より



2区調査区完掘 南より

図版2



第1号住居跡完掘 南東より



第1号住居跡土層断面A～A' 東より



第1号住居跡土層断面B～B' 北東より



第1号住居跡カマド完掘 南より



第1号住居跡カマド土層断面C～C' 東より



第1号住居跡カマド土層断面D～D' 南より



第2号住居跡完掘および土層断面B～B' 北より



第2号住居跡土層断面A～A' 西より

図版3



第2号住居跡カマド完掘 南より



第2号住居跡カマド土層断面C~C' 西より



第2号住居跡カマド土層断面D~D' 南より



第3号住居跡完掘 東より



第3号住居跡土層断面A~A' 東より



第3号住居跡土層断面B~B' 北東より



第4号住居跡完掘 南東より



第4号住居跡土層断面A~A' 西より

図版4



第4号住居跡土層断面B～B' 南より



第4号住居跡カマド完掘 南より



第4号住居跡カマド土層断面C～C' 西より



第4号住居跡カマド土層断面D～D' 南より



第5号住居跡完掘および土層断面A～A' 南西より



第5号住居跡土層断面B～B' 南東より



第6号住居跡完掘および土層断面 北東より



第7号住居跡完掘 南より

図版 5



第3・7号住居跡遺物出土状況 南東より



第7号住居跡カマド完掘 南より



第7号住居跡カマド土層断面C～C' 南より



第7号住居跡カマド土断面層D～D' 東より



第7号住居跡カマド遺物出土状況 南より



第8号住居跡完掘 南東より



第8号住居跡土層断面A～A' 南西より



第8号住居跡土層断面B～B' 南東より

図版6



第9号住居跡完掘 南より



第9号住居跡土層断面A~A' 東より



第9号住居跡土層断面B~B' 南より



第9号住居跡南西側遺物出土状況 北より



第9号住居跡北東側遺物出土状況 南より



第9号住居跡長頸壺出土状況 北より



第9号住居跡カマド完掘 南より



第9号住居跡カマド土層断面C~C' 西より

図版 7



第9号住居跡カマド土層断面D～D' 南より



第9号住居跡カマド土層断面E～E' 南より



第9号住居跡 1号土坑完掘 東より



第10・11号住居跡完掘 南西より



第10号住居跡土層断面A～A' 北東より



第10・11号住居跡土層断面B～B' 南より



第11号住居跡土層断面A～A' 南西より



第11号住居跡土層断面B～B' 南西より

図版8



第12号住居跡完掘 北より



第12号住居跡土層断面A～A' 西より



第12号住居跡土層断面B～B' 北より



第12号住居跡遺物出土状況 北より



第12号住居跡カマド完掘 南より



第12号住居跡カマド土層断面C～C' 西より



第12号住居跡カマド土層断面D～D' 南より



第12号住居跡カマド土層断面E～E' 南より

図版9



第13号住居跡完掘 南西より



第13号住居跡土層断面A～A' 北西より



第13号住居跡土層断面B～B' 南西より



第13号住居跡カマド完掘 南西より



第13号住居跡カマド土層断面C～C' 北西より



第13号住居跡カマド土層断面D～D' 南西より



第14号住居跡完掘 南より



第14号住居跡土層断面A～A' 西より

図版 10



第14号住居跡土層断面B～B' 南東より



第14号住居跡カマド完掘 南より



第14号住居跡カマド土層断面C～C' 東より



第14号住居跡カマド土層断面D～D' 南より



第14号住居跡カマド土層断面E～E' 南より



第1号掘立柱建物跡完掘 西より



第1号掘立柱建物跡5号ピット完掘 北より



第1号掘立柱建物跡5号ピット土層断面 北より

図版 11



第1号掘立柱建物跡 6号ピット完掘 北より



第1号掘立柱建物跡 7号ピット完掘 南西より



第1号掘立柱建物跡 8号ピット完掘 南西より



第1号掘立柱建物跡 8号ピット土層断面 南西より



第2号掘立柱建物跡完掘 南より



第2号掘立柱建物跡完掘 西より



第2号掘立柱建物跡 1号ピット完掘 北西より



第2号掘立柱建物跡 1号ピット土層断面 西より

図版 12



第2号掘立柱建物跡 2号ピット完掘 北西より



第2号掘立柱建物跡 2号ピット土層断面 南より



第2号掘立柱建物跡 3号ピット完掘及び土層断面
北西より



第2号掘立柱建物跡 4号ピット完掘 南より



第2号掘立柱建物跡 4号ピット土層断面 南より



第2号掘立柱建物跡 5号ピット完掘 南より



第2号掘立柱建物跡 5号ピット土層断面 東より



第2号掘立柱建物跡 6号ピット完掘 南より

図版 13



第2号掘立柱建物跡 7号ピット完掘 南より



第2号掘立柱建物跡 7号ピット土層断面 南より



第2号掘立柱建物跡 8号ピット・第13号ピット完掘
西より



第2号掘立柱建物跡 8号ピット・第13号ピット土層
断面 南西より



第1号ピット列完掘 南西より



第1号ピット列 1号ピット完掘 北西より



第1号ピット列 3号ピット完掘 南より



第1号溝跡完掘 東より

図版 14



第1号土坑完掘 北西より



第2号土坑・第3号ピット完掘 北より



第3号土坑完掘 北西より



第4号土坑完掘及び土層断面 南東より



第5号土坑完掘及び土層断面 北西より



第6号土坑完掘 南西より



第7号土坑・第10号ピット完掘 北より



第4号ピット完掘 北より

図版 15



第5号ピット完掘 南西より



第14号ピット完掘及び土層断面 南西より



第15号ピット完掘 南西より



第15号ピット土層断面 南西より



1区基本土層A～A' 東より



1区基本土層B～B' 南より



2区基本土層A～A' 西より



2区基本土層B～B' 北より

図版 16



縄文時代遺構外出土遺物 1 ~ 6



縄文時代遺構外出土遺物 - 8



縄文時代遺構外出土遺物 - 7



弥生時代出土遺物 1 ~ 4



第 1 号住居跡出土遺物 - 1



第 1 号住居跡出土遺物 - 2

图版 17



第 1 号住居跡出土遺物－3



第 1 号住居跡出土遺物－4



第 1 号住居跡出土遺物－5



第 2 号住居跡出土遺物－1



第 2 号住居跡出土遺物－2 A



第 2 号住居跡出土遺物－2 B



第 2 号住居跡出土遺物－3



第 2 号住居跡出土遺物－4

图版 18



第 2 号住居跡出土遺物—5



第 3 号住居跡出土遺物—1



第 3 号住居跡出土遺物—2



第 2 号住居跡出土遺物—6



第 4 号住居跡出土遺物—1



第 4 号住居跡出土遺物—2



第 4 号住居跡出土遺物—3

图版 19



第 4 号住居跡出土遺物 - 4



第 4 号住居跡出土遺物 - 5



第 4 号住居跡出土遺物 - 6



第 4 号住居跡出土遺物 - 7



第 4 号住居跡出土遺物 - 8



第 4 号住居跡出土遺物 - 9



第 5 号住居跡出土遺物 - 1

图版 20



第 7 号住居跡出土遺物 - 1



第 7 号住居跡出土遺物 - 2



第 7 号住居跡出土遺物 - 3



第 7 号住居跡出土遺物 - 4



第 7 号住居跡出土遺物 - 5



第 7 号住居跡出土遺物 - 7



第 7 号住居跡出土遺物 - 6

图版 21



第 8 号住居跡出土遺物－1



第 8 号住居跡出土遺物－2



第 8 号住居跡出土遺物－3



第 8 号住居跡出土遺物－5



第 8 号住居跡出土遺物－4



第 9 号住居跡出土遺物－1



第 9 号住居跡出土遺物－2

图版 22



第9号住居跡出土遺物－3



第9号住居跡出土遺物－4



第9号住居跡出土遺物－5



第9号住居跡出土遺物－6



第9号住居跡出土遺物－7



第9号住居跡出土遺物－8



第9号住居跡出土遺物－9



第9号住居跡出土遺物－10

図版 23



第9号住居跡出土遺物-11



第9号住居跡出土遺物-12



第9号住居跡出土遺物-13



第9号住居跡出土遺物-14



第9号住居跡出土遺物-15



第9号住居跡出土遺物-16



第9号住居跡出土遺物-17

图版 24



第9号住居跡出土遺物-18



第9号住居跡出土遺物-19



第9号住居跡出土遺物-20



第9号住居跡出土遺物-21



第9号住居跡出土遺物-22



第9号住居跡出土遺物-23



第9号住居跡出土遺物-24



第9号住居跡出土遺物-25

图版 25



第9号住居跡出土遺物-26



第9号住居跡出土遺物-27



第9号住居跡出土遺物-28



第9号住居跡出土遺物-29



第9号住居跡出土遺物-30



第9号住居跡出土遺物-31



第9号住居跡出土遺物-32



第9号住居跡出土遺物-33

図版 26



第9号住居跡出土遺物-34A



第9号住居跡出土遺物-34B



第9号住居跡出土遺物-35



第9号住居跡出土遺物-36



第9号住居跡出土遺物-37



第10号住居跡出土遺物-1



第10号住居跡出土遺物-2



第10号住居跡出土遺物-3

図版 27



第10号住居跡出土遺物－4



第10号住居跡出土遺物－5



第10号住居跡出土遺物－6



第10号住居跡出土遺物－7



第10号住居跡出土遺物－8



第10号住居跡出土遺物－9



第10号住居跡出土遺物－10



第10号住居跡出土遺物－11

图版 28



第10号住居跡出土遺物-12



第11号住居跡出土遺物-1



第11号住居跡出土遺物-2



第11号住居跡出土遺物-3



第11号住居跡出土遺物-4



第12号住居跡出土遺物-1



第12号住居跡出土遺物-2

图版 29



第12号住居跡出土遺物－3



第12号住居跡出土遺物－4



第12号住居跡出土遺物－5



第12号住居跡出土遺物－6



第12号住居跡出土遺物－7



第12号住居跡出土遺物－8



第13号住居跡出土遺物－1



第13号住居跡出土遺物－2

图版 30



第13号住居跡出土遺物－3



第13号住居跡出土遺物－4



第13号住居跡出土遺物－5



第13号住居跡出土遺物－6



第14号住居跡出土遺物－1



第14号住居跡出土遺物－2



第14号住居跡出土遺物－3



第14号住居跡出土遺物－4

図版 31



第 1 号掘立柱建物跡出土遺物－1



第 2 号掘立柱建物跡出土遺物－1



第 2 号掘立柱建物跡出土遺物－2 A



第 2 号掘立柱建物跡出土遺物－2 B



第 4 号ピット出土遺物－1



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－1



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－2



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－3

図版 32



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－4 A



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－4 B



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－5



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－6



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－7



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－8



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－9



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－10

図版 33



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－11



古墳時代～平安時代遺構外出土遺物－12



中世時代以降遺構外出土遺物－1



中世時代以降遺構外出土遺物－2

報 告 書 抄 錄

ふりがな	わたりちよういせき(だいにじゅうにちてん)							
書名	渡里町遺跡（第22地点）							
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第74集							
編集者名	米川暢敬・林 邦雄・山下瑛梨香・石松 直							
著者名	米川暢敬・林 邦雄・山下瑛梨香・石松 直							
編集機関	水戸市教育委員会							
所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎ 029-224-1111							
発行年月日	2016(平成28)年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	遺跡 番号	北緯 度	東經 度	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
渡里町遺跡	水戸市渡里町295-1・-5から-7の各一部地番地内	201	121	36°26'19"	140°26'19"	2015.8.25 ～ 2015.9.31	379.693 m ²	集合住宅建設 に伴う工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
渡里町遺跡	集落跡	縄文時代	土坑1基、ピット3基			土器、石器	今回の調査では、縄文時代から近世以降の遺構や遺物が調査区の大ささに比して、多量に検出・出土した。特に古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡が14軒、掘立柱建物跡が2棟検出されている。住居跡は分布の状況などから、古墳周辺寺や那賀郡衙の周辺敷地の一部と考えられる。また、9号住居跡などから刀子や円鏡、長頭歌などが出土していることから、他の住居跡とは様相が異なる住居跡も存在して、注目される。また、調査区の東側から約1.5×1.0 mの掘り方をもつピットが検出され、大型の掘立柱建物跡を構成している。遺物などは多く少量の出土で、その性格ははっきりしないが、法量やピットの分布範囲などから、近隣で検出されている那賀郡衙正倉院とは異なる性格と考えられる。その他、縄文時代早期から中期の土坑やピット、発生時代後期の土器、中世以降と考えられる円形の土坑やピット、近世以降と考えられる区画構や幅切り構とを考えられる溝跡が1条南北に走っている。今回の発掘調査により、大型の掘立柱建物跡の検出など、縄文時代から近世まで連續した緩く当該地域の土地利用をつかひ知ることのできる貴重な資料となつた。	
		古墳時代 ～ 平安時代	住居跡 14軒、掘立柱建物跡 2棟、 ピット列 1条、ピット 4基	土器、須恵器 灰釉陶器、石製品、鉄製品				
		中世以降	溝跡 1条、土坑 6基、 ピット 8基	陶器、磁器、瓦質土器、錢貨				

項目	遺物の取り扱い
水洗い	すべて行った。
注記	手書きによる。例) 201121-22 S K 01- P 1のように注記した。
接合	接合は必要に応じて最小限行った。
実測	遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、検索が可能なように作成している。合計1冊(縦り)
遺物保管方法	出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、収納箱に納めた。各箱には収納内容を明記している。なお、未使用分については種別毎に分類、収納してある。

水戸市埋蔵文化財調査報告第 74 集

渡里町遺跡（第 22 地点）

—集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷 平成 28 年 3 月 31 日

発行 平成 28 年 3 月 31 日

編 集 関東文化財振興会株式会社

発 行 水戸市教育委員会

印 刷 山三印刷株式会社

〒311-4153

茨城県水戸市河和田町 4433-33

TEL 029-252-8481

